

# 土堂小

# の研究



JAPAN HERITAGE

日本遺産

国立教育政策研究所指定  
教育課程研究指定校事業

尾道市教育委員会指定  
尾道教育みらいプラン2の推進に係る支援事業  
(コミュニティ・スクール)

研究主題

**未来を拓く子供の資質・能力を育成する教育の創造**

— 文学的な文章において“問い”を手掛かりに学びを深める対話的な活動の工夫 —  
— 「割合」の意味を理解するための系統的な指導及び授業作りの工夫改善 —



令和2年11月16日(月)  
主催 尾道小学校教育研究会算数科部会  
尾道市立土堂小学校

尾道市立土堂小学校

# 目 次

I	令和2年度土堂小学校スクールプラン	4
II	教育研究計画	
1	研究構想	5
2	研究の概要	6
3	指導・助言者	7
4	研究計画	8
5	資料	
	国語科「問いの系統表」	9
	算数科「割合の系統表」	10
	算数科「分数系統図」	11
	総合的な学習の時間「コンピテンシー表」	12
III	基礎・基本定着のための取組	
1	モジュール授業の原理	13
2	モジュール授業の目標と内容	
3	モジュール授業の系統性	14
4	モジュール授業を共有，発展させるために	
5	フラッシュ教材例「割合」	16
IV	研究の結果と考察（中間）	
1	全国学力・学習状況調査	18
2	質問紙調査	19
V	研究のまとめ（中間）	
1	成果	20
2	課題と今後に向けて	
VI	日 程	22
	会場案内図	24
VII	全体会	
	講演	25
	閉会挨拶	27

## VIII 公開授業 I

### モジュール授業

第1学年	29
第2学年	29
第3学年	30
第4学年	30
第5学年	31
特別支援学級(自閉症・情緒)	32
特別支援学級(難聴)	32

## IX 公開授業 II

### 国語科

第1学年「おとうとねずみ チロ」	35
第2学年「お手紙」	38
第3学年「モチモチの木」	41
第4学年「ごんぎつね」	44
第5学年「注文の多い料理店」	47

### 算数科

第2学年「かけ算(2)」	51
第3学年「分数」	56
第5学年「割合」	60
第6学年「比」	64

### 総合的な学習の時間

第4学年「小路のまち尾道」	69
---------------	----

### 特別支援教育

特別支援学級(自閉症・情緒)「『これな～んだ!』」	74
特別支援学級(難聴)「どうすれば伝わるかな」	78

令和2年度 御指導いただいた先生方・研究同人

## ごあいさつ

土堂っ子太鼓の音が、今朝も尾道の町に響き渡っています。

本日、尾道小学校教育研究会算数科部会との共催にて、本校教育研究発表会を開催できますことに心から感謝申し上げます。

本校は、平成17年度にコミュニティ・スクールの指定を受け、以来、地域とともに歩む学校として、学校運営協議会から示されたミッションステートメント、①基礎・基本を大切にし、確かな学力と健やかな心身を育む学校 ②学ぶ力、遊ぶ力、伝える力、受容する力を育む学校 ③尾道への郷土愛を高める学校 ④地域と保護者が共に育て支える学校-土堂小学校の教育への理解を深め、地域や保護者同士の交流を促進する-の4つを目指す学校像として、日々取り組んでまいりました。

また、文部科学省から教育課程研究指定校事業、尾道市教育委員会から尾道教育みらいプラン2の推進に係る支援事業の指定を受け、未来を拓く子供の資質・能力を育成するための教育の創造に取り組んでまいりました。

特に今年度は、国語科「問いの系統表」、算数科「割合の系統表」「分数の系統図」に基づいた授業実践を積み重ね、児童の振り返りや評価問題から、付けたい力が身に付いているのかを確かめながら授業改善を行っているところです。また、学年の発達段階を踏まえて、深い学びの実現をめざすとともに、全教科、領域を通じて資質・能力を育成するための授業作りに努めてまいりました。その研究成果を今回新たに国語科では「国語科研究のあゆみ」に、算数科では「割合の学習につながる実践事例集（完成版）」にまとめました。

本日、これらの実践の一端を発表いたしますが、私たちの取組は試行錯誤の繰り返しで、日々模索しながら歩んでいるところです。皆様から御指導、御助言をいただき、さらなる改善、発展に向け、一層の努力を重ねてまいります。

終わりにになりましたが、本校の研究推進に温かい御指導、御支援をいただきました多くの先生方に心から感謝を申し上げ、あいさつといたします。

令和2年11月16日

尾道市立土堂小学校

校長 宮本 佳宏

# 令和2年度 コミュニティ・スクール 土堂小学校スクールプラン

教育課程研究指定校(国立教育政策研究所教育課程研究センター)  
尾道教育みらいプラン2の推進に係る支援事業指定校

## 学校教育目標

志を持ち未来を拓く子どもの育成  
【自ら学ぶ】

## ミッションステートメント(学校運営協議会)

- 1 基礎・基本を大切にし、確かな学力と健やかな心身を育む学校
  - 2 学ぶ力、遊ぶ力、伝える力、受容する力を育む学校
  - 3 尾道への郷土愛を高める学校
  - 4 地域と保護者が共に育て支える学校
- 土堂小学校の教育への理解を深め、地域や保護者同士の交流を促進する—

## スクールミッション(尾道市教育委員会)

主体的な学びを牽引する教育活動の発信

知

### 「自ら学ぶ子」

- 学びのための習慣づくりと基礎・基本の定着
- ・ 個に応じた指導、モジュール授業の充実、検定試験への挑戦、家庭学習の定着、タブレットの活用
- 主体的な学習の構築
- ・ 課題発見・解決学習の充実・発信
- ・ 作品募集への応募
- 尾道への郷土愛の育成
- ・ 「総合的な学習の時間」におけるカリキュラムの改善

徳

### 「思いやりのある子」

- 「土堂つ子太鼓」の継承
- マナーの定着と奉仕の精神の涵養
- ・ あいさつの励行
- ・ 主体的な清掃活動
- 道徳実践力の向上
- ・ 道徳授業の充実
- ・ 道徳的環境の整備
- 読書活動の充実
- ・ 朝読書
- ・ 推薦指定図書の数目標冊数及び目標ページ数の読破
- ・ 委員会活動の活性化

体

### 「根気つよくやりぬくたくましい子」

- 体力の向上
- ・ 体育授業における運動量確保
- ・ 外遊びの推奨
- 保健・安全指導の充実
- 保健・安全管理の徹底
- 食育の充実

## 育てようとする資質・能力

【スキル】①課題発見・解決力 ②思考力・判断力・表現力 ③建設的批判能力【意欲・態度】④主体性・積極性 ⑤チャレンジ精神 ⑥責任感【価値観・倫理観】⑦感性 ⑧日本人としてのアイデンティティ ⑨自分への自信

体験的な学習・異学年交流の推進

語彙力の向上

### 教育のプロとしての自覚と誇りをもつ教師

- ・ 「出会い」「きっかけ」「体験」を大切にする教師
- ・ 言葉を大切にする教師 ・ 傾聴できる教師

### 家庭・地域との連携

- ・ 積極的な情報公開・発信
- ・ 地域行事、育友会行事への積極的な参加

## II 教育研究計画

### 1 研究構想

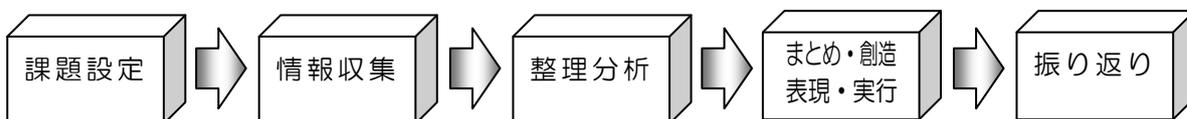
研究主題

未来を拓く子供の資質・能力を育成する教育の創造

—文学的な文章において“問い”を手掛かりに学びを深める対話的な活動の工夫—  
—「割合」の意味を理解するための系統的な指導及び授業作りの工夫改善—

### 課題発見・解決学習

各教科

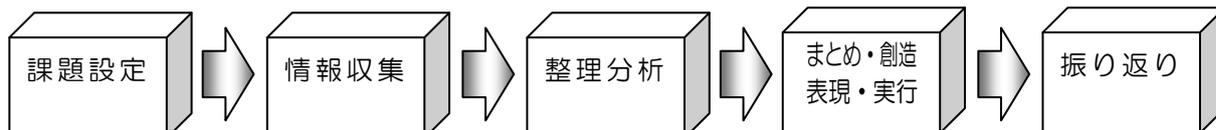


国語科  
「問いの系統表」  
作成・活用・改善

主体的・対話的で深い学びを通した  
より深い知識の習得  
思考力・判断力・表現力等の育成

算数科  
「割合の系統表」  
「分数系統図」  
活用・改善

総合的な学習の時間



各教科で習得した力を活用し、仲間と協働して、最善解を創造

資質・能力の育成

### 課題発見・解決学習

基礎的・基本的な学習習慣の定着

モジュール授業

家庭での学習習慣の定着

家庭学習

## 2 研究の概要

### (1) 研究主題・副題

#### 未来を拓く子供の資質・能力を育成する教育の創造

—文学的な文章において“問い”を手掛かりに学びを深める対話的な活動の工夫—  
—「割合」の意味を理解するための系統的な指導及び授業作りの工夫改善—

### (2) 研究主題の設定理由

21世紀はグローバル化が一層進み、多様な価値観、自分とは異なる文化や習慣に根付いた人々と、正解のない課題や経験したことのない課題を解決していかなければならない「多文化共生」の時代へと向かっていく。このような時代を生きる子供達は、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考したり、協力・協働したりしながら課題を解決することで、新たな価値を生み出し、社会に貢献していくことがより一層求められていく。

本校では、これまで、課題発見・解決学習のための単元開発や基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるための学ぶ習慣づくりについて研究をしてきた。

令和元年度は、算数科の割合の学習につながる系統表を作成し、立式の説明に焦点化して研究を進めていき、「割合の学習につながる実践事例集（暫定版）」を作成した。さらに、適用問題の在り方についても、実践を通して、効果的であった内容やそうでなかった内容を整理した。全学年においては、割合の学習の系統性を意識した学習指導案を作成し、授業研究を公開した。国語科では、文学的文章における児童の“問い”をもとにした授業作りの研究を進めることで、学習者基点の学びにつながり、児童が物語を読む面白さに気付くことができたり、“問い”を精査したりすることができた。

しかし、算数科においては、まだまだ1時間の授業の中で児童が身に付けた力を適切に評価するための適用問題の開発には課題があった。国語科においては、児童の考えた“問い”を単元や授業作りにどのように活かすかや、対話的な活動を効果的に仕組むことに課題があった。

そこで、令和2年度は、算数科では、引き続き図のかき方の指導と立式した理由を説明する活動や適用問題の開発を重点として研究を進め、「割合の学習につながる実践事例集」の完成を目指す。また国語科の授業において、児童の文学的教材に対する“問い”の質を高め、読む力を育成することと、児童の対話的な活動の在り方を研究し、深い学びを実現していく必要があると考えた。

また、昨年度に引き続き国語科と算数科の各部会が、学校全体の研修計画に基づいて、部会で研究計画を立て、PDCA サイクルに則った研究推進を行う。その中で、教科固有の見方や考え方、資質・能力に関する理論研究と実践研究を推進し、学校全体で定期的に交流し合う。このことで、児童の変容に基づいて検証し、記録し、次年度へつなぐ体制づくりを行う。

研究主題を「未来を拓く子供の資質・能力を育成する教育の創造—文学的な文章において“問い”を手掛かりに学びを深める対話的な活動の工夫—「割合」の意味を理解するための系統的な指導及び授業作りの工夫改善—」とし、単元開発や教科固有の見方・考え方について研究することを通して、主体的・対話的で、深い学びの実現を目指すこととする。

### (3) 研究のねらい

- 資質・能力を育成する。
- 主体的・協働的に学ぶ児童を育成する。
- 基礎的・基本的な力を付け、基礎的な知識の定着を図る。

#### (4) 研究仮説

基礎的・基本的な学習習慣の定着を図り，国語科・算数科，総合的な学習の時間において，課題発見・解決学習のための授業づくりを行うことで，主体的・対話的で，深い学びを実現することができるであろう。

#### (5) 研究内容（研究の方向）

- 教科のカリキュラム開発と評価，検証を中心に単元開発を進める。
- 基礎的・基本的な力を付けたり，意欲を高めるためのモジュール授業の工夫を行ったりして，基礎的な知識の定着を図る。
- PDCA 検証部会を設け，学校全体としての研究の方向性を共有しながら，PDCA サイクルに基づいた単元ごとの検証と改善を行い，単元の質の向上を図るとともに国語科や算数科における資質・能力の系統表を見直し，その効果を検証する。
- 割合の意味を理解するための系統的な指導及び授業作りの工夫を行い，適用問題の開発を行う。また，「割合の学習につながる実践事例集（完成版）」を作成し，研究の成果を県内外に発信する。
- 国語科の文学的教材における児童の“問い”の質を高め，読む力を育成するための指導や対話的な活動の工夫を行う。

#### (6) 検証の指標

	指標	達成目標	検証時期	検証方法
成果指標 *本県の指標を参考にすること	総合学力テストにおける正答率	全国平均 + 10	令和2年12月 令和3年1月	総合学力テストを利用
	全国学力・学習状況調査における正答率	県平均 + 12 (国語) 県平均 + 12 (算数)	令和2年9月 令和3年2月	全国学力・学習状況調査問題を利用
	「基礎・基本」定着状況調査等の質問紙調査の肯定率	肯定的回答 75%以上	令和2年7月 令和2年2月	「基礎・基本」定着状況調査質問紙を利用

### 3 指導・助言者

氏名	所属・職名等	備考
笠井 健一	文部科学省・国立教育政策研究所・教育課程調査官	
林 武広	比治山大学・比治山大学短期大学部・副学長 広島大学・名誉教授	
河野 智文	福岡教育大学・教授	
岩田 耕司	福岡教育大学・准教授	
兼永 正彦	広島県東部教育事務所・指導主事	
大矢 純一	尾道市教育委員会・指導主事	
才谷 瑛一	尾道市教育委員会・指導主事	
井桁 陽介	広島県立尾道特別支援学校・教育相談主任	
新林 美穂	広島県立尾道特別支援学校・教育相談主任・地域支援部長	

#### 4 研究計画

月 日	研 修 内 容	講 師
4 3日(金)	研究構想について モジュール授業について 実践事例集(完成版)作成に向けて	
7 2日(木)	授業研究①算数科	
8日(水)	授業研究②特別支援教育	井桁先生(尾道特別支援学校)
14日(火)	授業研究③国語科	河野教授(福岡教育大学)
17日(金)	授業研究④算数科	岩田准教授(福岡教育大学)
8 7日(金)	1学期の反省 教育研究会に向けて	河野教授(福岡教育大学) 岩田准教授(福岡教育大学) 新林先生(尾道特別支援学校) 井桁先生(尾道特別支援学校)
31日(月)	研究会指導案提出 紀要【具体的な取組】提出	
9 14日(月)	授業研究⑤算数科	笠井先生(文部科学省)
18日(金)	紀要【成果と課題】提出	
11 16日(月)	教育研究会	笠井先生(文部科学省) 河野教授(福岡教育大学) 岩田准教授(福岡教育大学) 新林先生(尾道特別支援学校) 井桁先生(尾道特別支援学校)
18日(水)	P D C A 検証部会 教育研究会反省	
12 1日(火)	5年「割合」検証実施	
15日(火)	学力定着実態調査(1~5年)	
1 8日(金) 29日(金)	総合学力テスト(6年) 2・6年目研(田邊・赤羽・中村)	
3 5日(金)	P D C A 検証部会 来年度研究について	

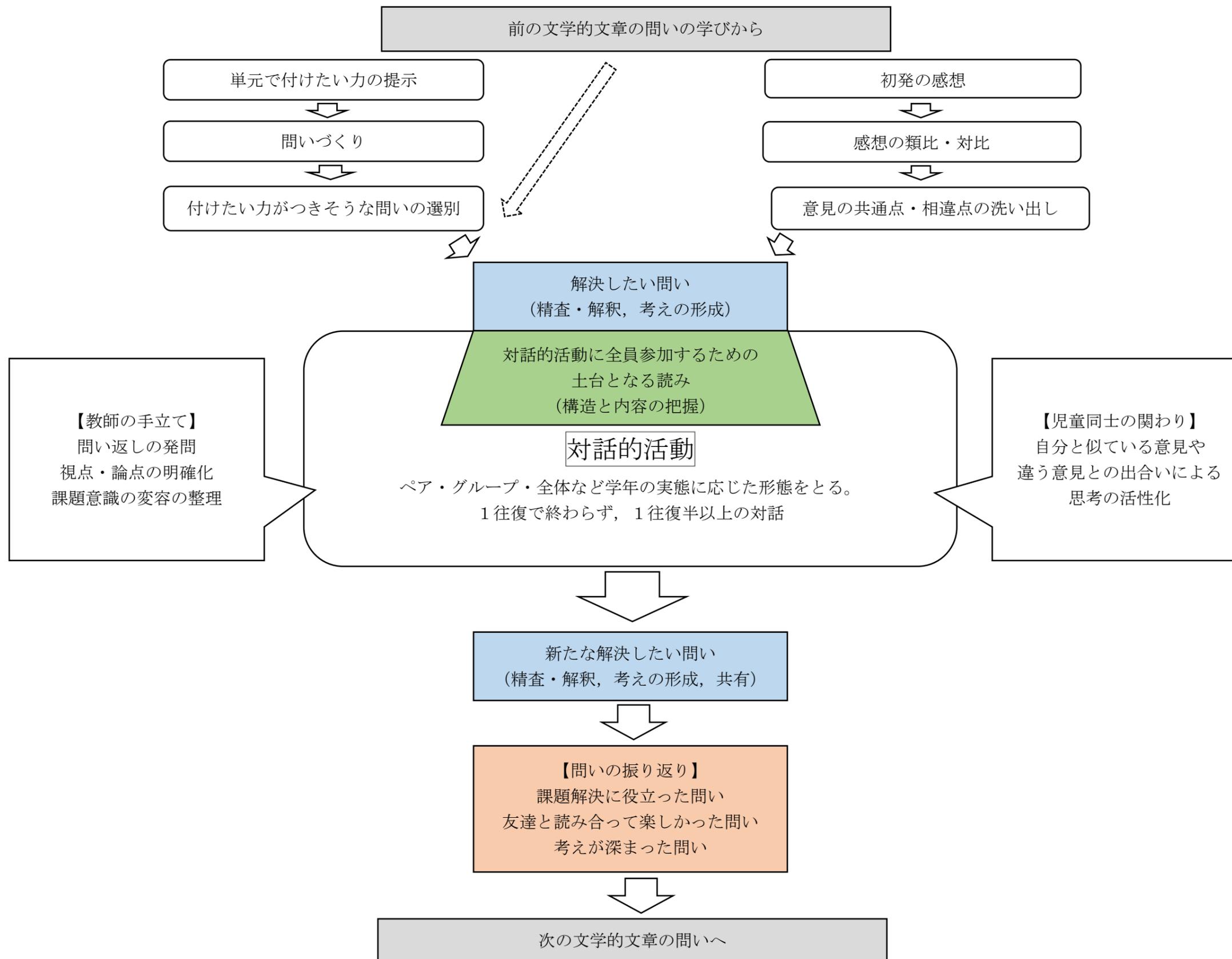
# 国語科 文学的な文章における問いの系統 令和2年度版

	1年「おとうとねずみ チロ」	2年「かきこじぞう」	3年「サーカスのライオン」	4年「ごんぎつね」	5年「注文の多い料理店」	6年「海のいのち」
構造と内容の把握	<b>場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。</b>		<b>登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。</b>		<b>登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物はだれ。(I)</li> <li>この絵は何をしているところだろう。(I)</li> <li>にいさんねずみ、ねえさんねずみ、チロは何と言ったか。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物はだれ。(I)</li> <li>じいさま(ばあさま)は、何をしたのか。(I)</li> <li>じいさま(ばあさま)は何を言ったのか。(I)</li> <li>これは、何場面の絵だろう。(I)</li> <li>「かきこじぞう」という題からどんなお話だと思ったか。(I)</li> <li>これまで読んだことのある昔話と似ているところがあるか。(II)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心となる人物は誰だろう。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物、中心人物は誰だろう。(I)</li> <li>○場面の兵十は、どんな気持ちだっただろう。(I)</li> <li>ごんはどんな子ぎつねだろう。兵十はどんな人だろう。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>しんし達はどんな人なんだろう。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主と太一は、どのような関係か。(I)</li> <li>父は、どのような人物か。(I)</li> <li>太一の父への憧れは、どのようなものか。(I)</li> <li>与吉じいさまは、どのような人物か。(I)</li> <li>与吉じいさまのことを太一はどう思っていたか。(I)</li> <li>太一のことを、母はどう思っていたか。(I)</li> <li>主を前にした時に、太一はどんな気持ちだったのか。(I)</li> </ul>
精査・解釈	<b>場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</b>		<b>登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する。</b>		<b>人物像や物語どの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>どうしてにいさんねずみとねえさんねずみは意地悪なことを言ったのだろう。(I)</li> <li>声がとんでいったのがふしぎだな。(I)</li> <li>どうしてじつと耳をすましていたのかな。(I)</li> <li>どうして、もう一度ゆっくり「あ、りが、と、う。」と言ったのかな。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>じいさまがじぞうさまにかさをかぶせているとき、どんな表情だっただろう。どのように語りかけていたのだろう。どんな様子だっただろう。(I)</li> <li>じぞうさまは、なぜ、食べ物もってきたのだろう。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ、じんぎは嫌いなチョコレートを受け取ったのか。(I)</li> <li>「ウォーツ」は、どう読んだらよいか。(VI)</li> <li>なぜ、じんぎは気持ちが変化したと思うか。(I)</li> <li>サーカスのおしまいの日に、じんぎがいないのに、ライオンの曲芸をしたのは、なぜか。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>兵十のごんに対する気持ちはどう変わっただろう。(I)</li> <li>兵十の気持ちがわかる言葉は何だろう。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>しんし達がたくさんの注文をおかしいと思いはじめたのはいつだろう。(I)</li> <li>しんし達を食べようとしていたのは何だろう。(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>太一がクエを殺さなかったのはなぜか。(IV)</li> <li>太一は一人前の漁師か、それとも一人前ではないのか。(V)</li> <li>太一は誰のおかげで一人前の漁師になれたのだろう。(I)</li> <li>自分だったら、クエを刺すだろうか。(V VI)</li> <li>太一が海の主を刺さなかったことに、賛成か、反対か。(VVI)</li> <li>他の作品でも、葛藤が描かれているのか。(II III)</li> </ul>
考えの形成	<b>文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。</b>		<b>文章を読んで理解したことを基に、感想や考えをもつこと。</b>		<b>文章を読んで理解したことを基に、自分の考えをまとめること。</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>この行動をした○○をどう思うかな。(V)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「お正月さん」と「さん」がついているのは、なぜだろうか。(IV)</li> <li>ばあさまがじいさまに怒らないのは、なぜだろうか。(V)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちが変化したじんぎをどう思うか。(VVI)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語を読んで、登場人物のどんなところに感動しただろう。(V)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ猫は人間を食べようとしたのか。(III V)</li> <li>なぜしんしはこんな怖い目に合ったのか。(III V)</li> <li>なぜしんしは最後に顔がもともどらなかつたのか。(III V)</li> <li>この作品で宮沢賢治は何を伝えたかったのだろう。(IIIIV)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この作品の主題は何か。(I)</li> <li>この作品の魅力は何か。(I)</li> <li>「海の命」の意味とは何か。(I)</li> <li>友達、この作品の魅力をどう感じているか。(VI)</li> </ul>
共有	<b>文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。</b>		<b>文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。</b>		<b>文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達はその行動をした○○をどう思ったのだろう。(VI)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の読んだ昔話の面白さとは、何だろうか。(II)</li> <li>友達は、どのような昔話の面白さを見つけたのだろうか。(VI)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品を通して何を伝えたかったのだろう。(II VI)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最後の場面のごんと兵十はどんな気持ちだっただろう。(I V)</li> <li>感想を話し合いたい。(VVI)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ猫は人間を食べようとしたのか。(III V)</li> <li>なぜしんしはこんな怖い目に合ったのか。(III V)</li> <li>なぜしんしは最後に顔がもともどらなかつたのか。(III V)</li> <li>この作品で宮沢賢治は何を伝えたかったのだろう。(IIIIV)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分だったらクエを刺すだろうか。(VVI)</li> <li>太一が海の主を刺さなかったことをどう思うか。(VVI)</li> </ul>

問いの層 I：作品の中の問い II：作品と別作品とを関わらせた問い III：作品と作者とを関わらせた問い  
 IV：作品と（時代）情景・状況とを関わらせた問い V：作品と読み手（自分自身）とを関わらせた問い  
 VI：読み手と他の読み手とを関わらせた問い

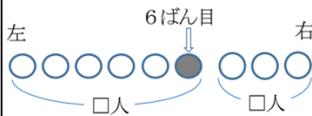
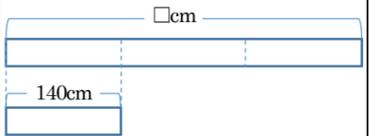
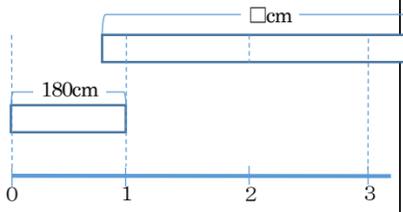
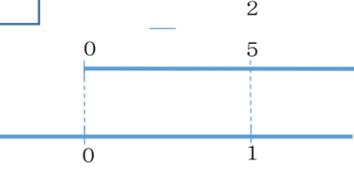
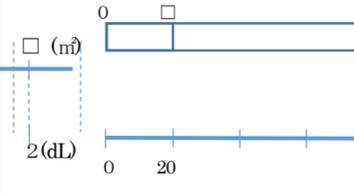
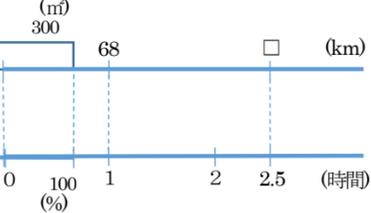
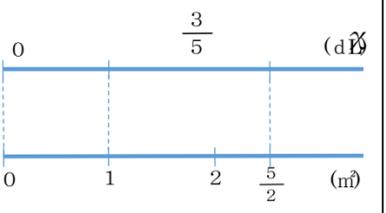
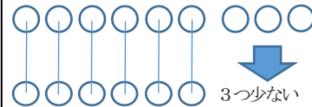
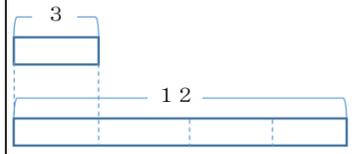
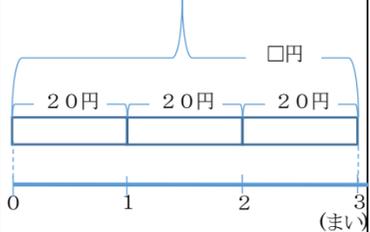
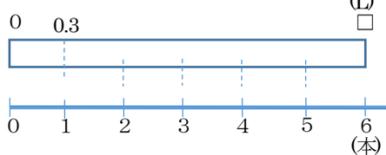
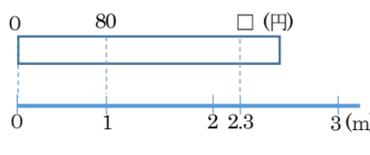
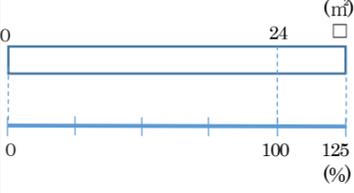
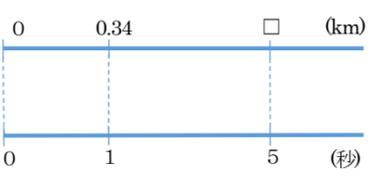
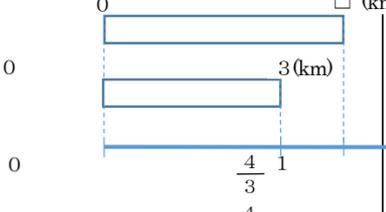
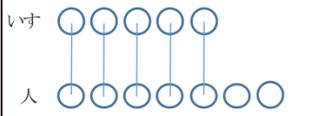
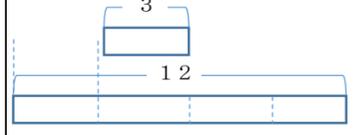
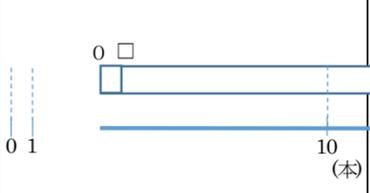
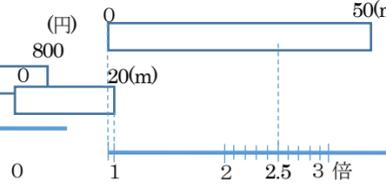
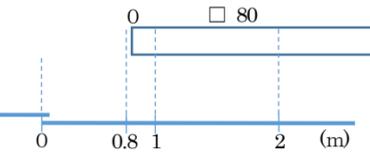
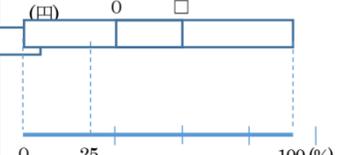
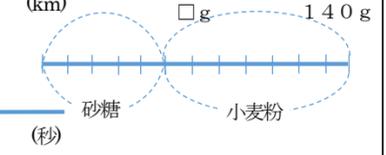
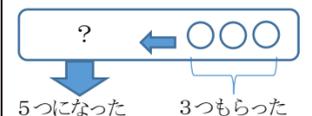
問いは学年で大きな違いはない。違うのは、教材の難しさと考える深さ、関係性。

# “問い”を手掛かりに学びを深める活動の流れイメージ図



土堂小学校版！ 算数科「思考力・表現力」の系統表 —割合の学習につながる立式の系統性に着目して—

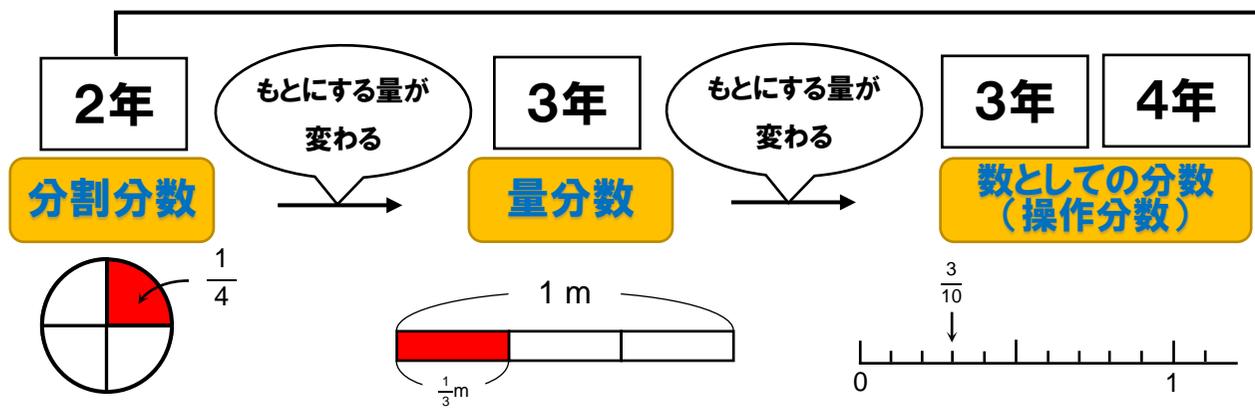
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生		
めやす資質・能力	日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力							
	問題場面を適切に表して演算決定する力	「1つ分の数×(いくつ分)」や「何倍か」を用いて、全体の大きさを考える力	「1つ分」を「もとにする大きさ(1つ分, 1倍)」として捉え、わり算を用いて、何倍かを考える力 かけ算を用いて、倍の大きさを考える力	「いくつ分」から「割合の見方」で倍を捉える力 「割合の見方」を用いて、かけ算になる理由を説明する力	かけ算を用いて、小数倍の大きさを考える力 基準量や比較量が小数のときも、わり算を用いて、何倍かを考える力 基準量・比較量・割合の関係を捉える力	「割合の見方」を用いて、身の回りの事象を捉え、見通しをもち筋道を立てて考える力		
めやす説明の姿(3年生以上はわり算)	数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力							
	ブロック操作やまる図等で、式の意味や立式した理由を表現する力	テープ図・比例テープ図で、かけ算で立式した理由を説明する力	比例テープ図・比例数直線で、わり算やかけ算で立式した理由を説明する力	比例数直線で、「割合の見方」でわり算やかけ算で立式した理由を説明する力	比例数直線や線分図等で、「割合の見方」で小数倍などの立式した理由を説明する力 図を用いて、基準量・比較量・割合の関係を説明する力	比例数直線・線分図等で、「割合の見方」を用いて立式した理由を説明する力		
	<p><b>たしざん</b></p> <p>あめが6つあって、ガムの数あめより3つ多いので、6+3をして答えは9つです。(求大)</p> <p><b>たしざん</b></p> <p>まえの人は、わたしを入れて6人で、わたしのうしろの人は3人なので、6+3で9人です。(順序数を含む加法)</p> <p><b>ひきざん</b></p> <p>あめとガムを1つずつ比べます。すると3つちがいます。だから、9-6=3で、あめが3つ多いです。(求差)</p>	<p><b>A2 かけ算(1)</b></p> <p>3cmが1つ分で、その2つ分だから3×2です。</p> <p><b>1つ分を意識</b></p>	<p><b>A3 わり算</b></p> <p>36mは4つ分で、その1つ分にあたる(もとにする)大きさを求めるので36÷4です。</p> <p><b>「1つ分」=「もとにする大きさ」を求める(等分除)</b></p>	<p><b>A4 小数÷整数</b></p> <p>7.3mを5としたとき、1にあたる数を求めるので7.3÷5です。</p> <p><b>「もと=1つ分」から「割合の見方」へ</b></p>	<p><b>A5 整数÷小数</b></p> <p>4mを0.8としたとき、1にあたる数を求めるので4÷0.8です。</p> <p><b>「割合の見方」を小数で(基準量)</b></p>	<p><b>A5 割合</b></p> <p>60㎡を20(0.2)としたとき、100(1)にあたる数を求めるので60÷0.2です。</p> <p><b>基準量を求める(第3用法)</b></p>	<p><b>A5 速さ</b></p> <p>170kmを2.5としたとき、1にあたる数を求めるので170÷2.5です。</p> <p><b>速さを求める(基準量)</b></p>	<p><b>A6 分数÷分数</b></p> <p>2/5㎡を3/4としたとき、1にあたる数を求めるので2/5÷3/4です。</p> <p><b>基準量を求める</b></p>
	<p><b>B2 かけ算(1)</b></p> <p>3が1倍で、4倍はその4つ分だから3×4です。</p> <p><b>「倍」を意識</b></p>	<p><b>B3 わり算、テープ作り</b></p> <p>1つ分にあたる(もとにする)大きさが9cmで、いくつ分かを求めるので36÷9です。</p> <p><b>「もとにする大きさ」の「いくつ分」を求める(包含除)</b></p>	<p><b>B4 小数÷整数、倍の計算</b></p> <p>2mを1としたとき、13.5mにあたる数を求めるので13.5÷2です。</p> <p><b>「いくつ分」から「割合の見方」へ</b></p>	<p><b>B5 整数÷小数</b></p> <p>2.4Lを1としたとき、8.4Lにあたる数を求めるので8.4÷2.4です。</p> <p><b>「割合の見方」を小数で(倍, 割合)</b></p>	<p><b>B5 割合</b></p> <p>300㎡を100(1)としたとき、60㎡にあたる数を求めるので60÷300です。</p> <p><b>割合を求める(第1用法)</b></p>	<p><b>B5 速さ</b></p> <p>68kmを1としたとき、170kmにあたる数を求めるので170÷68です。</p> <p><b>時間を求める(倍, 割合)</b></p>	<p><b>B6 分数÷分数</b></p> <p>3/5㎡を1としたとき、4/5㎡にあたる数を求めるので3/5÷4/5です。</p> <p><b>倍, 割合を求める</b></p>	

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	5年生	6年生	
めざす説明の姿 (2年生以上はかけ算)	<b>ひきざん</b>  左ひる人は、わたしを入れて6人で、全員で9人だから、わたしの右ひる人は9-6で、3人です。 (順序数を含む減法)	<b>C2 かけ算(1)</b>  3cmが1つ分で、その2つ分だから3×2です。	<b>C3 かけ算の筆算</b>  長いなわの長さは、短いなわの長さをもとにすると3つ分だから、140×3です。	<b>C4 倍の計算</b>  180cmを1としたとき、3にあたる長さを求めるので、180×3です。	<b>C5 分数×整数</b>  2/5を1としたとき、2にあたる大きさを求めるので、2/5×2です。	<b>C5 割合</b>  300㎡を100(1)としたとき、20(0.2)にあたる数を求めるので300×0.2です。	<b>C5 速さ</b>  68kmを1としたとき、2.5にあたる大きさを求めるので68×2.5です。	<b>C6 分数×分数</b>  3/5dLを1としたとき、5/2にあたる大きさを求めるので3/5×5/2です。
	<b>ひきざん</b>  あめは9つで、ガムはあめより3つ少ないので、9-3をして答えは6つです。 (求小)	<b>D2 かけ算(1)</b>  3が1倍で、4倍はその4つ分だから3×4で12です。	<b>D3 かけ算の筆算</b>  1つ分の値段をもとにすると全部の代金は3倍だから、20×3です。	<b>D4 小数×整数</b>  0.3Lを1としたとき、6にあたる大きさを求めているので、0.3×6です。	<b>D5 整数×帯小数</b>  80を1としたとき、2.3にあたる大きさを求めるので、80×2.3です。	<b>D5 割合</b>  24を100(1)としたとき、125(1.25)にあたる大きさを求めるので、24×1.25です。	<b>D5 速さのまとめ</b>  0.34kmを1としたとき、5にあたる大きさを求めるので、0.34×5です。	<b>D6 整数×分数</b>  3kmを1としたとき、4/3にあたる大きさを求めるので、3×4/3をして3です。
	<b>ひきざん</b>  1人が1つずつおしこむので、5人おしこまれます。だから、おしこまない人は、7-5で2人です。(異種のものの数量を含む減法)	<b>E2 かけ算(1)</b>  3が1倍で、4倍はその4つ分だから3×4で12です。	<b>E3 □を使った式</b>  1本分の値段を□とすると、□がもとなので、全部の代金はその10倍だから、□×10=800です。	<b>E4 整数×帯小数</b>  20mを1としたとき、2.5にあたる大きさを求めるので20×2.5です。	<b>E5 整数×純小数</b>  80を1としたとき、0.8にあたる大きさを求めるので80×0.8です。	<b>E5 割合</b>  24㎡を100(1)としたとき、25(0.25)にあたる数を求めるので24×0.25です。	<b>E5 速さのまとめ</b>  60kmを1としたとき、1/3にあたる大きさを求めるので、60×1/3です。	<b>E6 比とその利用</b>  砂糖と小麦粉の重さの比は5:7。砂糖の重さは、小麦粉の重さを1としたときの5にあたります。だから、140×5/7です。
<b>ひきざん</b>  あめを3つもらったら全部で5つになったので、はじめの数は5-3をして2こです。 (増加前推論, 2年)	<b>「倍」を意識</b>	<b>「1倍」=「もとにする大きさ」を使って求める</b>	<b>「割合の見方」へ</b>	<b>帯小数倍へ(比較量)(2.5, 1.5)</b>	<b>純小数倍へ(比較量)(0.8)</b>	<b>百分率へ(比較量)(0.25)</b>	<b>道のりを求める(比較量)</b>	<b>「割合の見方」で</b>

参考: みんなと学ぶ小学校算数(学校図書) 新しい算数(東京書籍)



# 分数の系統図(土堂小学校)



もとする量を1としたときの比べられる量の割合を表す。

Bを1としたとき、Aは $\frac{2}{3}$ にあたるよ。

これまでに学習した整数倍、小数倍をもとに、分数倍を指導する。その際、 $\frac{4}{3}$ 倍は「もとの大きさを1としたときの $\frac{4}{3}$ にあたる大きさ」であることや「もとの大きさを3等分した大きさの4つ分の大きさ」であることをおさえる。分数を用いると、小数倍では正確に表せない場合でも、倍を表すことのできるよさに気付かせる。

分数の意味	もとする量が任意であり、具体物を等分割したもののいくつか分を表す。	もとする量が1mや1Lといった普遍的な基本単位であり、測定した量の大きさを表す。	もとする量が数の「1」であり、1を等分割したもののいくつか分を表す。
子供の姿	<p>ピザを4等分した1つ分の大きさをピザの<math>\frac{1}{4}</math>というよ。</p>	<p>1mを3等分した1つ分の長さを<math>\frac{1}{3}</math>mというよ。 1Lを3等分した1つ分のかさを<math>\frac{1}{3}</math>Lというよ。</p>	<p>1を10等分した3つ分の大きさを<math>\frac{3}{10}</math>というよ。0.3と同じ大きさだ。1を6等分した1つ分が<math>\frac{1}{6}</math>で、それが7つ分だと<math>\frac{7}{6}</math>だ。</p>
指導のポイント	具体物を半分にするなど、具体物を操作することによって、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{8}$ などの大きさをつくり、等分の意味をおさえる。また、もとの大きさとその $\frac{1}{2}$ の大きさや $\frac{1}{4}$ の大きさなどを比べ、その観察を通して、乗法や除法の素地となる見方を指導する。さらに、もとする大きさが変われば、同じ $\frac{1}{4}$ でも大きさが異なることをおさえる。	1mのテープなどの具体物を操作することによって、 $\frac{1}{2}$ m、 $\frac{1}{3}$ m、 $\frac{2}{3}$ mなどの具体的な量を表すことができることを指導する。分割分数としての $\frac{1}{3}$ はたくさんあるが、量分数としての $\frac{1}{3}$ mは1つしかないことや、分割分数はもとの大きさを超えないが、量分数は1mや1Lを超える大きさが存在することをおさえる。	1を10等分した1つ分の大きさが $\frac{1}{10}$ であり、0.1と等しい大きさであることを指導する。また、「 $\frac{3}{10}$ は $\frac{1}{10}$ の3つ分」など単位分数のいくつかで数えたり、表したりすることを大切にする。また、1を10等分した目盛りで $\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{5}$ の位置を考えることなどを通して、数としての分数はもとする量が常に数としての1であることをおさえる。

整数の除法の結果(商)を表す。

$2 \div 3 = \frac{2}{3}$ と表すことができるよ。  
小数ではわり切れないけれど、分数だと正確に表せるよ。

2Lの牛乳を1人~5人で分けたときの1人分を考え、3人で分けたときに商が0.666...となって割り切れないことから、分数を用いた表し方を考える。その際、量分数の学習を振り返り、もとする量は1Lでなければならないことをおさえる。

※ 本系統図は、福岡教育大学・准教授・岩田耕司氏の指導のもと、以下の文献をもとに作成している。  
 ・文部科学省(2018).『小学校学習指導要領解説(平成29年告示)算数編』, 日本文教出版, pp.245-246.  
 ・山村翔(2017).『算数科における系統的な分数指導の研究』, 福岡教育大学卒業論文(未公開).

自分に身に付いてきた「コンピテンシー」(資質や能力)を振り返ろう。( )学期 年 組 番 名前( )

	活動内容		活動内容
①		⑨	
②		⑩	
③		⑪	
④		⑫	
⑤		⑬	
⑥		⑭	
⑦		⑮	
⑧		⑯	

あてはまるところだけ印を付けましょう。よくできた◎ できた○ あまり△ ※全部に○, △, ×を付けなくていいです。

コンピテンシー		活動番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
スキル																		
いよく・たいど 意欲・態度																		
かちかん 価値観 りんりかん 倫理観																		
ちしき 知識																		

付けたい力, なりたい姿(すがた)

	がんばったこと, 成長してきていることなど	もっと～してみたいこと, 次の目標など
①		
②		
③		
④		

⑤		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		
⑪		
⑫		
⑬		
⑭		
⑮		
⑯		

### Ⅲ 基礎・基本定着のための取組

#### モジュール授業

##### 1 モジュール授業の原理

モジュール授業では、児童に「基礎的・基本的な知識・技能」を習得させるための「読み・書き・計算」を中心とした徹底反復学習を行っている。高速で音読したり単純な計算を繰り返したりする徹底反復学習を行うことにより、脳の活性化が図られる。その結果、児童の学習能力が高まると考える。そのため、児童が集中して徹底反復学習に取り組むことができるように「スピード・テンポ・タイミング・個へのアプローチ」をキーワードとして指導の工夫を行っている。スピード感を保ちつつ、テンポ・タイミング良く教材を提示するツールとして、情報機器を活用している。

##### 2 モジュール授業の目標と内容

モジュール授業は、国語科・算数科・その他の教科等の内容を、それぞれ 15 分間のユニットとして指導している。主な指導内容として、次に示すものがあげられる。

国 語 科	<p><b>(音読)</b> 名文やリズムのある作品を音読することで、基礎となる音読する力や読解を助ける力を身に付けさせる。</p> <p><b>(辞書引き)</b> 語彙能力の向上を図るために、辞書引き月間(9月)を設定して、集中して辞書引きに取り組んでいる。発達段階を考慮し、低学年ではルビ入りの国語辞典を使用している。</p> <p><b>(漢字の前倒し学習)</b> 漢字習得率の向上を図るため、年度初めに新出漢字を前倒しして指導し、その後、漢字の反復学習を実施する。</p> <p><b>(聞き取り)</b> 文学的文章や説明的文章等を聞き取り、正しく聞き取る力やメモを取り、聞き取ったことをまとめる力を身に付けさせる。</p>	<p><b>(フラッシュ)</b> 各教科・各学年に応じた内容を練習し、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。また、当該学年だけでなく、前学年までの内容を繰り返し練習したり、確認したりすることで定着率を高める。</p> <p>【国語科】 文法、ローマ字、言語事項など</p> <p>【算数科】 計算、図形など</p> <p>【社会科】 地図記号、都道府県、歴史、世界の国々など</p> <p>【理科】 実験器具、理科学語など</p> <p>【外国語活動】 数、色、食べ物など</p>
算 数 科	<p><b>(ます計算)</b> ます計算に取り組むことで、算数科の基礎となる計算力の向上を図る。</p> <p><b>(そろばん)</b> 低学年において、数感覚を養ったり、数と計算の意味について理解させたりするために、そろばんを指導している。</p>	
そ の 他 の 教 科	<p><b>(カルタ)</b> 都道府県や歴史など各学年に応じた内容を練習し、教科における基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。</p> <p><b>(外国語活動)</b> 英語のジングルやチャンツを利用し、様々な単語や英語の発音などに慣れ親しませる。</p>	

### 3 モジュール授業の系統性

年度初めに各学年の音読・算数・その他の分野におけるめざす姿や数値を設定した。目標を意識しながら、児童の実態に合わせて指導を進めていくことができる考える。

	低学年	中学年	高学年
音読	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい姿勢，口形</li> <li>はっきりと，正しく読む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい口形</li> <li>内容を考えて読む (強弱・抑揚・間等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい口形，伝わる声</li> <li>内容を考えて読む (強弱・抑揚・間等)</li> </ul>
算数 計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>そろばんに慣れ親しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位換算 ・数量関係</li> <li>量のイメージ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位換算 ・算数用語の定義</li> <li>数量関係 ・量のイメージ</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中して，より速く，正確に解ける</li> <li>自分の目標をもって取り組む→タイム・解いた問題数を記録していく</li> </ul>		
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語に慣れ親しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会・理科の重要用語の徹底</li> <li>英単語を発音したり，聞き取ったりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会・理科の重要用語の徹底</li> <li>英語で簡単な会話をしたり，英文を書いたりする</li> </ul>

#### 【1年】

10ます足し算	10ます引き算	50ます足し算	100ます足し算
10秒	10秒	1分	3分

#### 【2年】

100ます足し算	100ます引き算	10ますかけ算	100ますかけ算
2分	2分30秒	15秒	2分

#### 【3年】

100ますかけ算	A型50問わり算	A型100問わり算	B型50問わり算	B型100問わり算
2分	1分30分	3分	3分	5分

#### 【4年】

A型50問わり算	A型100問わり算	B型50問わり算	B型100問わり算	C型100問わり算
2分	3分	3分	4分30秒	5分

#### 【5年】

C型100問わり算
4分

#### 【6年】

C型100問わり算
3分

### 4 モジュール授業を共有，発展させるために

児童の実態に応じたモジュール教材の改善・開発を行った。作成した教材を一つのフォルダに集めて共有化し，どの学年の指導者も，当該学年だけでなくその他の学年の内容を確認したり，活用したりできるようにしている。そうすることで，新出した内容だけでなく，既習事項の内容を確認することができたり，計画的・系統的に進めたりすることができる考える。

## 例【6年】

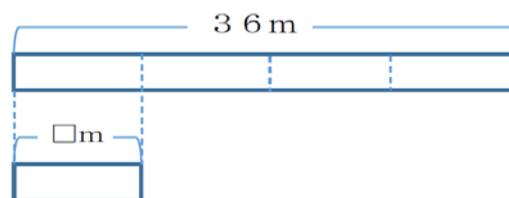
	国語的内容	算数的内容	外国語	社会・理科
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>【漢字】</li> <li>・全漢字</li> <li>・リズム漢字</li> <li>【音読】</li> <li>・雨二モマケズ</li> <li>・平家物語</li> <li>・論語</li> <li>・春暁</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・慣用句・敬語</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【プリント】</li> <li>・100問わり算</li> <li>・通分, 約数</li> <li>・分数のかけ算, わり算</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・対称, 倍数, 約数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ジングル】</li> <li>・アルファベット</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・国</li> <li>・色</li> <li>・教科</li> <li>【プリント】</li> <li>・I'm from (America).</li> <li>・My favorite color is (red).</li> <li>・My favorite subject is (Japanese).</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(社)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・歴史(人物, 事件)</li> <li>・世界遺産</li> <li>【歴史カルタ】</li> <li>(理)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・道具</li> <li>・実験用語</li> <li>・体のつくり</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>【フラッシュ】</li> <li>・慣用句, 敬語, 熟語の構成</li> <li>【音読】</li> <li>・雨二モマケズ</li> <li>・平家物語</li> <li>・論語</li> <li>・春暁</li> <li>【聞き取り】</li> <li>・説明文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【プリント】</li> <li>・100問わり算</li> <li>・通分, 約数</li> <li>・分数のかけ算, わり算</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・文字と式</li> <li>・逆数</li> <li>・単位換算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ジングル】</li> <li>・国</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・国</li> <li>・行事</li> <li>【プリント】</li> <li>・Welcome to (America).</li> <li>・You can enjoy (tempura) .</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(社)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・歴史(人物, 事件)</li> <li>・世界遺産</li> <li>【歴史カルタ】</li> <li>(理)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・道具</li> <li>・実験用語</li> <li>・体のつくり</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>【フラッシュ】</li> <li>・慣用句, 敬語, 熟語の構成</li> <li>【音読】</li> <li>・雨二モマケズ</li> <li>・平家物語</li> <li>・論語</li> <li>・春暁</li> <li>【聞き取り】</li> <li>・説明文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【プリント】</li> <li>・100問わり算</li> <li>・通分, 約数</li> <li>・分数のかけ算, わり算</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・割合</li> <li>・文字と式</li> <li>・逆数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ジングル】</li> <li>・食べ物</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・国</li> <li>・食べ物</li> <li>【プリント】</li> <li>・Welcome to (America).</li> <li>・You can enjoy (tempura) .</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(社)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・歴史(人物, 事件)</li> <li>・世界遺産</li> <li>【歴史カルタ】</li> <li>(理)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・道具</li> <li>・実験用語</li> <li>・体のつくり</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>【フラッシュ】</li> <li>・慣用句, 敬語, 熟語の構成</li> <li>【音読】</li> <li>・雨二モマケズ</li> <li>・平家物語</li> <li>・論語</li> <li>・春暁</li> <li>【聞き取り】</li> <li>・説明文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【プリント】</li> <li>・100問わり算</li> <li>・通分, 約数</li> <li>・分数のかけ算, わり算</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・割合</li> <li>・図形の面積</li> <li>・逆数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ジングル】</li> <li>・動物</li> <li>・アルファベット</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・身の周りのもの</li> <li>・動作</li> <li>【プリント】</li> <li>・I want (a new recorder).</li> <li>・I can (swim)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(社)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・歴史(人物, 事件)</li> <li>・世界遺産</li> <li>【歴史カルタ】</li> <li>(理)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・道具</li> <li>・実験用語</li> <li>・体のつくり</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>【フラッシュ】</li> <li>・和語, 漢語, 外来語の由来</li> <li>・接尾語, 対義語</li> <li>【音読】</li> <li>・平家物語</li> <li>・論語</li> <li>・春暁</li> <li>・徒然草</li> <li>・孫子</li> <li>【聞き取り】</li> <li>・新聞記事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【プリント】</li> <li>・100問わり算</li> <li>・通分, 約数</li> <li>・分数のかけ算, わり算</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・速さ</li> <li>・体積</li> <li>・比</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ジングル】</li> <li>・動物</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・公共施設</li> <li>・動作</li> <li>【プリント】</li> <li>・We have a (library.)</li> <li>・We can enjoy (fishing.)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(社)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・歴史(戦争～戦後)</li> <li>・日本国憲法</li> <li>【歴史カルタ】</li> <li>(理)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・道具</li> <li>・実験用語</li> <li>・体のつくり</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>【フラッシュ】</li> <li>・和語, 漢語, 外来語の由来</li> <li>・接尾語, 対義語</li> <li>【音読】</li> <li>・平家物語</li> <li>・論語</li> <li>・春暁</li> <li>・徒然草</li> <li>・孫子</li> <li>【聞き取り】</li> <li>・新聞記事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【プリント】</li> <li>・100問わり算</li> <li>・通分, 約数</li> <li>・分数のかけ算, わり算</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・比</li> <li>・体積</li> <li>・単位換算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ジングル】</li> <li>・アルファベット</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・場所</li> <li>・動作</li> <li>【プリント】</li> <li>・We have a (school.)</li> <li>・I enjoyed (fishing.)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(社)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・歴史(戦争～戦後)</li> <li>・日本国憲法</li> <li>【歴史カルタ】</li> <li>(理)</li> <li>【フラッシュ】</li> <li>・道具</li> <li>・実験用語</li> <li>・体のつくり</li> </ul>

5 割合に関するフラッシュ教材例

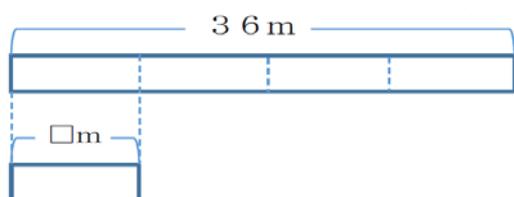
① 基準量を求める

# 4年生

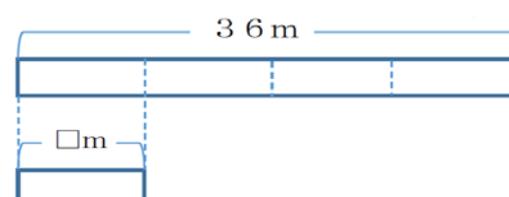
36mのロープがあります。4つに等しく分けると、1つ分の長さは何mでしょうか。



式の理由を説明しましょう。



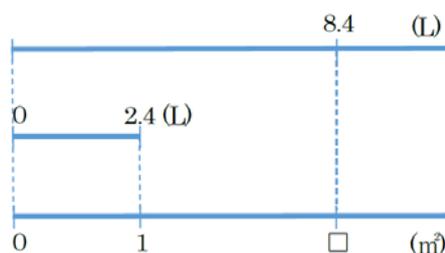
36mは  分で、その  分にあたる(もとにする)大きさを求めるので  $36 \div 4$  です。



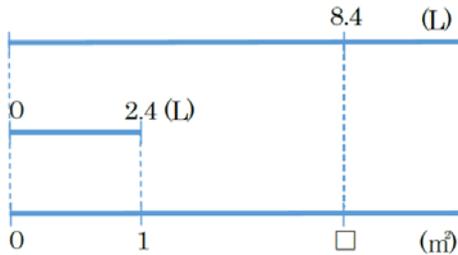
② 割合を求める

# 5年生

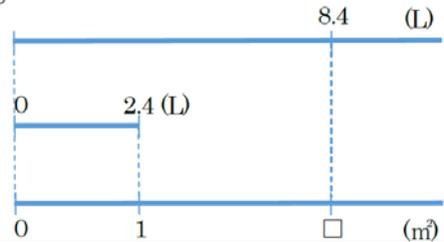
1㎡に2.4Lの水をまきます。8.4Lの水では、何㎡にまくことができますか。



式の理由を説明しましょう。



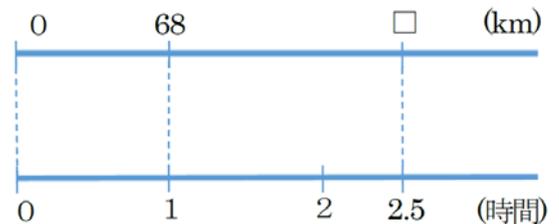
2.4L を ■ としたとき、 ■ にあたる数を求めるので  $8.4 \div 2.4$  です。



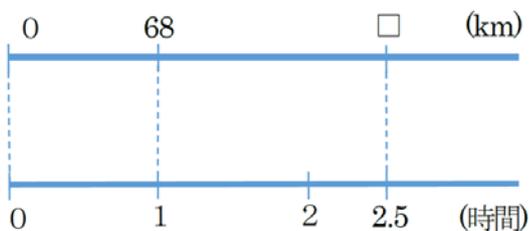
③ 比較量を求める

# 6年生

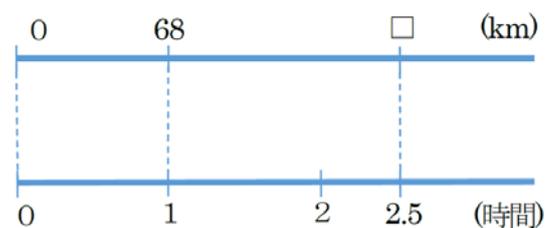
時速68kmの車があります。  
2.5時間走ると、何km走るでしょうか。



式の理由を説明しましょう。



68を ■ としたとき、 ■ にあたる数を求めるので、 $68 \times 2.5$  です。



## IV 研究の結果と考察（中間）

※新型コロナウイルス感染症の影響により未実施のため、昨年度までの結果を掲載しています。

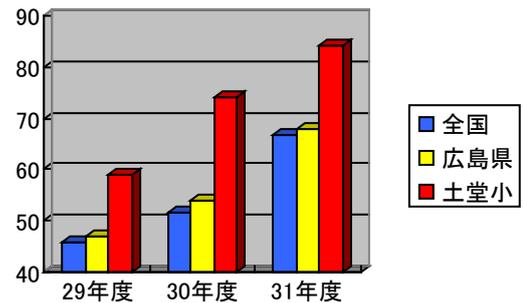
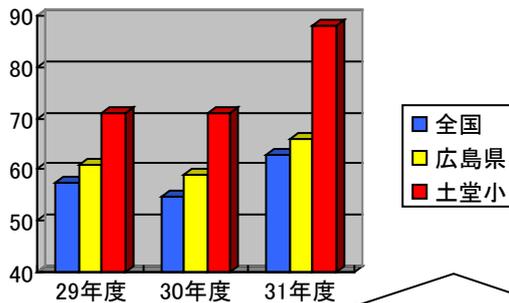
### 1 全国学力・学習状況調査(平均正答率) —第6学年—

国語の平均正答率 (%)

	29年度	30年度	31年度
全国	57.5	54.7	63.8
広島県	61.0	59.0	66.0
土堂小	72.0	71.0	88.0
全国との差	+14.5	+16.3	+24.2

算数の平均正答率 (%)

	29年度	30年度	31年度
全国	45.9	51.5	66.6
広島県	47.0	54.0	68.0
土堂小	59.0	74.0	84.0
全国との差	+13.1	+22.5	+17.4



※ 昨年度まで国語 A と国語 B, 算数 A と算数 B に分かれていたため、H29年度と H30 年度の結果は B 問題の結果を載せています。

### 全国学力・学習状況調査について

全国平均に比べると国語科で 24 ポイント以上、算数科で 17 ポイント以上上回ることができた。「知識」「活用」ともおおむね定着が図られていると捉える。本校の目標（県平均+12）を達成することができた。

教科	課題	今後の取組
国語	①目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>条件をつけたり、説明文での大切な言葉を使ったりして書く練習をする。</li> <li>テストなど記述問題で文末表現を意識させる。</li> </ul>
	②図表やグラフなどを用いた目的を捉えること。何のための図・グラフなのか読み取ること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語や、総合的な学習の時間など、資料を使う時、意味を考えながらまとめる活動を仕組む。</li> </ul>
	③文の中で漢字を正しく使うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語のみではなく、文章の中で漢字が正しく使えるように練習する。習った漢字は使うようにする。</li> </ul>
算数	①示された減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめることとなるのかを書くこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数の言葉を用いて自分の考えをまとめたり説明したりする活動を取り入れる。</li> <li>学習の振り返り等で、友達の考え方を解釈したことを、自分の言葉でまとめる。</li> </ul>
	②単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味理解に課題がある。→ (人数) ÷ (面積) の商が、何を求めているか理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>式の意味を理解させるために、図に表して式の意味を説明させる。言葉の式に整理し、求めている商について説明させる。</li> </ul>
	③2つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>理由を説明する際に、具体的な数を使ったり、立式を用いたりさせる。</li> </ul>

## 2 質問紙調査

(13)～(27)は、平成28年度「基礎・基本」定着状況調査 児童質問紙調査票から「学びの革新」パイロット校事業の検証に用いる質問事項(13)～(27)を抜粋したものである。

No	質問項目	県5年	本校6年	本校5年	本校4年	本校3年	本校平均	県との差 本校平均と
13	授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。	80.7	88.1	82.9	79.6	90	85.1	+4.4
14	授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないか」と予想しています。	84.4	92.9	93.6	88.9	81.5	89.2	+4.8
15	授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。	50.4	88.1	74.5	70.3	81.5	78.6	+28.2
16	授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。	59.6	92.9	72.3	79.6	81.5	81.5	+21.9
17	授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	72.6	90.5	70.2	70.3	96.2	81.8	+9.2
18	授業では、情報を、比べたり(比較)、仲間分けしたり(分類)、関係を見つめたり(関係付け)して、何が分かるのかを考えています。	73.6	88.1	76.6	70.3	79.9	78.7	+5.1
19	授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	64.4	83.3	70.2	70.3	75.9	74.9	+10.5
20	授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	66.6	83.3	76.6	72.2	70.3	75.6	+9
21	授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組んでいます。	70.8	90.5	80.9	74.1	70.3	78.9	+8.1
22	学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。	70	83.3	85.1	83.3	74.1	81.4	+11.4
23	学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	74.3	78.6	80.9	81.5	83.3	81	+6.7
24	ふだんの生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っています。	81	92.9	76.6	79.6	83.3	83.1	+2.1
25	授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	79.4	92.9	80.9	72.2	87	83.2	+3.8
26	授業では、実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したりするなどの体験活動をしています。	70.3	90.5	70.2	72.2	88.9	80.4	+10.1
27	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。	69	83.3	63.8	75.9	75.9	74.7	+5.7
	平均	71.1	87.9	77	76	81.3	80.5	+9.4

## V 研究のまとめ（中間）

### 1 成果

#### 成果① 児童の資質・能力を高める課題発見・解決学習のための授業づくり

今年度も、昨年度の反省を踏まえ、実践した開発単元の見直しを図り、これまで開発した単元を改善する形で授業実践を行った。総合的な学習の時間のみならず、教科においても育成したい資質・能力や課題発見・解決学習の探究のプロセスを明確にした単元開発を行い、導入の工夫や他教科との関連を図るなどして、児童の学習意欲を高めながら、授業を行うことができた。質問紙調査の結果からみても高い成果を挙げていると考える。

#### 成果② 児童の資質・能力育成のための系統表をもとにした授業づくり

本校で設定した資質・能力のうち、とりわけ「思考力・表現力」の系統表において、より具体的な実践を積み重ねている。国語科では、「問いの系統表」、算数科では、「割合の系統表」と「分数の系統図」を活用した授業作りに取り組み、昨年度の反省を踏まえて授業改善できた場面もあった。系統表のゴールイメージに向けて、段階的に力を積み重ねることができ、児童が考えたり、自分の考えを友達に説明したりするという力につながっていると考えられる。また、1時間の授業や単元における児童の目指す姿を具体的にイメージすることにつながることができた。

#### 成果③ 児童の確かな学力の定着につながった学習習慣の確立

学ぶ習慣づくりのために、モジュール授業、家庭学習、その他様々な取組を行った。モジュール授業の取組においては、今年度で18年目を迎えた。音読や聞き取り、まず計算など、学習の基礎・基本の定着を図り、インプットしたことをアウトプットする習慣を身に付けさせるために、全学年、全職員で継続して取り組んできたことが、児童の確かな力へとつながっている。今年度も、算数科「割合」の単元のモジュール教材を3年生以上の学年で実施と活用することができた。また、モジュール授業に関わる研修や開発、実施等の工夫が充実したことも成果の大きな要因である。

### 2 課題と今後に向けて

#### 課題と今後に向けて① 児童の資質・能力の育成

単元開発や改善を図ってきたが、今後の課題となったのは、質問紙調査の結果から「自分の考えを積極的に伝える」と「調べたことを発表する学習活動」に関する質問項目に課題が見られた。各教科を通して、友達と話したくなるような授業作りに取り組み、昨今の社会情勢を踏まえながら、可能な限り調べたことを発信する場を設定したい。また、児童の深い学びのために教材研究や理論研修を行ってきたが、児童の実態、そして目指す児童の姿を明確にして取り組んでいきたい。

#### 課題と今後に向けて② 資質・能力の系統表と検証

国語科においては、「問い」をもとに、叙述や言葉にこだわって読むことができる児童や出た意見の共通点や相違点から考えを深めることができる児童の育成を目指していきたい。算数科においては、図が児童にとって説明のための道具として機能することを目指していきたい。

# VI 日程

# VI 日 程

13:00 13:20 13:35 13:45 14:30 14:45 15:30 15:40 16:35 16:40

受付	公開授業 モジュール授業	移動・休憩	公開授業 総合的な学習の時間 特別支援教育 算数科 国語科	移動・休憩	公開授業 算数科	移動・休憩	講演	閉会行事
----	-----------------	-------	---	-------	-------------	-------	----	------

## 公開授業 I (モジュール授業) (13:20~13:35)

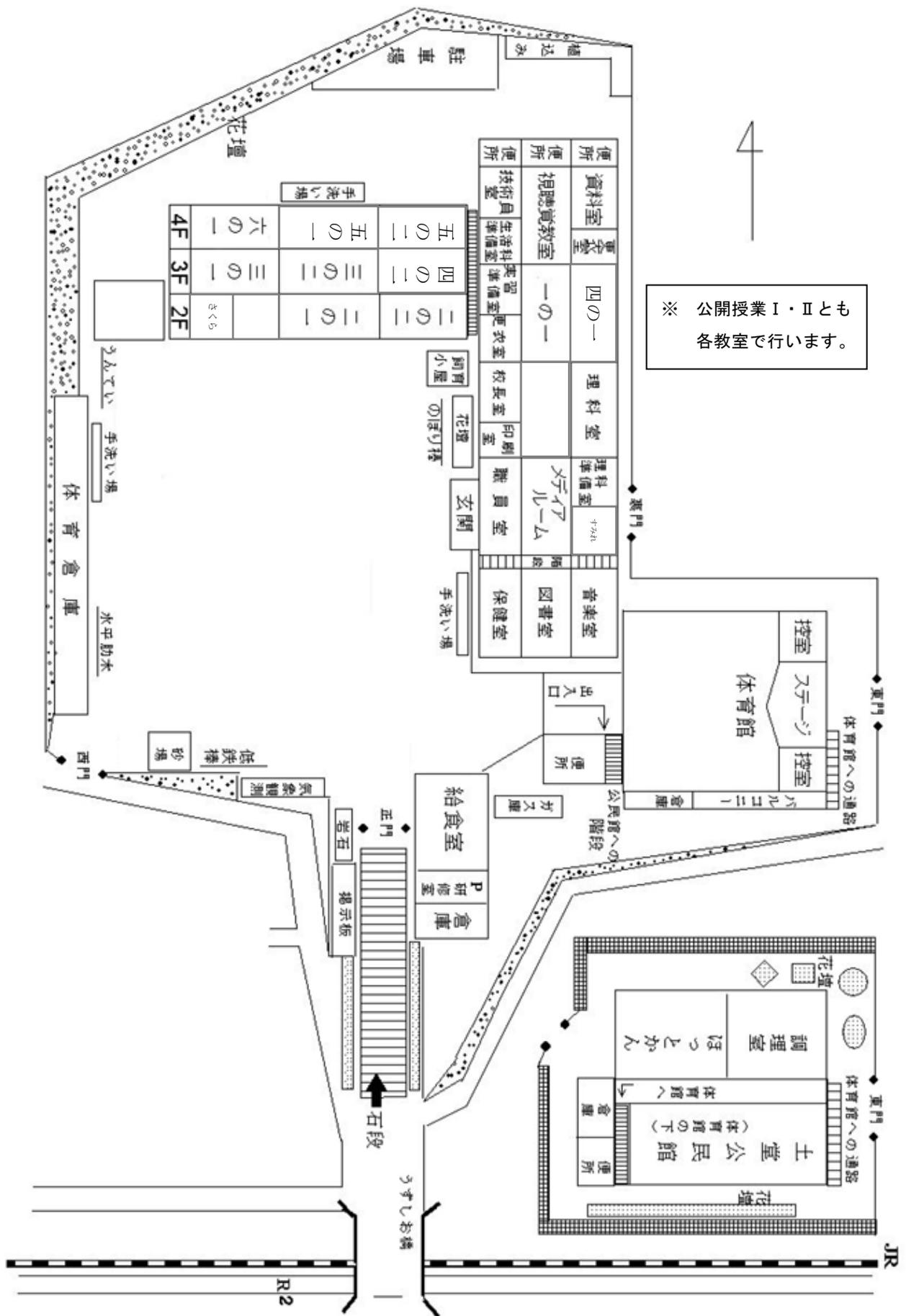
内 容	公開学年	授業者	会 場
<p style="text-align: center;"><b>モジュール授業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音読，暗唱，漢字，聞き取り</li> <li>・ ます計算，フラッシュ</li> <li>・ 歴史，外国語活動 など</li> </ul>	1年1組	綿貫 岳人	1年1組 教室
	2年1組	赤羽 夏美	2年1組 教室
	2年2組	豊岡 宏望	2年2組 教室
	3年1組	重光 泰徳	3年1組 教室
	3年2組	萬代 早紀	3年2組 教室
	4年1組	池田 翔太	4年1組 教室
	4年2組	灰垣亜希子	4年2組 教室
	5年1組	亀本 拓朗	5年1組 教室
	5年2組	谷川 友弥	5年2組 教室
	特別支援学級 (自閉症・情緒)	黒飛 美稲	さくら 学級教室
特別支援学級 (難聴)	田邊日向子	すみれ 学級教室	

**公開授業Ⅱ (国語科・算数科・総合的な学習の時間・特別支援教育) (13:45～14:30)**

公開学年	教科領域名	単元・題材名	授業者	会場
1年1組	国語科	おとうとねずみ チロ	綿貫 岳人	1年1組教室
2年1組	国語科	お手紙	赤羽 夏美	2年1組教室
2年2組	算数科	かけ算(2)	豊岡 宏望	2年2組教室
3年1組	算数科	分数	重光 泰徳	3年1組教室
3年2組	国語科	モチモチの木	萬代 早紀	3年2組教室
4年1組	総合的な 学習の時間	小路のまち尾道	池田 翔太	4年1組教室
4年2組	国語科	ごんぎつね	灰垣 亜希子	4年2組教室
5年1組	国語科	注文の多い料理店	亀本 拓朗	5年1組教室
5年2組	算数科	割合	谷川 友弥	5年2組教室
特別支援学級 (自閉症・情緒)	自立活動	「これな～んだ！」	黒飛 美稲	さくら 学級教室
特別支援学級 (難聴)	自立活動	どうすれば伝わるかな	田邊 日向子	すみれ 学級教室

**公開授業Ⅲ (算数科) (14:45～15:30)**

公開学年	教科領域名	単元・題材名	授業者	会場
6年1組	算数科	比	菅方 賢司	体育館



※ 公開授業 I・IIとも各教室で行います。

## 講演

(15:40～16:35)

---



「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と学習評価」

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部  
教育課程調査官 笠井 健一 先生

# MEMO

---

閉会行事

(16:35~16:40)

---

閉会挨拶

尾道市立土堂小学校 校長 宮本 佳宏

# **VIII 公開授業 I**

学年	内容 (教科)	指導者	教室														
1年1組	音読, 視写, 聞き取り (国語科)	綿貫 岳人	1年1組														
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">国語科</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <b>【ねらい】</b>            正しい姿勢・口形で音読したり, 大事なことを意識して聞き取ったりする態度を育てる。  <b>【児童の実態】</b>            元気よく音読することはできるが, 大事なことを落とさず聞くことが難しい児童がいる。         </td> </tr> <tr> <td>1 音読</td> <td>留意点</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お口の体操</li> <li>・早口言葉</li> </ul> </td> <td rowspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音</li> <li>・放浪記</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2 フラッシュ</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○拍を取り, テンポよく進められるようにする。</li> <li>○タイミングよく児童を評価し, 児童の意欲を高めるようにする。</li> <li>○形態を工夫し, 集中して音読やフラッシュに取り組ませる。</li> <li>○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カタカナ</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>3 聞き取り</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul> </td> <td></td> </tr> </table>				国語科		<b>【ねらい】</b> 正しい姿勢・口形で音読したり, 大事なことを意識して聞き取ったりする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 元気よく音読することはできるが, 大事なことを落とさず聞くことが難しい児童がいる。		1 音読	留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お口の体操</li> <li>・早口言葉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音</li> <li>・放浪記</li> </ul>	2 フラッシュ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○拍を取り, テンポよく進められるようにする。</li> <li>○タイミングよく児童を評価し, 児童の意欲を高めるようにする。</li> <li>○形態を工夫し, 集中して音読やフラッシュに取り組ませる。</li> <li>○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カタカナ</li> </ul>	3 聞き取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul>	
国語科																	
<b>【ねらい】</b> 正しい姿勢・口形で音読したり, 大事なことを意識して聞き取ったりする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 元気よく音読することはできるが, 大事なことを落とさず聞くことが難しい児童がいる。																	
1 音読	留意点																
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お口の体操</li> <li>・早口言葉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音</li> <li>・放浪記</li> </ul>																
2 フラッシュ		<ul style="list-style-type: none"> <li>○拍を取り, テンポよく進められるようにする。</li> <li>○タイミングよく児童を評価し, 児童の意欲を高めるようにする。</li> <li>○形態を工夫し, 集中して音読やフラッシュに取り組ませる。</li> <li>○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。</li> </ul>															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カタカナ</li> </ul>																	
3 聞き取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul>																

学年	内容 (教科)	指導者	教室												
2年1組	音読, 視写, 聞き取り (国語科)	赤羽 夏美	2年1組												
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">国語科</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <b>【ねらい】</b>            正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。  <b>【児童の実態】</b>            テンポよく楽しんで音読することはできるが, 正しい姿勢や集中は持続しにくい。         </td> </tr> <tr> <td>1 音読</td> <td>留意点</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音</li> <li>・早口言葉</li> <li>・わたしまん</li> <li>・ことばのけいこ</li> </ul> </td> <td rowspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。</li> <li>○制限時間を設けることで, 集中して書くことができるようにする。</li> <li>○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2 視写</td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>3 聞き取り</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul> </td> </tr> </table>				国語科		<b>【ねらい】</b> 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> テンポよく楽しんで音読することはできるが, 正しい姿勢や集中は持続しにくい。		1 音読	留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音</li> <li>・早口言葉</li> <li>・わたしまん</li> <li>・ことばのけいこ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。</li> <li>○制限時間を設けることで, 集中して書くことができるようにする。</li> <li>○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。</li> </ul>	2 視写	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音</li> </ul>	3 聞き取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul>
国語科															
<b>【ねらい】</b> 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> テンポよく楽しんで音読することはできるが, 正しい姿勢や集中は持続しにくい。															
1 音読	留意点														
<ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音</li> <li>・早口言葉</li> <li>・わたしまん</li> <li>・ことばのけいこ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。</li> <li>○制限時間を設けることで, 集中して書くことができるようにする。</li> <li>○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。</li> </ul>														
2 視写		<ul style="list-style-type: none"> <li>・五十音</li> </ul>													
3 聞き取り			<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章</li> </ul>												

学年	内容 (教科)	指導者	教室										
2年2組	計算プリント, フラッシュ (算数科)	豊岡 宏望	2年2組										
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">国語科</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <b>【ねらい】</b>            集中して, 速く, 正確に計算する力を育てる。  <b>【児童の実態】</b>            計算を正確に解ける児童は多いが, 制限時間内に解ききることができない児童もいる。         </td> </tr> <tr> <td>1 計算プリント</td> <td>留意点</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算</li> </ul> </td> <td rowspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○制限時間を設けることで, 集中して計算することができるようにする。</li> <li>○正解数やタイムを記録していくことで, 自分の伸びを実感したり目標をもったりできるようにする。</li> <li>○全体で行った後に個で取り組ませることで, 支援の必要な児童に考え方をつかませた上で, 習熟度を確かめる。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2 フラッシュ</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算</li> </ul> </td> </tr> </table>				国語科		<b>【ねらい】</b> 集中して, 速く, 正確に計算する力を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 計算を正確に解ける児童は多いが, 制限時間内に解ききることができない児童もいる。		1 計算プリント	留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○制限時間を設けることで, 集中して計算することができるようにする。</li> <li>○正解数やタイムを記録していくことで, 自分の伸びを実感したり目標をもったりできるようにする。</li> <li>○全体で行った後に個で取り組ませることで, 支援の必要な児童に考え方をつかませた上で, 習熟度を確かめる。</li> </ul>	2 フラッシュ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算</li> </ul>
国語科													
<b>【ねらい】</b> 集中して, 速く, 正確に計算する力を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 計算を正確に解ける児童は多いが, 制限時間内に解ききることができない児童もいる。													
1 計算プリント	留意点												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○制限時間を設けることで, 集中して計算することができるようにする。</li> <li>○正解数やタイムを記録していくことで, 自分の伸びを実感したり目標をもったりできるようにする。</li> <li>○全体で行った後に個で取り組ませることで, 支援の必要な児童に考え方をつかませた上で, 習熟度を確かめる。</li> </ul>												
2 フラッシュ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算</li> </ul>											

学年	内容 (教科)	指導者	教室
----	---------	-----	----

3年1組	プリント, フラッシュ (社会科)	重光 泰徳	3年1組								
<table border="1"> <tr> <td>社会科</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <b>【ねらい】</b>            目標をもって学習に取り組み, 地図記号や八方位への理解を深めようとする態度を育てる。  <b>【児童の実態】</b>            地図記号は定着してきているが, 八方位を答えるのに時間を要する児童がいる。         </td> </tr> <tr> <td>1 四方位・八方位・地図記号プリント</td> <td>留意点</td> </tr> <tr> <td>2 フラッシュ ・四方位・八方位 ・地図記号</td> <td>           ○前回のタイムをふり返らせることで, 意欲的に取り組ませる。            ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組ませる。         </td> </tr> </table>				社会科		<b>【ねらい】</b> 目標をもって学習に取り組み, 地図記号や八方位への理解を深めようとする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 地図記号は定着してきているが, 八方位を答えるのに時間を要する児童がいる。		1 四方位・八方位・地図記号プリント	留意点	2 フラッシュ ・四方位・八方位 ・地図記号	○前回のタイムをふり返らせることで, 意欲的に取り組ませる。 ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組ませる。
社会科											
<b>【ねらい】</b> 目標をもって学習に取り組み, 地図記号や八方位への理解を深めようとする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> 地図記号は定着してきているが, 八方位を答えるのに時間を要する児童がいる。											
1 四方位・八方位・地図記号プリント	留意点										
2 フラッシュ ・四方位・八方位 ・地図記号	○前回のタイムをふり返らせることで, 意欲的に取り組ませる。 ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組ませる。										

学年	内容 (教科)	指導者	教室										
3年2組	Jingle, Flash, Writing (外国語)	萬代 早紀	3年2組										
<table border="1"> <tr> <td>国語科</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <b>【ねらい】</b>            英語の音声に親しむとともに, 英語の歌やゲームなどの活動を楽しもうとする。  <b>【児童の実態】</b>            大きな声で発音したり歌ったりする姿が見られ, 意欲的である。         </td> </tr> <tr> <td>1 Jingle ・ Foods</td> <td>留意点</td> </tr> <tr> <td>2 Flash ・ How are you? ・ How many? ・ What color do you like?</td> <td>           ○発音の難しい単語は繰り返し言わせる。            ○テンポよくフラッシュを提示する。            ○制限時間を設けることで, 集中して書くことができるようにする。         </td> </tr> <tr> <td>3 Writing ・ Alphabet</td> <td></td> </tr> </table>				国語科		<b>【ねらい】</b> 英語の音声に親しむとともに, 英語の歌やゲームなどの活動を楽しもうとする。 <b>【児童の実態】</b> 大きな声で発音したり歌ったりする姿が見られ, 意欲的である。		1 Jingle ・ Foods	留意点	2 Flash ・ How are you? ・ How many? ・ What color do you like?	○発音の難しい単語は繰り返し言わせる。 ○テンポよくフラッシュを提示する。 ○制限時間を設けることで, 集中して書くことができるようにする。	3 Writing ・ Alphabet	
国語科													
<b>【ねらい】</b> 英語の音声に親しむとともに, 英語の歌やゲームなどの活動を楽しもうとする。 <b>【児童の実態】</b> 大きな声で発音したり歌ったりする姿が見られ, 意欲的である。													
1 Jingle ・ Foods	留意点												
2 Flash ・ How are you? ・ How many? ・ What color do you like?	○発音の難しい単語は繰り返し言わせる。 ○テンポよくフラッシュを提示する。 ○制限時間を設けることで, 集中して書くことができるようにする。												
3 Writing ・ Alphabet													

学年	内容 (教科)	指導者	教室										
4年1組	音読, 視写, 聞き取り (国語科)	池田 翔太	4年1組										
<table border="1"> <tr> <td>国語科</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <b>【ねらい】</b>            正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。  <b>【児童の実態】</b>            テンポよく楽しんで活動する児童が多いが, 正しい姿勢や集中が持続しにくい児童もいる。         </td> </tr> <tr> <td>1 音読 ・ 五十音 ・ 落葉松</td> <td>留意点</td> </tr> <tr> <td>2 フラッシュ ・ ローマ字</td> <td rowspan="3">           ○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。            ○姿勢を保ってテンポ良く進められるようにする。            ○制限時間を設けることで, 集中して書くことができるようにする。            ○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。         </td> </tr> <tr> <td>3 視写 ・ 学問のすゝめ</td> </tr> <tr> <td>4 聞き取り ・ 説明的文章</td> </tr> </table>				国語科		<b>【ねらい】</b> 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> テンポよく楽しんで活動する児童が多いが, 正しい姿勢や集中が持続しにくい児童もいる。		1 音読 ・ 五十音 ・ 落葉松	留意点	2 フラッシュ ・ ローマ字	○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○姿勢を保ってテンポ良く進められるようにする。 ○制限時間を設けることで, 集中して書くことができるようにする。 ○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。	3 視写 ・ 学問のすゝめ	4 聞き取り ・ 説明的文章
国語科													
<b>【ねらい】</b> 正しい姿勢・口形で音読したり, キーワードを意識して聞き取ったりする態度を育てる。 <b>【児童の実態】</b> テンポよく楽しんで活動する児童が多いが, 正しい姿勢や集中が持続しにくい児童もいる。													
1 音読 ・ 五十音 ・ 落葉松	留意点												
2 フラッシュ ・ ローマ字	○カスタネットで拍を取り, テンポを保って進められるようにする。 ○姿勢を保ってテンポ良く進められるようにする。 ○制限時間を設けることで, 集中して書くことができるようにする。 ○大事なことは何かを確かめ, 聞き取りの力を高める。												
3 視写 ・ 学問のすゝめ													
4 聞き取り ・ 説明的文章													
学年	内容 (教科)	指導者	教室										
4年2組	フラッシュ, 計算プリント (算数科)	灰垣 亜希子	4年2組										

算数科	
<b>【ねらい】</b> 集中して計算しようとする態度を育てるとともに、数・測定の知識を定着させる。 <b>【児童の実態】</b> 集中して取り組むことや割り算を計算する速さに個人差がある。	
1	フラッシュ ・四捨五入 ・長さ・かさ ・分数
2	プリント ・100問わり算
留意点 ○フラッシュは、テンポよく提示し、しっかり声を出させる。 ○前回のタイムをふり返らせることで、意欲的に取り組ませる。 ○最後まで集中して計算できるように、時間を区切って取り組ませる。	

学年	内容（教科）	指導者	教室										
5年1組	音読, フラッシュ（国語科）	亀本 拓朗	5年1組										
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">国語科</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <b>【ねらい】</b>            正しい姿勢・口形で音読したり、故事成語の意味について理解したりすることができる。  <b>【児童の実態】</b>            テンポよく音読することはできるが、はっきりとした発音をすることが難しい。         </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>           音読 伊勢物語・方丈記            学問のすすめ            平家物語         </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>           フラッシュ            ・漢字の由来            ・故事成語         </td> </tr> <tr> <td colspan="2">           留意点            ○無駄な指導言を省き、テンポ良く進める。            ○活動の流れが途切れないように評価する。            ○1人で答えることと全員で答えることを組み合わせ、集中力が持続するようにする。         </td> </tr> </table>				国語科		<b>【ねらい】</b> 正しい姿勢・口形で音読したり、故事成語の意味について理解したりすることができる。 <b>【児童の実態】</b> テンポよく音読することはできるが、はっきりとした発音をすることが難しい。		1	音読 伊勢物語・方丈記 学問のすすめ 平家物語	2	フラッシュ ・漢字の由来 ・故事成語	留意点 ○無駄な指導言を省き、テンポ良く進める。 ○活動の流れが途切れないように評価する。 ○1人で答えることと全員で答えることを組み合わせ、集中力が持続するようにする。	
国語科													
<b>【ねらい】</b> 正しい姿勢・口形で音読したり、故事成語の意味について理解したりすることができる。 <b>【児童の実態】</b> テンポよく音読することはできるが、はっきりとした発音をすることが難しい。													
1	音読 伊勢物語・方丈記 学問のすすめ 平家物語												
2	フラッシュ ・漢字の由来 ・故事成語												
留意点 ○無駄な指導言を省き、テンポ良く進める。 ○活動の流れが途切れないように評価する。 ○1人で答えることと全員で答えることを組み合わせ、集中力が持続するようにする。													

学年	内容（教科）	指導者	教室										
5年2組	100問割り算, 割合, 単位換算フラッシュ（算数科）	谷川 友弥	5年2組										
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">国語科</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <b>【ねらい】</b>            集中して計算する態度や割合に関する数量、量と測定の見方・考え方を育てる。  <b>【児童の実態】</b>            あまりのある除法の計算に時間がかかる児童がいる。         </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>100問割り算</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>           フラッシュ            ・割合につながるフラッシュ            ・通分         </td> </tr> <tr> <td colspan="2">           留意点            ○1列ずつに時間を区切って取り組ませる。            ○早く終わった児童には、プリントの裏の問題に取り組ませる。            ○基準量・比較量・割合の関係を捉えることにフラッシュで慣れさせる。         </td> </tr> </table>				国語科		<b>【ねらい】</b> 集中して計算する態度や割合に関する数量、量と測定の見方・考え方を育てる。 <b>【児童の実態】</b> あまりのある除法の計算に時間がかかる児童がいる。		1	100問割り算	2	フラッシュ ・割合につながるフラッシュ ・通分	留意点 ○1列ずつに時間を区切って取り組ませる。 ○早く終わった児童には、プリントの裏の問題に取り組ませる。 ○基準量・比較量・割合の関係を捉えることにフラッシュで慣れさせる。	
国語科													
<b>【ねらい】</b> 集中して計算する態度や割合に関する数量、量と測定の見方・考え方を育てる。 <b>【児童の実態】</b> あまりのある除法の計算に時間がかかる児童がいる。													
1	100問割り算												
2	フラッシュ ・割合につながるフラッシュ ・通分												
留意点 ○1列ずつに時間を区切って取り組ませる。 ○早く終わった児童には、プリントの裏の問題に取り組ませる。 ○基準量・比較量・割合の関係を捉えることにフラッシュで慣れさせる。													
学年	内容（教科）	指導者	教室										
1年（さくら）	音読, カード, フラッシュ, 聞き取り（国語科）	黒飛 美穂	さくら										

国語科	
<b>【ねらい】</b> リズムよく、積極的に音読したり、大事なことを落とさずに聞き取ったりする。 <b>【児童の実態】</b> ひらがなを読むことはできるものの発声が小さい。	
1 音読	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お口の体操・五十音</li> <li>・早口言葉</li> </ul>
2 カード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カタカナ</li> <li>・日付と数え方</li> </ul>
3 フラッシュ	・反対言葉
4 聞き取り	・説明的文章
5 プリント	・カタカナ
留意点	
○拍を取り、リズム良く読ませる。 ○口をしっかり開け、はっきり発音さえる。 ○大事なことは何かを確かめ、聞き取らせる。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
6年 (さくら)	音読, フラッシュ, カード, 聞き取り (国語科)	黒飛 美穂	さくら
国語科			
<b>【ねらい】</b> リズム良く、積極的に音読したり、大事なことを落とさずに聞いたりする。 <b>【児童の実態】</b> 音読はリズムに乗って行うことはできるが、話の要点をまとめながら聞くことは苦手である。			
1 音読	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お口の体操・五十音</li> <li>・早口言葉・春暁</li> <li>・平家物語</li> </ul>	留意点	
2 フラッシュ	・慣用句	○拍を取り、テンポを保って進められるようにする。 ○タイミング良く児童を評価し、児童の意欲を高めるようにする。 ○読み聞かせる前に、注意して聞くことを伝え、見通しをもたせる。	
3 カード	・漢字の読み書き		
4 聞き取り	・説明的文章		

学年	内容 (教科)	指導者	教室
4年 (すみれ)	音読, カード, フラッシュ, 聞き取り (国語科)	田邊 日向子	すみれ
国語科			
(ねらい) 正しい姿勢・口形でテンポよく音読したり、聞き取った内容から自分の考えを書いたりする。 <b>【児童の実態】</b> テンポよく音読できているが、正しい姿勢・口形は持続しにくい。			
1 音読	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お口の体操・五十音</li> <li>・早口言葉・平家物語</li> </ul>	留意点	
2 カード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の読み書き</li> <li>・ことわざ</li> </ul>	○カスタネットで拍を取り、リズム良く読ませる。 ○口をしっかり開け、はっきり発音させる。 ○大事なことは何かを意識して、聞き取らせる。	
3 フラッシュ	・慣用句		
4 聞き取り	・説明的文章		
5 プリント	・ローマ字		

学年	内容 (教科)	指導者	教室
6年 (すみれ)	音読, フラッシュ, カード, 聞き取り (国語科)	田邊 日向子	すみれ

国語科

【ねらい】

正しい姿勢・口形でテンポよく音読したり，必要な情報を意識して聞き取ったりする。

【児童の実態】

楽しんで取り組んでいるが，正しい姿勢・口形でテンポよく音読することに課題がある。

- 1 音読           ・お口の体操・五十音  
                  ・早口言葉・平家物語  
                  ・春暁
- 2 フラッシュ・リズム漢字
- 3 カード        ・漢字の読み書き  
                  ・ローマ字の読み書き
- 4 聞き取り     ・説明的文章

留意点

- カスタネットで拍を取り，テンポを保てるようにする。
- タイミングよく評価することで，持続する意欲を高める。
- 聞き取りで2回目を聞く前に，何を意識して聞き取ればよいのか確認してから読み聞かせる。

# **IX 公開授業II**

# 「チロの気持ちを考えて音読しよう」

## 1年「おとうとねずみ チロ」

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

## 1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「C 読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。  
オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。

## (1) 単元観

本単元では、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、自分の体験と結び付けて感想をもつことを目標としている。

本教材は、おばあちゃんからのチョコキを楽しみに待つチロの行動や気持ちを中心に描かれている。(1)おばあちゃんから手紙が届く場面(2)チロがおばあちゃんに呼び掛ける場面(3)おばあちゃんから小包が届く場面(4)チロがおばあちゃんにお礼を言う場面の大きく4つに分けられ、場面ごとに話の大体が捉えやすい構成になっている。また、兄弟の末っ子であるチロの幼く素直な様子は、1年生と通じる部分も多く自分と重ねて共感したり、自分より少し年下のチロの行動を読み手として客観的に見て感想をもったりしやすい教材である。

## (2) 児童観

## 学級の実態

本学級で学習アンケートを実施したところ、「国語の授業は好き」と答えた児童が97%、「物語を読むのが好き」と答えた児童が93%であった。「みんなで問いを考え、解決していく学習は好きですか」については、87%の児童が肯定的に捉えている。理由としては、「みんなで考えると面白い」や「自分の問いが解決できて嬉しい」といったものがあつた。

児童は、説明文の学習で「問い」と「答え」があることを学習した後、「大きなかぶ」の物語文で初めて問いを作った。「どうして6人で引っ張ると、かぶはぬけたのだろう。」という問いや「ぬけたかぶをどうしたのか考えたい。」という願いが出た。問いを書いて掲示し、それをみんなで解決した。授業で考えたことを基に最終的に音読劇にし、達成感を味わった。

## 個へのアプローチ

学習アンケートより、国語が好きな理由について、「友達と話すのが楽しい」や「みんなの考えを知ることができるから」と答えた児童が多く見られた。また、友達の考えで参考になった意見をノートに書き足す様子も見られる。しかし、話し合いの様子を観察していると、自分の考えを一方向的に伝えるだけで、話し合いが終わってしまっている場面が多く見られる。

## (3) 指導観

児童は、物語を読んで不思議だなと思ったことから学級で学習の問いを設定し、問いを解決していく学習を楽しんでいる。そこで本単元においても、子どもたちの初発の感想を生かし、「不思議だな」「みんなで考えたいな」と感じた部分から問いを設定し、それを解決しながら学習を進めていく。

児童の問いを解決しながら読み取りを進めていく中で、人物の行動について本文に立ち返り、馴染みの少ない語句は国語辞書を引いて調べるなど重要な語句をしっかりと押さえるようにする。また、問いに関しては、中心人物であるチロについて多く出されると予想される。チロが何をしている場面なのかを読み取り、どのような気持ちになっているかを音読や動作化を通して考えさせたい。そして、自分の考えをノートに書いた後、対話を通して、感想を伝え合わせたい。

グループや全体で自分の思ったことを伝える際、対話になるように、聞いた友達の考えに対して、「どうしてそう思ったの」などの質問や感想を返す。そして、1往復半程度話をつなげていけるよう声かけをしていきたい。また、いろいろな感じ方があることを知り、自分とは違った意見を取り入れたり、自分の考えを広げたりする場を設定し、友達の考えを聞くことの楽しさを感じさせたい。

#### (4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 話のまとめや言葉の響きなどに気を付けて、文章を音読することができる。 (知識及び技能)
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。  
文章の内容と体験を結び付けて、感想をもつことができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- 物語の大体を捉え、人物の行動を具体的に想像して、感想を伝え合ったり、音読や動作で表したりすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

### 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	話のまとめや、言葉の響きなどに気を付けて音読している。 〔知識及び技能〕(1)ク)	「読むこと」において、叙述を基に、登場人物について、何をしたのか、どのような表情・口調・様子だったのかを具体的に想像している。 〔思考力・判断力・表現力〕Cエ) 「読むこと」において、自分の知識や経験と結び付けながら、文章の内容に対して思いをもっている。 〔思考力・判断力・表現力〕Cオ)	人物の行動を具体的に想像し、お話の内容や感想を伝え合ったり演じたりしようとしている。

### 3 指導計画 (全12時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	物語の登場人物や流れを確認する。 初発の感想を書く。(1)  物語の場面分けをする。(1)  登場人物の行動で、不思議だったところから問いを設定する。(1)	登場人物は誰かな。何をしたかな。  場所が変わったり、時間が経ったりしたら、場面が変わるんだな。  どうしてチロは山に向かってさげんだのだろう。みんなでも考えたいな。	登場人物や場面の变化などから内容の大体を捉えている。 【思・判・表】(ノート・発言)  時や場所の変化を捉え、場面分けをすることができる。 【思・表・判】(ノート)  物語を読んで、課題を発見している。 【態度】(ノート)
二	児童の問いをもとに、音読や動作化などを通して物語を読み取る。(8) (本時11/12)  注) 学習計画は児童と話し合っただけのため、問1～3の順番は変更する場合があります。	チロは、おばあちゃんからチョコッキをもらうのをとても楽しみにしていたんだね。だけど、もらえるか不安だったから大声でさげんだんだね。 チロの声はおばあちゃんに届いたのかな。 場面ごとに問いを解決してみよう。	叙述から場面の様子や人物の行動を読み取っている。 【思・判・表】(ノート・発言)  文章の内容と体験を結び付けて、感想をもっている。 【思・判・表】(ノート・発言)  読み取ったことをもとに、音読をしている。 【知・技】(ノート・発言)
	① なぜ、じっと耳をすませていたのだろう。 【予想される児童の反応】 ・一つずつ言葉が響いて飛んでいくのを聞いているからじゃないかな。音読の時もゆっくり読むといいね。 ・おばあちゃんの家まで声が届いたのかを確かめているんだよ。		② なぜ、もういちどゆっくり「あ、り、が、と、う。」と言ったのだろう。 【予想される児童の反応】 ・よく声が響いておばあちゃんのところへ届いているか聞いているのかな。 ・おばあちゃんに嬉しかった気持ちが伝わりやすいように、ゆっくり言ったんだよ。
	③ チロの声は、おばあちゃんのところへ届いたのか。 【予想される児童の反応】 ・チロの欲しかったしましまのチョコッキが届いたから、声が届いていたのだと思う。 ・おばあちゃんの家は遠いから、届かないと思う。届いていなくても、おばあちゃんはチロのチョコッキを編んでいたと思うよ。		

三	学習のまとめとしての音読と、問いの振り返りをする。(1)	<p>いろいろな問いを考えたからチロのことを考えながら音読ができた。</p> <p>〇〇くんが言った問いは、自分もたくさん考えたし、みんなの考えもたくさん聞いて楽しかったな。今度は、自分もみんなが考えるような問いを作ってみたいな。</p>	<p>これまでの学習を振り返り、今後の学習に生かそうとしている</p> <p><b>【態度】</b>(ノート、発言)</p>
---	------------------------------	---	--

#### 4 本時の展開 (11/12)

##### (1) 本時の目標

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。

##### (2) 観点別評価規準

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、音読や動作に表している。【思・判・表】

##### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○), 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 本時のめあてを確認する。(3分)	<p>○ 全体に関わる問いを提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ほんとうに、チロのこえは、おばあちゃんのところまでとどいたのだろうか。</div>	いきなり考えるのは難しいかもしれない。
2 お話を振り返る。(5分)	○ これまでの読みから、チロの行動や会話を整理する。	これまで解決した問いを振り返ってみよう。
3 自力解決をする。(7分)	<p>○ 教科書に線を引きながら、自分の考えをノートにまとめる。</p> <p>◆ 自分で考えただけではわからないものや、相談したいことがあれば、ペアの人に尋ねてもよいことにする。</p> <p>◆ 「届いた」「届かなかった」の二つの立場を提示することで、考えをスムーズに書けるようにする。</p>	チロは、字が書けないから、高いところにある木の上から叫ぶことを思いついたんだね。やってみると、声がひびいてとんで行ったから1番大事なことも叫んだんだね。
4 ペアで交流する。(10分)	○ ペアの人と「どうしてこう考えたの?」というような問いかけを行い、対話につなげる。	ここは、考えが違うな。どうしてそう思ったの? なるほど。
5 全体で交流する。(15分)	<p>○ 自分の考えやペアの考えを発表する。聞き手は、話し手の発表に意見や感想をもちながら聞き、発表をつなげられるようにする。</p> <p>◆ 机間指導をしながら、いろいろな意見をチェックしておき、手を挙げていない児童の意見も取り上げられるようにする。</p>	山の向こう側にある家まで声が届くわけじゃないよ。
6 振り返りをする。(5分)	<p>○ 「声は届いていた」という意見と「声は届いていない」という意見が出ると考えられるが、両者の意見を認めながら交流させていく。</p> <p>○ 「チロがどう思っているか」と切り返すことで、届いたかどうかではなく、チロの思いに意味があることに気付かせる。</p> <p>○ 読み取ったことをもとに、動作化を通して、音読させる。</p>	読みとったことをもとに、登場人物の行動を具体的に想像し、音読や動作に表している。 【思・判・表】(音読・ノート)
	○ 本時の学習で問いを解決し、分かったことやさらに疑問に思ったことを振り返る。	チロは、声は届いていたと思っているんだよ。だから、チョッキが届いた後、すぐに木の上から、おばあちゃんにお礼を言ったんだよ。



単元名

## わたしだったらどう思うかな？かんそうを伝え合おう 2年「お手紙」

本単元で育成する資質・能力

主体性・積極性

思考力・表現力

### 1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「C 読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。  
オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。

#### (1) 単元観

本単元では、物語の大体を捉え、人物の行動を具体的に想像して、物語を読んだ感想と自分の体験とを結び付けて伝え合うことを目標としている。

1学期の「名前を見てちょうだい」では、場所や登場人物の変化によって場面が変わることを学習し、場面ごとに様子を読み取ったり音読や動作で表したりすることができた。本教材では、時による場面の变化を捉えて人物の行動を読み取るとともに、感想を伝え合うことを新たに学習する。お手紙をもらったことがなく、ずっとお手紙を待つがまくんを励ますために、友達のかえるくんがまくんにお手紙を書くこの物語は、児童にとってどちらの気持ちも想像しやすい設定になっている。場面ごとに人物の行動や場面の様子を読み取るだけでなく、最初のお手紙を待つ場面と、最後のお手紙を待つ場面を比べると、「待つ」ことへの二人の気持ちが大きく変わっており、場面のつながりについても学習できる教材であると言える。

#### (2) 児童観

##### 学級の実態

本学級の児童23名は、「国語の授業は好きですか」という質問には100%、「物語を読むことは好きですか。」にも95%の児童が肯定的な回答をしており、授業に対する意欲は高い。

レディネステストによる場面を分ける問題の正答率は43%であり、場所や人物の変化による場面分けはできる児童が増えてきたが、時の移り変わりで、場面を分けることにはまだ慣れていない。

また、「問いを考えることは好きですか」には、91%が肯定的な回答をしている。その理由として、「みんなで問いを解けると楽しいから」「いろいろな答えが出てきておもしろいから」などが挙げられた。国語の授業や問いに対して、前向きに取り組むことができている。しかし、理由や意味を考える発問の時に発言する児童は、固定化している。

##### 個へのアプローチ

1学期の「名前を見てちょうだい」の学習で、「きつねと牛は何かいそがしかったのか」という問いについて考えた際、ほとんどの児童は「本当は忙しくなかったけど、大男に食べられそうで怖かったから帰った」と自分なりのまとめを書いたが、一部の児童は「引越しの準備をしているから」など、最初に自分が書いた意見を変えることなく授業を終えてしまった。友達の意見の理由を聞いたり、「あとさざる」などの言葉をとらえたりする力をつける必要がある。

#### (3) 指導観

場面の移り変わりとらえることは、場所や時間の移り変わりとらえたり、登場人物の変化をとらえたりする力と大きな関わりがある。登場人物の変化を捉えることができる児童が多いが、時の移り変わりは、人物の行動を丁寧に追わせる必要がある。本教材では、動作化をしながら音読することで、登場人物の行動や場面の様子をとらえることにつながると考える。

また、感想を書くために、「私もこんな気持ちになったことがある」「僕ならこう思う」という視点を入れることで、正解を求めるのではなく、それぞれの考えを発言することができると思う。

1学期の「風のゆうびん屋さん」「名前を見てちょうだい」では、一つを解決することで他の問いも解けたと感じている児童もいた。問いを通して、物語全体の見方が広がることにも気付かせたい。

1学期は、物語を音読や音読げきに表すことで「しぶしぶ」や「したなめずり」などの言葉の意味を児童が自然と辞書で調べて表現をしていた。動作化と語彙の広がりには大きな繋がりと考えられる。「お手紙」では、引き続き音読や動作化をすることで語彙を広げるだけでなく、「友だちの意見で、なるほどと思ったことを教えて」と問いかけることで、自分以外の意見を取り入れることを評価する場も設ける。

**(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)**

- 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。 (知識及び技能)
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 (思考力, 判断力, 表現力等)
- 場面の様子や登場人物の行動など、読み取った内容について、感想を書くことができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

**2 単元の評価規準**

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。 ([知識及び技能] (1) オ)	「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動や会話などを手掛かりにしながら、だれが、どうして、どうなったなどを読み取り表現している。 ([思考力・判断力・表現力] Cエ) 「読むこと」において、自分の体験などを結び付けて感想をもっている。 ([思考力・判断力・表現力] Cエ)	積極的に、場面の様子や登場人物の行動など、読み取った内容について、自分の体験と結び付けたり共感したりしながら感想を書こうとしている。

**3 指導計画 (全9時間)**

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	物語の登場人物や流れをとらえる。(1)  物語の場面分けする。(1)  問いを書く。(1)	最初と最後の挿絵が似ているな。 がまくんに手紙が来てよかったな。  時や場所が変わると場面が変わるんだね。  何でがまくんはお手紙をもらったことがないのかな。	場面の变化などから内容の大体を捉えている。 【思・判・表】(ノート・発言)  時や場所の変化などから場面の移り変わりを捉えている。 【思・判・表】(ノート・発言) 物語を読んで、課題を発見している。 【態度】(ノート)
二	児童の問いをもとに、音読や動作化などを通して物語を読み取り、感想をもつ。(5) (本時7/9)  注) 学習計画は児童と話し合っただけのため、問1～3の順番は変更する場合があります。	どうしてかえるくんがかたつむりくんに手紙をもつていったのんだのか、みんなで考えたいな。 場面ごとに問いを解決してみよう。	叙述から場面の様子や人物の行動を読み取っている。 【思・判・表】(ノート・発言)  読み取ったことをもとに、自分の体験と文章の言葉をつなぎ合わせ、感想をもっている。 【知・技】(ノート・発言)
	① 何でがまくんはお手紙をもらったことがないのか。 【予想される児童の反応】 ・友達がいないから。 ・お手紙をもらう用事が無いから。	② どうしてかえるくんはかたつむりくんに手紙をたのんだのか。 【予想される児童の反応】 ・ほかに頼める人がいなかったから。 ・もっと早く走れる人にたのんだほうがよかった。 ・ゆっくり待つほうが幸せだから。	③ どうしてかえるくんはがまくんにお手紙を書いたことを話したのか。 【予想される児童の反応】 ・かなしそうながまくんを見て、かえるくんは元気つけようと思ったんじゃないかな。 ・ぼくだったら何も知らずにお手紙が来たほうがうれしいな。 ・お手紙が来ると知っていたからがまくんもかえるくんも幸せな気持ちでいられたと思うな。

三	学習のまとめとしての感想を書き、問いの振り返りをする。(1)	<p>いろんな問いを考えたから人物の気持ちを考えることができた。</p> <p>解決できない問いもあるけど、みんなで考えたらいろんな答えが見つかることが分かったよ。</p>	<p>単元全体を通して、学習を振り返っている。</p> <p>【態度】(ノート)</p>
---	--------------------------------	--	--

#### 4 本時の展開 (7/9)

##### (1) 本時の目標

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、感想をもつ。

##### (2) 観点別評価規準

場面の様子に着目して、がまくんやかえるくんの行動を具体的に想像し、感想をもっている。【思・判・表】

##### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○), 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 本時のめあてを確認する。(5分)	<p>○ 前時で考えた問いをふりかえりながら、考えたい問いを選ぶ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どうしてかえるくんは、かたつむりくんに手紙をたのんだのか。</p> <p>○ 問いの問題点は何かを考え、めあてを確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">お手紙はもっと早く届いたほうがよかったのかな。</p>	<p>もっと早い動物にたのんだほうがよかったんじゃないかな。</p> <p>そうすればもっと早くお手紙がとどいたと思うよ。</p>
2 自分の考えをもつ。(8分)	<p>○ 今までの学習をふり返り、音読をしながらがまくんやかえるくんの様子確かめる。</p> <p>○ 教科書に線を引きながら、自分の考えをノートにまとめる。</p> <p>◆ 「早いほうが良い」「遅くても良い」という二つの立場を選ぶことで考えを書きやすくする。</p> <p>◆ 考えるのが難しい時には、「ぼくだったら」「わたしだったら」を使うよう、アドバイスをする。</p>	<p>がまくんはずっと待っていたから、早く届けてほしかったと思うよ。</p> <p>がまくんはお手紙が来ることを知っていたから、時間がかかっても幸せだったと思うな。</p>
3 友達と対話をする。(10分)	<p>○ 自由に友達と考えを交流する。</p> <p>◆ 自分の考えを書けない児童は、友達からヒントをもらう。</p>	<p>早くても遅くてもがまくんはお手紙をもらえるから幸せだったんじゃないかな。</p>
4 全体対話をする。(15分)	<p>○ 自分の考えを発表させ、児童の発言に質問がある場合は質問させる。</p> <p>○ がまくんにとっての幸せは「お手紙が届くこと」であることに気付かせる。その上で、遅く届いた意味を考えさせる。</p> <p>◆ 友達にヒントをもらった児童にも発言させる。</p>	<p>二人で待っている時間が一番幸せな時間だったのかな。</p> <p>読みとったことを基に、登場人物の行動を具体的に想像し、がまくんやかえるくんに対する感想をもっている。 【思・判・表】(音読・ノート)</p>
5 読みとったことをもとに音読をする。(2分)	<p>○ 読み取ったことをもとに、動作化なども交えながら音読をする。</p>	<p>がまくんはどちらでも幸せだったと思うけど、玄関にうれしそうに座っていたから待っているのも良かったと思います。</p>
6 振り返りをする。(5分)	<p>○ 次のことを振り返りで書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今日の授業で分かったこと、分からなかったこと</li> <li>・ 今日の授業で気付いたがまくんやかえるくんの気持ち</li> </ul>	

単元名

**本を読んでかしくなろう③**  
**好きな中心人物が出てくる本を友達に紹介しよう**  
**3年「モチモチの木」**

本単元で育成する資質・能力

主体性・積極性

思考力・表現力

**1 単元について**

○ 本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の「C 読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。
- エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。

**(1) 単元観**

本単元では、文章を読んで中心人物の性格を想像し、感じたことや考えたことを共有することを目標としている。本教材では、中心人物である豆太の成長が描かれている。一人で夜、外に出ることもできなかった豆太が、じさまを大切に思う気持ちから勇気を出す行動を通して、人物像について考えることができる。また、最初と最後の豆太の行動が類似しており、山場となる場面とその以前や以後の移り変わりを捉えるのにも適した教材であると言える。9月に学習した物語「サーカスのライオン」では、物語全体を通して、気持ちやその変化が詳しく書かれている中心人物を見つけ、その人物がどのような人物かを想像する学習を行っている。場面の移り変わりと結び付け、人物の性格を想像することで人物への理解をさらに深めることができる教材である。

**(2) 児童観**

**学級の実態**

本学級の児童28名は、アンケートによると、「国語の授業は好きですか」には89%、「問いを解決していくことはおもしろいですか」には89%の児童が肯定的な回答をしており、授業に対する意欲は高い。問いの授業をおもしろいと感じている理由としては、「どんなお話か分かるようになるから」や「みんなで解決していくことが楽しいから」などが挙げられた。

レディネステストによる登場人物の気持ちの変容に気付くことができた児童は93%、気持ちが変化した理由を、叙述を基に述べることができた児童は54%であった。その中でも前と後の登場人物の行動を見比べてそこから気持ちの変化の理由を述べた児童は14%であった。「悲しい」気持ちが「嬉しい」気持ちになったのは分かるが、叙述に基づくことができない理由として、言葉を流して読んでいることが考えられる。

また、朝読書では集中して本を読んでいる。しかし、「物語や小説を読むことは好きですか」に肯定的に答えた児童は75%に留まっている。否定的な意見として、「字が多い」「漢字が多く読みづらい。」などが挙げられた。

**個へのアプローチ**

1学期の「はりねずみと金貨」の学習では、どうしてみんなははりねずみにやさしくしたの」「どうしてはりねずみは最後に金貨を置いたの」を問いに設定し、叙述から登場人物の気持ちを考えた。

しかし、問いを解決する中でみんながはりねずみに優しくした理由は「お年寄りだから」など、一般的な答えを見つけることで終わってしまい、考えを深めることができなかった。児童だけの思考で考えを深めることはまだ難しいと考えられる。

**(3) 指導観**

登場人物の気持ちの変容を捉えるために、人物の行動の変化の理由に着目させたい。二者択一でその理由を考えさせることで、自分の考えの理由に重点をおいて考えさせたい。同じ考えの人や違う考えの人との考えを交流する時間を確保し、同じ考えでも理由の違いや、違う考えの見方の違いにたくさん触れさせていくことで人物の気持ちの変容を様々な視点から見えていくことができるようにする。

言葉を流して読んでいることに対して、根拠となる叙述に線を引いたり、言葉の意味を問い返したりし、言葉の意味から想像して読み取っていくようにする。

また、単元の最後に、好きな中心人物が出てくる本を友達に紹介する単元活動を設定し、学習の目的をもたせる。本単元で学習する登場人物の性格を考えという読み方を自分の読書につなげることで、物語をおもしろく読むための見方を広げていきたい。

問いを考える時、一般的な答えを見つけることで終わってしまっている児童は、物語全体の叙述をつなげることなく、自分の考えだけで「解決できた」と思っていると考えられる。このことから友達と考えを交流したあとに、もう一度自分の考えを再考する時間を確保する。そのとき、思考を整理しやすくするためにも友達の考えは赤色で書くなどしておく。また、児童の考えが一つに偏りそうな時は、あえて大きく逆の立場に立つなど、切り替えしの発問をすることで、そこまでの展開をもう一度振り返らせ、再考する活動を設定したい。

#### (4) 単元目標 (めざす児童の姿)

- 様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増し, 話や文章の中で使うことができる。(知識及び技能)
- 登場人物の行動や気持ちなどについて, 叙述を基に捉えることができる。  
登場人物の気持ちの変化や性格について想像することができる。(思考力, 判断力, 表現力等)
- 文章を読んで理解したことを基に感想を持ち, 考えたことなどを伝え合うことができる。  
(主体的に学習に取り組む態度)

#### 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増やし, 話や文章の中で使っている。 ([知識及び技能] (1) オ)	「読むこと」において, 登場人物の行動や気持ちなどについて, 叙述を基に捉えている。([思考力・判断力・表現力] Cイ) 「読むこと」において, 登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像している。([思考力・判断力・表現力] Cエ)	学習の見通しを持って, 文章を読んで理解したことに基いて感想を持ち, 考えたことなどを伝え合おうとしている。

#### 3 指導計画 (全11時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	中心人物を確認し, 場面ごとの中心人物の性格や主な出来事確かめる。 毎時間振り返りで感想や問いを書く。 (3)  問いを書く。	中心人物は豆太だね。 豆太はおくびょうだな。 場面は5つになるよ。  なんでトイレに行くのにじさまを起こすのかな。 豆太は本当におくびょうなのかな。	文章を読んで理解したことに基いて, 感想や考えをもっている。 【思・判・表】(発言・ノート)  物語を読んで, 課題を発見している。 【態度】(ノート)
二	児童の問いをもとに, 叙述を踏まえて, 中心人物の性格を想像する。(6) (本時9/11)  注) 学習計画は児童と話し合っ て決めるため, 問1~3の順 番は変更する場 合がある。	豆太の性格に関係のある問いを みんなで考えてみたいな。ほか の人はどう考えているのだろう。	叙述を基に, 登場人物の行動や 気持ちを読み取っている。 【思・判・表】(発言・ノート) 叙述から様子や行動などを表す 語句を見付けている。 【態度】(ノート)
二	① 豆太はどこで一番大きく変わったのか。 【予想される児童の反応】 ・一人で半道もあるふもとの村まで医者様を呼びに行ったところだよ。 ・モチモチの木に灯がついているのを見たところだよ。	② なぜ飛び出せたのか。 【予想される児童の反応】 ・じさまが大好きだから。 ・じさまが死んでしまうかもしれないと不安になったからです。	
二	③ 豆太は最後変わったのか。 【予想される児童の反応】 ・一人でトイレに行けないから変わってないよ。 ・一人で医者を呼びに行けるほど勇気をもてたから変わったよ。		
三	中心人物の性格について考えたことを伝え合い, 問いのふり返りをする。(1)	自分が考えていたことと違うことを考えている友達もいるんだな。 豆太はやらないといけな いときには勇気もてる人物だとわかったよ。	単元全体を通して, 学習を振り返っている。 【態度】(ノート)
四	好きな中心人物が出てくる本を友達に紹介する。(1)		本文で読んだことを生かして, 自分の好きな中心人物の性格や好きなところについてまとめている。 【思・判・表】(紹介カード・行動観察)

#### 4 本時の展開 (9/11)

##### (1) 本時の目標

「豆太は変わったのか」を考えることを通して豆太の成長を読み取り、豆太がどんな人物かを考えることができる。

##### (2) 観点別評価規準

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。

【思・判・表】(発言・ノート)

##### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○), 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 本時のめあてを確認する。(5分)	○ 前時に設定した学習のゴールを想起し、本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">豆太は最後変わったのか。</div>	一人トイレに行けないから変わってないよ。
2 自分の考えをもつ。(10分)	◆ 「変わった」「変わっていない」の二者択一にし、その理由を考えさせることで、自分の考えをもって、友達と話し合えるようにする。 ○ 複数の叙述をもとに考えている児童を紹介し、価値づける。 ○ 教科書から根拠となる部分を見付け、叙述に線を引かせる。	一人医者呼びに行けるほど勇気をもてたから変わったよ。
3 考えを交流する。(10分)	○ 自分の考えが、どちらかが分かるように黒板に名前磁石を貼ることで可視化する。同じ考えや違う考えの友達と話し合いをする時間を設定し、さまざまな考えに触れることができるようにする。 ○ 話し合いでは、自分の考えを修正したり、書き加えて新しい考えをもったりする時には、自分の席に戻ってノートを書くなど、じっくり自分の考えがもてるようにする。	豆太は一人でトイレに行けないからおくびょうな性格って考えたよね。
4 全体交流をする。(15分)	○ 全体で話し合える時間を十分に確保し、自分の考えを言えるようにする。また、質問がある場合は質問させる。 ○ 発言の際、「どこからそう思ったの?」「どうしてそう思ったの?」と問い返し、叙述に目を向けさせ、児童の考えを広げたり深めたりする。 ○ 友達の考えを聞く活動を通して、もう一度自分の考えをもつ時間を確保することで、児童が自分の考えを整理できるようにする。 ○ 「豆太は臆病だね。」「豆太は臆病ではないね。」などどちらかの考えに偏った切り替えしをすることで、豆太は臆病なところもあるが、大好きなじさまのために臆病に立ち向かえる人物でもあることに気付かせる。	豆太は大好きなじさまのためなら怖くても飛び出すことができるんだね。
5 振り返りをする。(5分)	○ 振り返りシートを使うことで、振り返りの視点を明確にし、めあてについて自分の考えが深まったことを実感できるようにしたり、自分の学び方の成長を感じたりできるようにする。	モチモチの木に灯がともったものは勇気のある一人の子どもしか見れないから、最初はモチモチの木に灯がともるのは見れないってあきらめてたけど、結局見ることができたよね。  登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。【思・判・表】
		一人トイレには行けないけど、一人で夜道を医者様よびに行けるほど勇気があるよ。

## 考えたことを伝え合おう！ 4年「こんぎつね」

本単元で育成する資質・能力

主体性・積極性

思考力・表現力

### 1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の「C 読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。  
カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

### (1) 単元観

本単元では場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化について、叙述を基に想像して読む力を付けることをねらいとする。

本教材は、中心人物である「ごん」と「兵十」との関係の変容を描いた物語である。一の場面～五の場面はごんの視点で物語が進んでいく。そのため、ごんに同化しながら物語を読み進めることができ、心情の変化をつかみやすい教材である。兵十にいたずらをしかけたことをきっかけに、つぐないをし続けるごんの行動を叙述を基に読み取りながら、ごんの兵十への思いや行動に寄り添い、心情の変化を想像する。六の場面は兵十の視点に変わる。ごんが兵十に撃たれてしまう結末に「気付いてもらえてよかった」「撃たれてしまっかわいそう」という様々な感想を引き出すことができるため、友達と話し合うことで感じ方の違いに気付くことができる教材である。

### (2) 児童観

#### 学級の実態

問いに関するアンケートの結果、問いを解決していく授業について肯定的に捉えている児童は89%であった。理由として、「自分の問いを授業でみんなと考えることができている」、「自分と違う意見を聞くことが楽しい」ということが挙げられた。

レディネステストの結果、叙述を基に自分の意見を書くことができる児童は86%であった。叙述に目を向けることはできているが、前後の場面と結び付けて、登場人物の気持ちの変化を深く読み取ることは苦手である。また、自分の考えをどう言葉で表現してよいか分からず、叙述の言葉のみで発言する児童も見られる。叙述からどう考えたのかを、自分の言葉で説明できるようにしたい。

#### 個へのアプローチ

全体で意見を交流する際に、友達の見聞を聞いて、自分の意見と共通点や相違点を見付けたり、質問したりすることができる児童が多い。しかし、友達の見聞を聞いても自分の意見に反映することはできず、結局自分の意見にのみこだわる児童が見られる。

### (3) 指導観

1学期から根拠となる叙述に線を引きながら読み取ることで、叙述から自分の考えをもつことができるようになってきている。一つの叙述だけではなく、複数の叙述を根拠にし、登場人物の性格を思い描くことができるように前時までの学習を提示する。

また、「私はかなしいと思いました。」と一言で発言を終わらせるのではなく、同じ「かなしい」でも、「心がしめつけられるような感じ」、「大切なものがなくなってしまうような感じ」、などと、自分の経験と重ねながら、より詳しく発言できるようにしたい。そのため、毎回の授業で、児童の発言から出てきた言葉を提示し、児童の語彙を増やしていく。語彙を増やすために、辞書引きにも積極的に取り組みたい。他の授業でも同じ意味でも様々な言葉で表現ができることを実感させ、発言の中に取り入れられるようにする。

友達の見聞と自分の意見を比べて発表させる「発表の型」を提示し、〇〇さんと似ていて～、〇〇さんと〇〇さんの意見をまとめると～、などと、意見をどんどん繋げられるようにする。振り返りでは、具体的な内容で何がはっきりわかったかや、自分の学びとの共通点・相違点をはっきりさせることで、友達の見聞を聞くことの大切さと楽しさを意識させたい。

**(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)**

- 様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増やし, 話や文章の中で使うとともに, 語彙を豊かにすることができる。 (知識及び技能)
- 登場人物の気持ちの変化について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。 (思考力, 判断力, 表現力等)
- 進んで中心人物の気持ちの変化について叙述を基に想像し, 考えたこと・感想を伝え合い, 一人一人の感じ方のちがいに気付くことができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

**2 単元の評価規準**

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増やし, 話や文章の中で語彙を豊かにしている。 ([知識及び技能] (1) オ)	「読むこと」において, 登場人物の行動や気持ちなどについて, 叙述を基に捉えている。 ([思考力・判断力・表現力] Cイ) 「読むこと」において, 登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 ([思考力・判断力・表現力] Cエ)	進んで中心人物の気持ちの変化について叙述を基に想像し, 考えたこと・感想を伝え合い, 一人一人の感じ方のちがいに気付いている。

**3 指導計画 (全11時間)**

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	場面ごとの主な出来事確かめる。(1)  感想や問いを書く。(1)	ごんはひとりぼっちの小ぎつねなんだね。  最後にごんは撃たれてかわいそう。ごんがつぐないをしていることに気付いてもらってよかった。どうしてごんは, つぐないをしたのだろう。	時や場所の変化などから内容の大体を捉えている。 【思・判・表】(発言・ノート)  物語を読んで, 課題を発見している。 【態度】(ノート)
二	児童の問いをもとに, 叙述を踏まえて, 登場人物の気持ちを読み取る。(8) (本時10/11)  注) 学習計画は児童と話し合って決めるため, 問1~3の順番は変更する場合がある。	ごんは, 兵十を困らせるために, いたずらをしたんじゃないかと, 自分に気付いてほしくて, いたずらをしていたんだね。 「次の日も, その次の日も」と書いてあるから, ごんは毎日兵十につぐないをしていたことが分かるよ。	叙述を基に, 登場人物の行動や気持ちを読み取っている。 【思・判・表】(発言・ノート)  叙述から様子や行動などを表す語句を見付けている。 【態度】(ノート)
	① なぜごんは, つぐないをしたのだろう。 【予想される児童の反応】 ・いたずらをしたことを反省したから。 ・兵十がさみしい思いをしているだろうからはげますため。 ・兵十のさみしさが分かるから。 ・ごめんなさい, という気持ちをこめて。	② なぜ引き合わないと思ったのに, 次の日もつぐないをしたのか。 【予想される児童の反応】 ・もしかしたら, 気付いてもらえるかもしれない。 ・神様ではなくて自分なんだということを教えたいから。 ・今まで自分がしたことへの反省がまだ足りない。	
	③ この物語は, 最後ハッピーエンドだったのか。 【予想される児童の反応】 ・ハッピーエンドだと思う。ずっと兵十に気付いてもらいたくてつぐないをしていたので, 最後, 「ごん, おまえだったのか。」と気付いてもらうことができたから。 ・ハッピーエンドではないと思う。たしかに, 気付いてもらったことはすごく嬉しかったと思うけど, 結局死んでしまったのでは, 意味がないから。		

三	中心人物と他の人物との関わりについて考えたことを伝え合い、問いのふり返りをする。(1)	<p>ごんは最初いやなきつねだと思っていたけど、兵十のことを考えられる優しいきつねだったな。</p> <p>なぜ次の日もつぐないをしたのかという問いはいろんな意見を聞いておもしろかったな。</p> <p>自分が考えていたことと違うことを考えている友達もいるんだな。</p>	<p>単元全体を通して、学習を振り返っている。</p> <p style="text-align: right;">【態度】(ノート)</p>
---	---	--	---

#### 4 本時の展開 (10/11)

##### (1) 本時の目標

物語の結末の意味を、叙述を基に読み取ったことから考え、友達と共有することができる。

##### (2) 観点別評価規準

叙述を基に、登場人物の行動や気持ちを読み取り、考えを共有している。

【思・判・表】(発言・ノート)

##### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○), 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 前時のふり返りをする。(2分)	○ 前時までの学習の流れを揭示し、視覚的にふり返ることができるようにする。	
2 本時のめあてを確認する。(2分)	この物語は、ハッピーエンドだったのか。	<p>ごんがつぐないをしていたことに気付いてもらえたから、ハッピーエンドだったと思うよ。</p>
3 自分の考えを書く。(7分)	<p>○ 教科書から根拠となる部分を見付け、叙述に線を引かせる。</p> <p>◆ 根拠として選ぶ文はいくつかあってもよいことを伝え、複数の叙述に目を向けられるようにする。</p>	<p>ごんは死んじゃって、気付いてもらえても意味ないから、ハッピーエンドじゃないと思うよ。</p>
4 グループで考えを交流する。(10分)	<p>○ 線を引いた部分を必ず指で指しながら意見を交流させる。</p> <p>○ 「どこからそう思ったの。」「なんでそう思ったの。」などと、友達に質問させることで、同じ意見でも違う文を根拠として選んでいることに気付かせる。</p> <p>◆ 考えるのが難しい場合は、グループでどこからそう思ったのかを考える。</p>	<p>意見は同じだけど、根拠が違うね。</p>
5 全体交流をする。(20分)	<p>○ 様々な意見が出てくるのが予想される。そのため、ハッピーエンドだと思う意見と、ハッピーエンドではないと思う意見を分類して、板書する。</p> <p>○ 拡散した意見をまとめるために、「ごんの願いは何だったのか」と問う。結末の感じ方に違いはあっても、どちらも「兵十に自分のことを分かってもらおうこと」とまとめられる。</p> <p>◆ ごんの願いを考えることが難しそうであれば、「最後、だまっとうなずいた時、ごんは何と言いたかったのか」と問い、ごんの願いを考えさせる。</p>	<p>叙述を基に、登場人物の行動や気持ちを読み取り、考えを共有している。</p> <p style="text-align: right;">【思・判・表】 (発言・ノート)</p>
6 振り返りをする。(4分)	<p>○ 次のことを振り返りで書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今日の授業で分かったこと、感じたこと</li> <li>・ 自分の意見が変わったこと、なるほどと思った友達の考え</li> </ul>	<p>ごんは、ずっとひとりぼっちでさみしかったから、兵十に気付いてもらえたことで、ひとりぼっちじゃない、という気持ちが出てきたと思うよ。</p>
		<p>ごんはひとりぼっちでさみしいという思いをもって、兵十と自分を重ねていたから、気付いてもらえたという結末はごんにとって幸せだったと思います。</p>

## この表現は、何につながっているのかな？ 5年「注文の多い料理店」

本単元で育成する資質・能力

主体性・積極性 思考力・表現力

### 1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第5学年及び第6学年の「C 読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。  
オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

### (1) 単元観

本単元では、人物像や物語などの全体像を具体的に思い描くことや優れた叙述に着目しながら様々な表現の効果について考えることを目標としている。

1学期の「世界でいちばんやかましい音」では、叙述から人物像を捉えたり物語の構造を考えたりして、表現のもつ効果について考えることができた。本教材では、物語の面白さを生み出しているものは何かということを読み取っていく。その面白さの一つが結末の意外さである。読者は、結末に向かうにつれて、段々と物語全体が怪しさを帯びていくことを感じるようになる。この怪しさの正体の一つは、様々な上下関係が逆転する予感であると考えられる。例えば、飼い主と飼い犬、人間と動物、店主と客という関係である。人物（と読者）のもの見方としての思い込みがひっくり返された瞬間、怪しさは痛快さへと変わり、これが「面白さ」として読者の心に訴えかけているのではないだろうか。「怪しさ」を感じさせる仕掛けとしては、言葉や文の反復や比喩表現、独特な擬音語の使用、掛詞の使用などを挙げることができる。また、ファンタジー特有の表現として、現実世界と非現実世界の行き来を表す一文も存在する。ファンタジー教材として学ばせたいことが多く詰まっている作品と言える。

### (2) 児童観

#### 学級の実態

本学級の児童23名は、「国語の授業は好きですか」という質問には5人、「物語を読むことは好きですか。」に20人の児童が肯定的な回答をしている。国語の授業が好きではないという児童の中には、「文章が長くなり漢字や言葉が難しくなる」、「どのように考えて良いか分からない」、「深く考えることが好きではない」というものがある。

文学的文章において、物語の面白さを感じることはできるものの言語化することが苦手な児童が多い。また、根拠となる叙述と自分の意見をつなげる理由付けを考えることが苦手な児童も多い。

また、「問いを考えることは好きですか」には、10人が肯定的な回答をしている。その理由として、「物語により入り込める」「さらに詳しく読みたくなる」などが挙げられた。否定的な回答の中には「深く考えたくない」というものがあった。

#### 個へのアプローチ

1学期の文学的文章においては、読みの妥当性をどこまで認めるかという活動をしていた時に、「教材文に書かれているから認められる。書かれていないから認められない。」という意見が出た。そして、その意見に多くの児童が納得していた。このことから想像を広げる（＝書かれていないことを考える）ことや「分かりにくいこと」の意味を考え続けることへの苦手意識をもっている児童が多くいることが分かる。

### (3) 指導観

国語においては、まず「言葉による見方・考え方」をはたらかせることを第一に授業を行う。本単元において、「何に着目」させ、「どのように考えて」いくのかということ具体的に想定し、授業に臨むようにする。特に児童は、叙述から想像を膨らませることに課題があるため、考え方を児童に提示することが欠かせない。物語においては、「関連付ける」「比較する」「仮定する」という3つの考え方が主に働くと考えられる。特に「仮定する」という考え方については、用いる児童が少ない。そのため、用いる場面として適切である場合は、考えを深める手段として「仮定する」と良いことを提示し、意識的に使わせていきたい。

問いについては、問いを立てることで多様な考えに触れられて考えが広がることの実感や問いが連続することで自分の考えが洗練されていくことの実感をもたせたい。そのため鍵となるのは、対話的活動である。

「分かりやすいこと」を良しとする雰囲気のある中で、複雑で曖昧なことを考え続ける忍耐力を付けるにはどうすればよいか。まずは、児童の読みは「良い線を行っている」という前提に立つこと。その上で、どのような考え方をしているのか丁寧に見取り、それを明確に価値付けることが必要になると考える。そのためには、考える材料としてヒントになる叙述をできるだけ見つけさせること、意味を持たせたり広げたりするツールとしての辞書引きを行っていくことも必要になる。

**(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)**

○ 物語には、比喩や反復などの工夫が使っていることを理解することができる。 (知識及び技能)
○ 人物像や物語の全体像について叙述を基に具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
○ 本文を読んで理解したことに基づいて、作者の工夫について自分の考えをまとめることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
○ 学習したことを活かして問いを作り、進んで根拠となる叙述を見つけたり表現の効果を考えたりすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

**2 単元の評価規準**

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	表現の工夫には読み手に与える効果があることを理解し、叙述から比喩や反復などの工夫を見つけることができる。 ([知識及び技能] (1) ク)	「読むこと」において、人物の心情や人物の相互関係を手掛かりに、人物像や物語の全体像について読み取っている。 ([思考力・判断力・表現力] Cエ) 「読むこと」において、叙述と叙述を関連付けたり、叙述と経験などを関連付けたりしながら、自分の解釈をまとめている。 ([思考力・判断力・表現力] Cオ)	解決したい問いを考えようとしたり、振り返りに新しく浮かんだ問いを書こうとしたりしている。 自分の考えの根拠を明らかにするために、叙述から手掛かりとなる言葉や文を見つけようとしたり、表現の効果を考えたりしようとしている。

**3 指導計画 (全8時間)**

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	初発の感想を書き、物語の全体像を捉える。(1)  問いを作る。(1)	読んでいくうちにそわそわした。危険なおいがした作品だった。偉そうな人物がだまされて、すっきりした。  どのような問いを作ろうかな。どの問いを解決したいかな。	教師の範読を聞いて感じたことを書いている。 【思・判・表】(ノート)  物語を読んで、解決したい問いを進んで立てている。 【態度】(ノート)
二	児童の問いをもとに、物語を読み取り、感想をもつ。(4) (本時 6/8)  注) 学習計画は児童と話し合っただけのため、問1～3の順番は変更する場合があります。	紳士たちは、随分と偉そうな態度を取っている。その紳士たちを手玉にとっているのが山猫だ。もし、紳士たちが素直で親切な人だったら、すっきりした感じはなかっただろうな。 自分の感じていたもっと手前から怪しさを感じさせるように作者は工夫していたんだ。	叙述と叙述や叙述と経験などを関連付けて自分の考えを書いている。 情景を具体的に想像し、自分の考えを書いている。 【思・判・表】(ノート・発言) 表現の工夫には読み手に与える効果があることを理解し、叙述から比喩や反復などの工夫を見つけることができる。 【知・技】(ノート・発言)
	① この物語に面白さを生むのは、作者のどの工夫か。 【予想される児童の反応】 ・言葉や文を繰り返している。 ・掛詞を使っている。	② 物語は、どの辺りから怪しくなったか。 【予想される児童の反応】 ・最初から怪しい。 ・風がどうと吹いてきたところ。	
	③ 紳士の顔は、最後に元に戻った方が良かったのか。 【予想される児童の反応】 ・顔を戻さないことで、人間に教訓のようなものを刻みつけたかった。 ・怪しさや恐ろしさを感じさせる物語なのだから、それら感じさせるものを残したかった。		
三	読み取ったファンタジーの書き方の工夫を活かして、物語を書く。(2) 問いの振り返りをする。	ファンタジーを書くぞ。 問いを解決したり、友だちと話したりしたから、自分の考えが深まったのだな。	単元全体を通して、学習を振り返っている。 【態度】(ノート)

#### 4 本時の展開 (6/8)

##### (1) 本時の目標

人物の人物像や心情の変化、物語全体の展開を根拠に作者の表現の意図を考える。

##### (2) 観点別評価規準

紳士たちの人物像と心情の変化、物語全体の展開を関連付けて、作者の表現の効果について考えをまとめている。

【思・判・表】

##### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○), 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 本時のめあてを確認する。 (2分)	○ 問いを確認する。 <b>紳士の顔は、最後に元に戻った方が良かったのか。</b>	どちらの立場かな?
2 自分の考えをもつ。 (3分)	○ 自分の立場 (「はい」か「いいえ」) を明らかにするために、名前磁石を黒板に貼らせる。	紳士たちの顔は元に戻したらいけないんだ。
3 考えの根拠となる叙述を見つける。 (5分)	○ 考えの根拠となる叙述をできるだけ多く見つけさせる。その際に、焦点化した読み取りをさせるために、次の視点を示す。 ・ 人物の心情の変化 ・ 人物の相互関係 (紳士たちと山猫, 紳士と紳士)	最初、紳士たちは偉そうな態度を取っていたよね。
4 自分の考えを書く。 (5分)	○ テンポ良く見つけさせるために、見つけた叙述をノートに書かせたり発表させたりせず、グループトークで次々と叙述を挙げさせる。教師は、その対話を聞き取り、挙げられた叙述を板書する。  ◆ 理由を書くことに悩んでいる児童がいた場合は、「もし、○○だったら～」と仮定するなどの「考え方」を提示し、思考が促進されるようにする。	紳士たちは、段々と恐怖心が高まっていったよね。  もし、顔が元に戻らなかったら、すっきりした感じが減ってしまったと思うよ。
5 友達と対話をする。 (10分)	○ 同じ立場の人→違う立場の人という順序で対話させる。 ○ 考えを広げるために、次々と相手を変えて対話することを促す。	紳士たちの人物像と心情の変化、物語全体の展開を関連付けて、作者の表現の効果について考えをまとめている。 【思・判・表】(ノート)
6 全体対話をする。 (15分)	○ 以下のような意見が出てくると予想する。 【はい】 ・ 山猫たちに食べられる一歩手前までいき、紳士たちは、最初に比べてかなりの恐怖を味わっている。偉そうな人物ではあったが、最後まで悪いことが起きてしまうと、救われない気持ちになってしまう。 【いいえ】 ・ 前学年までに物語には、作者の伝えたいことが込められていると習った。顔を戻さなかったら、作者の伝えたいことが十分伝わらないのではないか。 ・ 山猫たちに食べられる一歩手前までいき、紳士たちは、最初に比べてかなりの恐怖を味わっている。しかも、許せないくらい偉そうな態度を最初はとっていて、山猫たちは、そんな紳士たちをこらしめようと思っていたはずだ。 ・ たぶん「偉そうにしたらだめだよ。」と作者は言いたいのだと思う。顔が元に戻らないままだったら、鏡を見る度に紳士たちは、山猫軒のことを思い出せるのではないかな。	顔を元に戻さないということは、この物語になくってはならない表現の工夫だったのかな。

<p>7 最終的な自分の考えと振り返りを書く。 (5分)</p>	<p>○ 思わず納得させられた友だちの意見を想起させながら、最終的な自分の考えを書かせる。</p>	<p>物語の出来事は、展開と関連付いているだけではなく、作者の思いともつながっているのだな。</p>
--------------------------------------	---	--

# 図を使って説明しよう

## 2年 かけ算

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

### 1 単元について

○ 本単元は、小学校学習指導要領第2学年の「A 数と計算」の内容に基づき設定した。小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) 数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身につけることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身につけること。
    - (エ) 一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。
    - イ 次のような思考力。判断力、表現力等を身に付けること。
      - (フ) 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活に生かすこと。
- (2) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
    - (フ) 乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。
    - (イ) 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
    - (ウ) 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。
    - (エ) 乗法の九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。
    - (オ) 簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を知ること。
  - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
    - (フ) 数量の関係について着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。
    - (イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。

### (1) 単元観

本単元では、乗法が用いられる場面を通して、乗法の意味について理解し、乗法九九が確実に唱えることができるようにするとともに、数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方考える力を伸張させたりすることで、乗法への理解を深めることをねらいとしている。

本単元は、身に付けた乗法九九を活用し、九九表を拡張したり乗法が適用できる場面で問題解決をしたりする。乗法九九を知るだけでなく、乗法が用いられる場合について理解を深めたり、簡単な性質について知ったりすることで、既習を基に統合的・発展的に考えるのに適した教材である。

また、本単元では、「1つ分の数」「いくつ分」を明らかにして図や式、言葉で表して説明したり、式と図を対応させながら話し合ったりすることで、自分と違った見方や考え方に気づき、式の意味や表し方の理解を深めていく。

### (2) 児童観

#### 学級の実態

レディネステストの結果、図の意味を理解している児童は、86.9%、その中でさらに図の説明ができていない児童は、70%であった。以上の結果より、図の理解ができていない児童もいるが、図を説明することを苦手とする児童が多い。

アンケートの結果、「算数が好き」と答えた児童は、69.5%であった。その理由として「計算がおもしろい」「いろいろなことを知れるから」という回答があった。「算数の学習がむずかしいと思うときがある」と答えた児童は47.8%であった。その中の81.8%の児童が、「説明をすること」に苦手意識をもっていた。自分の考えはあるが、それをうまく言葉に表すことができないことが考えられる。自分の考えを整理するための場としてペアトークを積極的に取り入れていきたい。

#### 個へのアプローチ

問題場面を具体的にイメージできず、数量の関係を正しく図に表すことができない児童がいる。自力解決では、素早く自分の考えが書ける児童となかなか自分の考えが書けない児童がいる。

### (3) 指導観

本単元では、数の仕組みや加法の計算、そして数のまとまりに着目して、数を2ずつ、5ずつなどの同じ大きさの集まりにまとめて数える学習を進めていく。

本時においては、割合の素地となる基準量を捉える学習として、基準量が後に示された問題場面について考えていく。既習事項である「1つ分の数」・「いくつ分」を図に表し、それを基に、自分の考えを説明させる。

その際に、図や言葉によって自分の考えを表現させ、ペアトークなどによって友達と考えを交流させながら、思考を深められるようにしたい。

具体物や図を使って問題場面のイメージをもたせる。児童同士の対話を意図的に取り入れ、問題場面の理解をより深められるようにしたい。

#### (4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 乗法が用いられる場面や乗法九九について知り、乗法の意味や乗法に関して成り立つ性質を理解し、乗法が用いられる場面を絵や図、言葉や式で表したり、乗法九九を構成し、確実に唱えたりすることができる。  
(知識及び技能)
- 数量の関係に着目し、累加の考えや乗法と積の関係を基に、乗法九九の構成の仕方を考え表現している。  
(思考力、判断力、表現力等)
- 数学的に表現・処理したことを振り返り、数学的な処理や乗法によさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。  
(主体的に学習に取り組む態度)

#### 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	乗法が用いられる場面を絵や図、言葉や式で表したり、乗法九九を構成し、確実に唱えたりすることができる。	累加の考えや乗法と積の関係を基に、乗法九九の構成の仕方を考え表現している。	数学的な処理や乗法によさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

#### 3 指導計画 (全21時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px 10px; background-color: #e0e0e0;">課題の設定</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px 10px; background-color: #e0e0e0;">情報の収集</div> </div> <p>「1つ分」「いくつ分」をとらえ、乗法の意味を理解する。(2)</p> <p>乗法の場面を式やおはじきで表し、乗法の意味を確実にする。(2)</p> <p>乗法は累加で求められることを理解する。(1)</p> <p>倍の意味を知る。(1)</p>	<p>かけ算は「1つ分」と「いくつ分」が分かればいんだな。</p> <p>図や具体物を使えば、分かりやすいな。</p> <p>乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加すれば求められるのだな。</p> <p>3cmの2つ分を、3cmの2ばいと言うんだな。</p>	<p>「1つ分」「いくつ分」をとらえ、説明している。 【思・判・表】(ノート、行動観察)</p> <p>乗法は「1つ分」が「いくつ分」あるかを求める場合に用いられることを理解している。 【知・技】(ノート、発表)</p> <p>乗法の答えは、累加で求められることを理解している。 【知・技】(ノート、発表)</p> <p>倍の意味を知り、何倍にあたるかを求め時にかけ算を用いることを理解している。 【知・技】(ノート、発表)</p>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <b>【本質的な問い】</b> かけ算は、どんなときにつかえるだろう。         </div>	

<p style="text-align: center;">二</p>	<p style="text-align: center;"><b>整理・分析</b></p> <p>5の段の九九を構成する。(1)</p> <p>5の段の九九を確実に唱え、適用する。(2)</p> <p>2の段の九九を構成する。(1)</p> <p>2の段の九九を確実に唱え、適用する。(2)</p> <p>3の段の九九を構成する。(1)</p> <p>3の段の九九を確実に唱え、適用する。(2)</p> <p>4の段の九九を構成する。(1)</p> <p>4の段の九九を確実に唱え、適用する。(2)</p>	<p>5とびや累加の方法を使えば、5の段の九九が作れるぞ。</p> <p>5の段は、答えが5ずつ増えているのだな。</p> <p>2とびや累加の方法を使えば、2の段の九九が作れるぞ。</p> <p>2の段は、答えが2ずつ増えているのだな。</p> <p>累加の方法を使えば、3の段の九九が作れるぞ。</p> <p>3の段は、答えが3ずつ増えているのだな。</p> <p>累加の方法を使えば、4の段の九九が作れるぞ。</p> <p>4の段は、答えが4ずつ増えているのだな。</p>	<p>5の段の九九を構成することができる。【思・判・表】(ノート)</p> <p>5の段の九九を確実に唱え、それを用いて、問題解決することができる。【知・技】(ノート, 行動観察)</p> <p>2の段の九九を構成することができる。【思・判・表】(ノート, 発表)</p> <p>2の段の九九を確実に唱え、それを用いて、問題解決することができる。【知・技】(ノート, 行動観察)</p> <p>3の段の九九を構成することができる。【思・判・表】(ノート, 発表)</p> <p>3の段の九九を確実に唱え、それを用いて、問題解決することができる。【知・技】(ノート, 発表)</p> <p>4の段の九九を構成することができる。【思・判・表】(ノート)</p> <p>4の段の九九を確実に唱え、それを用いて、問題解決することができる。【知・技】(ノート, 行動観察)</p>
<p style="text-align: center;">三</p>	<p style="text-align: center;"><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>式の意味をとらえ、5, 2, 3, 4の段の九九の理解を深める。(1)(本時19/21)</p> <p style="text-align: center;"><b>ふりかえり</b></p> <p>学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。(2)</p>	<p>2×5と5×2の違いは図を書けば分かるぞ。式の意味も分かったぞ。</p> <p>かけ算は、「1つ分」と「いくつ分」をかけるのだな。「1つ分」が同じだったら、たしていくよりも、かけ算した方が便利だな。もっとたくさん問題を解きたいな。わり算名人になりたいな。</p>	<p>図を用いて考えることを通して、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしている。【思・判・表】(ノート)</p> <p>単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしていたりしている。【態度】(ノート)</p>

#### 4 本時の展開 (19/21)

##### (1) 本時の目標

1つ分の違いに着目して、図を用いて式の意味を考え、説明することができる。

##### (2) 観点別評価規準

1つ分の違いに着目して、図を用いて式の意味を考え、説明している。 【思・判・表】

##### (3) 適用題の設定理由

適用題Aは学習の理解度を図るために設定した。適用題Bは異なる問題場面においても基準量を捉えて、計算することができるかを見るとともに、自力解決ができなかった児童のつまずきの原因を分析し、今後の指導に生かす。

##### (4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 既習事項の復習をする。(5分)	○ これまでのかけ算の学習を振り返る。	今日の学習は、かけ算だな。
2 問題に出会う。(5分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(1)ボールを1人に2こずつ、5人にくばります。ボールはぜんぶで何こいらいますか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(2)ボールを2人に5こずつくばります。ボールはぜんぶで何こいらいますか。</div> <p>◆ 問題文のキーワードに下線を引かせるなどをして、問題の意味を理解させる。</p> <p>(1)(2)の立式をさせる。</p> <p>○ 立式した理由を図に表させ、めあてにつなげる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">これはとけそうだな。簡単だよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">このしきはあまり自信がないな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(1)は1つ分が2で、それが5つ分ある。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">○○</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">○○</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">○○</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">○○</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">○○</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">図にするとこうなるのかな。</div>
3 本時のめあてをつかむ。(3分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">2つのしきのちがいを図に表してみよう。</div> <p>○ 図をかかせて、自力解決させる。</p>	
4 自力解決をする。(5分)	◆ 机間指導の際に、絵をかいてイメージを持たせたり、ブロックを使って実際に作業させたりする。	
5 全体で話し合う。(10分)	◆ 別の児童に説明させたり、ペアで説明し合ったりして考えを確かかなものにさせる。	
6 かけ算のポイントを押さえる。(2分)	○ 式の意味を確認できたら、1つ分が違えば、式が変わるため、1つ分に注意することがかけ算のポイントであることを押さえる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">○○○○○</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">○○○○○</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">図にするとこうなるのかな。</div>

7 適用問題を  
解く。(10分)

【A】① もんだいに合うように、もんだいとしきを線でつなげましょう。また、しきに合う図を線でつなげましょう。

<p>1はこ6こ入りのだんごが4はこあります。だんごはぜんぶで何こありますか。</p>	$4 \times 6 = 24$		<p>○○○○○○</p> <p>○○○○○○</p> <p>○○○○○○</p> <p>○○○○○○</p>
<p>みかんが6ふくろあります。1ふくろに4こ入っています。みかんは、ぜんぶでなんこありますか。</p>	$6 \times 4 = 24$		<p>○○○○</p> <p>○○○○</p> <p>○○○○</p> <p>○○○○</p> <p>○○○○</p> <p>○○○○</p>

【B】つぎのもんだいを読み、答えましょう。

グミが同じ数ずつ入ったふくろがいくつかあります。グミぜんぶの数は  $9 \times 6$  のしきでもとめられます。

つぎの中で正しいものには○、正しくないものには×をつけましょう。

①グミのふくろはぜんぶで9つあるね。( )

②グミは1ふくろに9つつ入っているね。( )

③グミのふくろはぜんぶで6つあるね。( )

④グミは1ふくろに6こずつ入っているね。( )

8 振り返りを  
する。(5分)

○ 今日の学習で分かったことや友達の考えのよいところについて、振り返る。

【A】は授業と同じやり方で解けばいいんだな。

【B】難しいな。問題の意味が分からないよ。

○ 1つ分の違いに着目して、図を用いて式の意味を考え、説明している。【思・判・表】(プリント)

・ かけ算の式の意味は「1つ分の数」×「いくつ分」＝「ぜんぶの数」だということが分かった。

・ 出てきた数字の順番通りに足すたし算とはやり方が違うんだな。

・ 図にかくと分かりやすくなるな。

# 分数を使った大きさの表し方を調べよう

## 3年 分数

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力

### 1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第3学年の「A 数と計算」の内容に基づき設定した。小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

A (6) 分数とその表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(7) 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知ること。また、分数の表し方について知ること。

(f) 分数が単位分数の幾つ分かで表すことができることを知ること。

(g) 簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(7) 数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、分数を日常生活に生かすこと。

### (1) 単元観

分数の学習は、児童にとって困難な学習内容とも言われている。つまずかせる大きな原因の1つには、量の大きさを表す分数と、割合を表す分数の指導の混乱があげられる。第2学年では、ある大きさの半分や4つに分けた1つ分といった簡単な分数について学習している。第3学年では、これらの経験を踏まえて、長さやかさの端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを表すのに分数を用いることを知り、それらを適切に用いることをねらいとしている。

また本単元では、分数の大きさを図や数直線上に表したり、同分母分数の加法・減法の仕方を考えたりすることで、分数の意味や表し方が分かるとともに、同分母分数の加法・減法の意味について理解することもねらいとしている。本教材は、分数の大きさを図や数直線上に表したり、それをもとに小数の大きさと関係付けたり計算の仕方を考えたりすることで、1をもとにした分数の大きさを捉えていく。このような見方は、基準量の分数倍にあたる量を求める考え方や、1をもとにしたときの割合分数で表す考え方や、整数の除法の結果を表す商分数の学習へとつながるため、系統性を意識した指導が必要であると考える。

### (2) 児童観

#### 学級の実態

レディネステストで分数を図や数直線上から読み取る問題の正答率は74%だった。分数を図や数直線上に表す問題の正答率は83%だった。分数は1を等分した大きさを表した数であることや等分した数が分母でそのいくつ分かが分子になることが分かるようにしていく必要がある。

また、1Lや1mを等分した大きさを分数に表すこと(量分数の表し方やその意味)や等分した大きさを合わせた大きさが1になることへの理解が十分とは言えなかった。

#### 個へのアプローチ

令和2年度「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙を実施した。その結果、「授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。」(84.6%)、「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるよう発表を工夫していきます。」(69.2%)に課題が見られた。1学期と比べると、自分の考えを発表することについての意識が少し高まった。しかし、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることについて、苦手意識をもっている児童もいる。そこで、説明に関する思考力や表現力も高めていきたいと考える。

また、分数は1を等分したいくつ分の大きさを表した数であることを理解することに課題がある児童がいる。

### (3) 指導観

本単元では、第2学年までに学習したことを基に、分数の意味や表し方を学習していく。導入では、はしたの長さをどう表せばよいかを考えさせ、1mを何等分かした1つ分で表せることに気付かせていく。等分した大きさを分数で表すことについて理解させることは、第5学年で学習する分数が割合や商を表すことにつながるため、重要である。また、分数で表した長さを実際に見たりそれを基に測定したりする経験をさせることで、量分数で表すことに親しませたい。さらに、分数をL・dLマスの図やテープ図、数直線上に表して数量の大きさを掴ませていくことで、分数が表す数量への見方を広げていく

本単元の学習では、次のことに留意したい。

1つ目は、一人一人が考えを伝え合う場を設定することである。考えを確かめたり広げたり深めたりするために、全体交流の前には自由に友達と話し合う時間を設け、全員が話したり聞いたりできるようにしたい。そのためにも、自分の考えを書く時間を十分に確保していく。

2つ目は、児童自身が課題を設定することである。問題から既習との違いを見付け、課題を設定することで、目的意識をもって学習できるようにしたい。

3つ目は、同分母分数の加法・減法は、単位分数のいくつ分で考えると整数や小数と同様にできることに気付かせることである。分子同士の計算で機械的に処理するのではなく、その意味をしっかりと理解させたい。

**(4) 単元の目標 (めざす児童の姿)**

○ 分数の意味や表し方, 簡単な場合の加法及び減法の意味について理解する。	(知識及び技能)
○ 同分母分数の大小比較や加法・減法の仕方について, 単位分数のいくつ分かで表して考える。	(思考力, 判断力, 表現力等)
○ 分数や分数で学習したことを学習や生活に生かそうとする。	(主体的に学習に取り組む態度)

**2 単元の評価規準**

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	分数の意味や表し方, 同分母分数の加法及び減法の意味について知っている。	同分母分数の大小比較や加法・減法の仕方を単位分数のいくつ分かで表して考えている。	分数で表すことよさに気づき, 学習や生活に生かそうとしている。

**3 指導計画 (全10時間)**

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>1m のテープを等分した長さやはしたの長さを単位分数で表す。(1)</p>	<p>○分の1で表せない長さは, どのように表そう。</p>	<p>いろいろな等分した長さやはしたの長さを分数で表そうとしている。</p> <p>【態度】(ノート, 発言)</p>
	<p>【本質的な問い】 分けた長さやかさは, 分数でどのように表すことができるだろう。</p>		
二	<p><b>情報の収集</b>      <b>整理・分析</b></p> <p>単位分数のいくつ分という見方で, 長さやかさを分数や図に表す。(2)</p> <p>分数を使って, 長さやかさをはかる。(1)</p> <p>分数の仕組みを調べ, 同分母分数の大小比較をする。(1)</p> <p>分数を正しく表している図を考える。(1) (本時6/10)</p> <p>分数と小数の関係を調べ, 大小比較をする。(1)</p> <p>分数のたし算・ひき算の問題場面を図や数直線に表し, 計算の仕方を考える。(2)</p>	<p>○分の1のいくつ分を考えれば, 分数で表せるね。</p> <p>1mや1Lを何等分したいいくつ分で見ればいね。</p> <p>身近な長さやかさも分数で表せるんだね。</p> <p>○分の1のいくつ分を考えれば比べられるね。</p> <p>1mや1Lを何等分したいいくつ分になっているか考えればいね。</p> <p>0.1と<math>\frac{1}{10}</math>は同じ大きさだね。</p> <p>○分の1のいくつ分を考えれば, 整数と同じように計算ができるんだね。</p>	<p>分数の表し方を理解し, 分数を図に表すことができる。</p> <p>【知・技】(ワークシート)</p> <p>図に表された数量を分数で表すことができる。【知・技】(ワークシート)</p> <p>身近なものの長さやかさを分数で表している。【態度】(発言・行動観察)</p> <p>大小比較の仕方や1と等しくなる分数があることを知っている。</p> <p>【知・技】(発言・ノート)</p> <p>1mや1Lを何等分したいいくつ分になっているかという見方を用いて分数を正しく表した図について考えている。</p> <p>【思・判・表】(発言・ノート)</p> <p>分数と小数の大きさの関係を知っている。【知・技】(発言・ノート)</p> <p>同分母分数の加法・減法の仕方を単位分数の幾つ分かで考えている。</p> <p>【思・判・表】(発言・ノート)</p>
三	<p><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>ふりかえり</b></p> <p>学習したことを活用し, 問題作りをして解き合ったり, 練習問題に取り組んだりする。(1)</p>	<p>分けた大きさを分数で表すとき, ○分の1のいくつ分を考えることが大切だね。</p>	<p>進んで分数の問題を作ったり解いたりしている。</p> <p>【態度】(ノート・行動観察)</p>

**5 本時の展開 (6/10)**

**(1) 本時の目標**

長さの基準量に着目して, 1mや1Lを何等分したいいくつ分になっているかという捉え方を用いて分数を正しく表した図について説明することができる。

**(2) 観点別評価規準**

1mを3等分した1つ分という捉え方を用いて, テープ図が $\frac{1}{3}$ mを表していない理由を説明している。

1Lを○等分した△つ分は $\frac{\Delta}{\circ}L$ という捉え方を用いて、マス図が $\frac{2}{4}L$ を表していることを説明して

いる。

【思・判・

表】

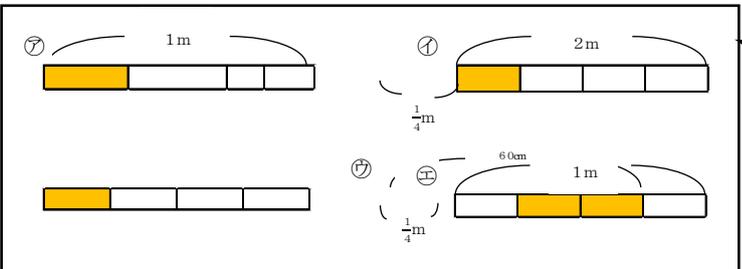
### (3) 適用題の設定理由

数値を変えた場合でも、1Lを○等分した△つ分は $\frac{\Delta}{\circ}L$ という捉え方を用いて、分数を求めることができ

る

かを見るとともに、自力解決できなかった児童のつまずきの原因を分析し、今後の指導に生かす。

### (4) 学習の展開

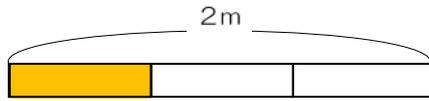
学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
<p>1 問題に出 合い、めあて を設定する。 (3分)</p>	<p>○ 重光くんが<math>\frac{1}{4}m</math>の図をかこうとしていたが、分からなくなっ てしまったという場面を提示し、㊦から順番に図を提示してい く。</p>  <p>㊦ 1m ㊧ 2m ㊨ 60cm ㊩ 1m</p>	<p>重光くん、何かまちが えていそう。</p> <p>正しい図はあるのか な。 <math>\frac{1}{4}m</math></p> <p><math>\frac{1}{4}m</math></p>
<p>どれが正しい図かを説明しよう。</p>		
<p>2 自力解決 する。(8分)</p>	<p>○ 児童が図に書き込んで考えることができるように、テープ図 を配布する。</p> <p>◆ 量感をイメージできるよう、実際の長さのテープを用意し、 自由に見たり触れたりすることができるようにする。</p> <p>○ なるべく理由を書きやすいものから書かせるようにする。児 童にとっては、おそらく㊦と㊩は説明しやすいと予想される。</p> <p>◆ ㊦は児童がつまずきやすい図であると考え。分数について の理解が十分でない児童は、全体を「2m」として捉えてしま う可能性がある。自力解決の段階で児童の実態を見取ってお く。</p>	<p>㊦は1mを4等分して いないからちがうよ。</p> <p>㊩は1mを4等分した 2つ分の長さで、<math>\frac{2}{4}m</math>にな っているよ。</p> <p>㊦は60cmを4等分 した1つ分の長さになっ ているからちがうよ。</p> <p>㊦は2mを4等分した 1つ分の長さになってい るからちがうよ。</p>
<p>3 考えを出 し合い、練り 合う。 (16分)</p>	<p>○ 「1m」という普遍的な基本単位をもとにして、それを何等 分したいいくつ分になるのかを、児童の説明からおさえていける ようにする。</p> <p>◆ 自力解決の段階で、説明できなかった児童が、友達のを 聞いて分かったことを、書く時間、または友達と話して確認す る時間を確保し、変容を見取る。</p>	<p>友達の発表を聞いて、 ㊦～㊩の図がまちがって いる理由が分かったよ。</p>
<p>4 まとめる。</p>	<p>1mをもとにして何等分したいいくつ分になっているかを考えるとよい。</p>	

(3分)

5 適用題に  
取り組む。  
(10分)

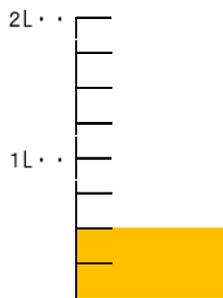
【A】

重光くんは $\frac{1}{3}m$ の図を表そうとして、下の図のよう  
にかきました。しかし、下の図はまちがっています。  
その理由を説明しましょう。



【B】

下の図は何Lを表しているでしょうか。番号をえらびましょう。また、  
なぜその番号をえらんだのかも答えましょう。



①  $\frac{2}{8}L$

②  $\frac{2}{4}L$

- ①自分の成長
- ②友達から学んだこと
- ③うまくいったことや失敗したこと
- ④新たな疑問

6 振り返る。  
(5分)

○ 1 mを3等分した1  
つ分という考え方を  
用いて、テープ図が $\frac{1}{3}m$ を  
表  
していない理由を説明  
している。

【思・判・表】(ワーク  
シート)

この図は2mを3等分  
した1つ分になっている  
よ。

$\frac{1}{3}m$ は1mを3等分  
した1つ分のことだよ。

1Lで見ると4等分し  
ているから1めもりが  
 $\frac{1}{4}L$ になり2めもりある  
から $\frac{2}{4}L$ になるね。

○ 1Lを○等分した△つ  
分は $\frac{\triangle}{\circ}L$ という捉え方を  
用いて、マス図が $\frac{2}{4}L$ を  
表していることを説明  
している。

【思・判・表】(ワーク  
シート)

# どうやって比べたらいいだろうか

## 5年 割合

本単元で育成する資質・能力

主体性・積極性 思考力・表現力

## 1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第5学年の「C 変化と関係」の内容に基づき設定した。小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

C (3) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。

(イ) 百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。

## (1) 単元観

本単元は、基準量を1としたとき、比較量がどれだけにあたるかを割合で表し、それを用いて数量の関係の比べ方を考察することができるようになることをねらいとしている。

本単元は、「単位量あたりの大きさ」、「小数のかけ算」、「小数のわり算」、「小数の倍」で学習したことをもとに、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べる方法を考察し、割合で表すことができるようになることをねらいとしている。その際、2つの数量の関係を図に表して立式したり、図を基にその理由を考えたりしていく。図を基に2つの数量の関係を適切に捉えさせることで、基準量・比較量・割合の関係やそれぞれの求め方を理解させていく。

## (2) 児童観

## 学級の実態

8月に行った意識調査のアンケートによると、「算数が好き・得意」と答えた児童が67%、「あまり好き・得意ではない」と答えた児童が33%であった。その理由として、「文章問題が難しくて分からないから」「わり算などの計算が苦手だから」などが挙げられた。

また、「算数の学習で友達と話し合うことは大切だ」と感じている児童は90%だが、「友達に自分の意見を伝えている」という児童は67%であった。伝えることができない理由としては、「自信がないから」「うまく説明ができないから」という理由が挙げられていた。算数への苦手意識から意見を言うことへの抵抗感が見られる。

## 個へのアプローチ

8月に実施したレディネステストにおいて、基準量を求める問題での課題が見られた。立式はできていても、正しく図がかけていない児童が見られたことから、問題の意味を理解しているのではなく、感覚的に立式している児童もいると考えられる。

## (3) 指導観

本単元では、導入で問題の具体的な場面を見せ、問題の全体像をイメージしやすくなるよう工夫していく。そうすることで算数に苦手意識をもつ児童が、何を求めているのかを図に表しやすくなることを考える。

また、自力解決の前に見通しをもたせたり、全体交流の前後にペアで考えを説明し合ったりさせ、立式や説明ができるようにしたい。自信がない児童は全体で説明することに抵抗感を示すため、全体交流の前だけでなく、全体交流の後にもペアでの説明をすることで、だんだんと説明の仕方や考え方をつかんでいけるようにしたい。

レディネステストから、式の意味を説明したり、図をかいて何を求めているかをつかんだりすることにつまずく児童がいると予想される。特に、基準量を求める場面では、1にあたる部分がどこかが分かりづらくなるため、問題文に返りながら図に□や矢印を書き込んで思考させることで、基準量と比較量の関係の理解につなげたい。

## (4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 2つの数量の関係について、割合を用いた比べ方や百分率の表し方などを理解し、割合を用いて比べたり、割合や百分率を求めたりする。(知識及び技能)
- 2つの数量の関係に着目し、倍の意味を基に、割合を用いた比べ方や表し方を図や式などを用いて考え表現する。(思考力、判断力、表現力等)
- 2つの数量の関係を比べ方や表し方などを、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりする。(主体的に学習に取り組む態度)

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	2つの数量の関係について, 割合を用いた比べた方や百分率の表し方などを理解し, 割合を用いて比べたり, 割合や百分率を求めたりすることができる。	2つの数量の関係に着目し, 倍の意味を基に, 割合を用いた比べ方や表し方を図や式などを用いて考え表現している。	2つの数量の関係の比べ方や表し方などを, 図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り, 多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり, 数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

### 3 指導計画 (全10時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>割合が用いられている身の回りの事象やその表し方について考える。(1)</p>	<p>もとにする量の「4割」や「20%」ってどういうことだろう。</p>	<p>割合が用いられていることに関心をもっている。【態度】(発言・ノート)</p>
	<p><b>【本質的な問い】</b> 割合ってどういうことだろう。</p>		
二	<p><b>情報の収集</b>      <b>整理・分析</b></p> <p>倍の意味を基にして, 割合を用いた2つの数量の関係の比べ方を図や式を用いて考え説明する。(2) (本時2/10)</p> <p>百分率や歩合の意味とその表し方を理解する。(1)</p> <p>比較量の求め方を考える。(1)</p> <p>基準量の求め方を考える。(1)</p> <p>練習問題に取り組む。(1)</p> <p>和や差を含んだ割合の場合について, 比較量の求め方を考える。(1)</p>	<p>(比べられる量) ÷ (もとにする量) で, もとにする量を1としたとき, 比べられる量がいくつにあたるかを求められるね。このように表した数を「割合」というんだね。</p> <p>もとにする量が変わると割合も変わるね。このとき, 割合が1よりも大きくなることもあるよ。</p> <p>もとにする量を100にして表した割合を百分率と言い〇%と表し, 0.1を1割と表した割合を歩合と言うんだね。</p> <p>割合は, 百分率でも歩合でもどちらでも表せるね。</p> <p>(もとにする量) × (割合) で, 比べられる量が求められるね。</p> <p>(比べられる量) ÷ (割合) で, もとにする量が求められるね。</p> <p>30%引きとは100%の代金から30%を引いた残りの70%の代金のことだね。</p>	<p>2つの数量の関係を比べるときに, 全体を1とみて部分の大きさを表して比べる方法を考え説明している。</p> <p>【思・判・表】(発言, ノート)</p> <p>もとにする量を考えて立式し, 割合を求めている。【知・技】(ノート)</p> <p>百分率や歩合の表し方を理解し, 割合を百分率で表したり, 百分率で表された割合を小数で表したりしている。</p> <p>【知・技】(ノート)</p> <p>倍の第2用法の場面と統合的にとらえ, 図や式を用いて説明している。</p> <p>【思・判・表】(発言・ノート)</p> <p>基準量を求める式を導くのに, □を用いた比較量を求める式を基に考え, 説明している。</p> <p>【思・判・表】(発言・ノート)</p> <p>基本的な問題を解決している。</p> <p>【知・技】(ノート)</p> <p>割引の場面で, 引かれる金額や割合に着目して解決の仕方を考え, 説明している。</p> <p>【思・判・表】(発言・ノート)</p>
三	<p><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>実行</b></p> <p>単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ, 論理的に考察し, 問題を解決する。(1)</p> <p>評価問題に取り組むとともに, 学習を振り返る。(1)</p>	<p><b>ふりかえり</b></p> <p>身の回りのいろいろなことは, 割合を使って表したり大きさを求めたりできるね。</p> <p>割合で表すのはどういうことか分かったよ。</p>	<p>学習内容を生活に生かそうとしている。【態度】(発言・ノート)</p> <p>自分の学び方や学習・生活とのつながりについて, 振り返っている。</p> <p>【態度】(発言・ノート)</p>

4 本時の展開 (2/10)

(1) 本時の目標

基準量に対してどれだけシュートが成功したのかということに着目して、入った回数とシュートした回数の関係を分数に表したり、数直線図で比較したりするなどの考え方を使って、誰がシュートの成功率がよいかを考えることができる。

(2) 観点別評価規準

基準量に対してどれだけシュートが成功したのかということに着目して、入った回数とシュートした回数の関係を分数に表したり、数直線図で比較したりするなどの考え方を使って、誰がシュートの成功率がよいかを考えている。

【思・判・表】

(3) 適用題の設定理由

【A】では、本時の理解を図ることをねらいとしており、【B】では、前時の比較量を求める時に出てきた「〇%引き」の考え方を活用し、基準量を求めることができるかを見取ることで、今後の指導に生かす。

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応																																													
<p>1 問題に出合い、見通しをもつ。(5分)</p>	<p>○ 導入で何回中何回成功しているのかということに着目させる。</p> <p>シュートがいちばんよく成功したといえるのはだれですか。</p> <table border="1" data-bbox="375 873 1077 1030"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">○: 入った</th> <th colspan="2">●: 入らなかった</th> <th colspan="2">入った回数(回)</th> <th colspan="2">シュートした回数(回)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Aさん</td> <td>●</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>4</td><td>8</td><td>8</td><td></td> </tr> <tr> <td>Bさん</td> <td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>4</td><td>10</td><td>10</td><td></td> </tr> <tr> <td>Cさん</td> <td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>4</td><td>10</td><td>10</td><td></td> </tr> <tr> <td>Dさん</td> <td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>4</td><td>10</td><td>10</td><td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○ AさんとBさんでは、Aさんの方がシュートがよく成功していることに気付かせる。 ○ 差では比べることができないことを押さえる。 ◆ Aさんは8本中4本成功し、Bさんは10本中4本成功ということから、Aさんは半分成功しているということに気付かせる。</p>		○: 入った		●: 入らなかった		入った回数(回)		シュートした回数(回)		Aさん	●	○	○	○	4	8	8		Bさん	○	○	○	○	4	10	10		Cさん	○	○	○	○	4	10	10		Dさん	○	○	○	○	4	10	10		<p>Dさんがいちばんシュートを決めている。</p> <p>シュートした回数がばらばらだな。</p> <p>AさんとBさんならすぐ比べられそうだよ。</p> <p>Aさんは<math>\frac{4}{8}</math>, Bさんは<math>\frac{4}{10}</math>と表せるよ。そしたらAさんは半分成功したことになるね。Bさんは半分以上より少ないね。</p>
	○: 入った		●: 入らなかった		入った回数(回)		シュートした回数(回)																																								
Aさん	●	○	○	○	4	8	8																																								
Bさん	○	○	○	○	4	10	10																																								
Cさん	○	○	○	○	4	10	10																																								
Dさん	○	○	○	○	4	10	10																																								
<p>2 本時のめあてをつかむ。(3分)</p>	<p>シュートした回数と入った回数が違う時は、どうやって比べたらよいのだろうか。</p>	<p>AさんとBさんは分かったけれど、CさんやDさんは比べられるの？</p>																																													
<p>3 自力解決をする。(7分)</p>	<p>◆ どうやったら解決できそうか見通しをもたせる。 ・分数で表して通分して比べる ・分数で表して小数にした数を比べる ・数直線図を使って比べる などの考えが予想される。</p>	<p>Cさんは<math>\frac{8}{10}</math>, Dさんは<math>\frac{9}{12}</math>をそれぞれ通分して大きさをそろえます。すると、Cさんは<math>\frac{48}{60}</math>, Dさんは<math>\frac{45}{60}</math>となるので、Cさんの方がよく成功している。</p>																																													
<p>4 全体で話し合う。(10分)</p>	<p>○ どの比べ方がよいのかに焦点を向け、小数で比べるよさに気付かせたい。 ○ 児童の理解度に応じて、ペアで話し合う時間を確保する。 ◆ 児童のつまづきを把握するとともに、どうしたらできるようになるか、その続きを全体で考える。</p> <table border="1" data-bbox="406 1780 1061 2060"> <thead> <tr> <th></th> <th>0</th> <th>8</th> <th>10</th> <th>(回)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cさん</td> <td colspan="4">_____</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0</td> <td>□</td> <td>1</td> <td>倍</td> </tr> <tr> <th></th> <th>0</th> <th>9</th> <th>12</th> <th>(回)</th> </tr> <tr> <td>Dさん</td> <td colspan="4">_____</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0</td> <td>□</td> <td>1</td> <td>倍</td> </tr> </tbody> </table>		0	8	10	(回)	Cさん	_____					0	□	1	倍		0	9	12	(回)	Dさん	_____					0	□	1	倍	<p>Cさんは<math>\frac{8}{10}</math>だから、<math>8 \div 10 = 0.8</math>と小数で表すことができるよ。</p> <p>Dさんは<math>\frac{9}{12}</math>だから、<math>9 \div 12 = 0.75</math>だから、やっぱりCさんだね。</p>															
	0	8	10	(回)																																											
Cさん	_____																																														
	0	□	1	倍																																											
	0	9	12	(回)																																											
Dさん	_____																																														
	0	□	1	倍																																											

○ 「シュートした回数」が「もとにする量」であることや、「1」にあたる数であることを確認する。

◆ 数直線図で「1」の位置を揃えて提示することで、Cさんの方がよく成功していることを視覚的に捉えさせる。また、Aさんとも比較させることで「0.8」の方がよく成功しているということに気づきやすくできると考える。

割合でみると、Cさんが一番大きいから、よくシュートが成功したと言えるね。

5 まとめる。  
(5分)

○ 求めた「0.8」や「0.75」はこれまでも「〇倍」と表してきたことを確認し、「〇倍」のことを「割合」ということを押さえる。

○ 割合=比べたい量÷もとにする量で求めたことを確認する。

○ 基準量に対してどれだけ成功したかに着目して、シュートがよく成功した方を考えている。

【思・判・表】(ワークシート)

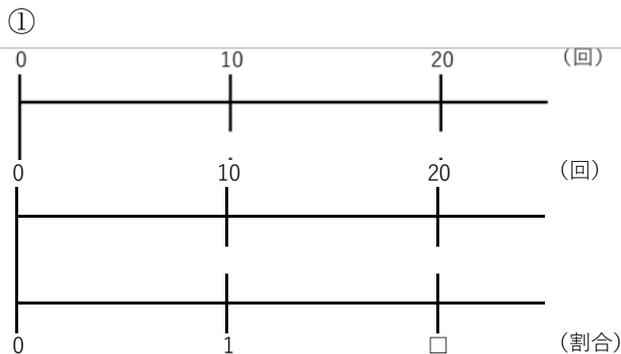
6 適用題を解く。  
(10分)

もとにする量がちがうものを比べる時には、  
割合を用いて比べるとよい。

	入った回数(回)	シュートした回数(回)
<b>[A]</b> EさんとFさんではどちらがシュートがよく成功したといえるか説明しましょう。	7	10
Fさん	6	8

**[B]** ひろしさんは20回シュートしたうち10回成功したので、シュートの成功した割合は「 $20 \div 10 = 2$ 」で「2」であると考えました。この考え方は正しいでしょうか。それとも正しくないでしょうか。理由を説明しましょう。

また、この場面での正しい図は下の2つのうち、どちらでしょうか。



7 振り返る。  
(5分)

○ 本時の学びについて振り返らせる。

# 比を使った割合の表し方を調べよう

## 6年 比

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

### 1 単元について

○ 本単元は、小学校学習指導要領第6学年の「C 変化と関係」の内容に基づき設定した。小学校学習指導要領には、以下のように示されている。

C (2) 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 比の意味や表し方を理解し、数量の関係を比で表したり、等しい比をつくったりすること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。

### (1) 単元観

本単元では、比の意味や表し方を理解し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考える力を付けることをねらいとしている。第5学年の「割合」の学習では、数直線図や式を用いて、二つの数量の関係どうしの比べ方を考え、日常生活に生かすことを学習してきた。本単元は、既習の割合の学習と関係づけて考えたり、図や式を用いて数量の関係の比べ方を説明したりすることができる単元である。「割合」についての学習では、系統的にテープ図や数直線図をかき、数量の関係を理解させたり根拠を説明させたりする学習を行ってきた。本単元においても、数直線図や線分図をかくことで、立式することやその根拠を説明する力を育てることができると考えられる。

### (2) 児童観

#### 学級の実態

算数科に関わるアンケートの結果、「算数の学習では、前に習ったことを使って考えている」児童の割合が78%であった。既習を活用したり既習と関連付けたりすることに課題があると考えられる。

レディネステストの結果、問題に対して正しく立式することができた児童は97%、なぜその式になるのか図や言葉で説明できた児童は80%である。このことから、正しく立式することはできているが、立式の根拠となる図がかけなかったり、式と図を結び付けて説明したりすることに課題がある。

#### 個へのアプローチ

これまでの学習では2本の数直線図を用いて学習をしてきているため、線分図をかくことに慣れていない児童が多くいると考えられる。

また、自力解決では、素早く自分の考えが書ける児童となかなか自分の考えが書けない児童もいる。

### (3) 指導観

既習を活用して考えることができるという児童の実態から、比の値を求める学習をする際には、割合の学習で使った数直線図をかいたり、「○を1とみたとき、△がどれだけにあたるのか」を表していることを説明させたりすることで既習の割合と比を関連付けて考えさせていく。また、5年で学習した割合を比で表す問題を解き、「表し方が違っても同じ割合」ということに気付かせることで、比と5年の割合を統合的に捉えられるようにしていく。

全体と部分の関係を考える比の問題場面では、立式の根拠を説明するために既習の数直線図や線分図を活用して、式と図を結び付けて立式の根拠が説明できるように指導していく。

線分図をかく手立てとして、絵図を用いて例えば「比が5:7になるところでストップと言って。」と問い、線分図上の5:7をイメージさせる。また、ノート1マスにメモリを打って線分図をかくように指導していく。全体で確かめる時間を設定し、全員が問題に合う線分図がかけられるようにさせる。自分の考えをもつことができるようにするために、「問題を解くために大切な数字は何?」「今までの学習が使える?」と発問し、解決の見通しをもたせる。

### (4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 比の意味や表し方を理解し、2つの数量の関係を比で表したり、等しい比をつくったりする。  
(知識及び技能)
- 比を用いた関係の比べ方を既習の割合と関係づけて統合的にとらえたり、図や式で考えたりする。  
(思考力、判断力、表現力等)
- 比でとらえたことや数学的に表現・処理したことを日常生活と関連付けたり今後の学習に活用したりしようとする。  
(主体的に学習に取り組む態度)

## 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	比の意味や表し方を理解し, 2つの数量の関係を比を用いて表している。 比の値を求めたり等しい比を見つけたりしている。 比の性質を用いて, 等しい比をつくっている。	既習の割合との関係に着目して, 比の意味を統合的に考えている。 比の性質に着目して, 線分図や式を用いて, 比例配分する方法などを考えている。	比でとらえたことや数学的に表現・処理したことを振り返り, 今後の生活や学習に活用しようとしている。

## 3 指導計画 (全9時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>既習の割合を振り返り, 課題を設定する。(1)</p>	<p>「果汁20%」だとどれだけ増えても同じ割合で混ざっている。「小さじ2杯と3杯の割合」をどれだけ増やしても同じ割合で混ざるようにするにはどうすればよいだろうか。</p>	<p>既習の割合を振り返り, 既習の割合の表し方との違いを考えている。</p> <p>【態度】(ノート, 行動観察)</p>
	<p><b>【本質的な問い】</b> 割合を比で表すとどんなよさがあるのだろうか。</p>		
二	<p><b>情報の収集</b></p> <p>比の意味と表し方について理解する。(1)</p> <p>比の値や等しい比の意味について理解する。(1)</p> <p>等しい比同士の関係を調べ, 等しい比のつくり方を考える。(1)</p> <p>比の性質や比の値を用いて, 比を簡単にする方法を考える。(1)</p> <p>小数や分数で表された比を簡単にする方法を考える。(1)</p>	<p><b>整理・分析</b></p> <p>1とみる小さじの数量を変えればどれも2と3の割合になっている。</p> <p>a:bの比の値は, bを1とみたとき, aがどれだけにあたるかを表している。数直線図に表して考えるとよくわかる。比の値を求めることは, 5年で学習した割合と同じことだ。</p> <p>比の両方の数に同じ数をかけたり, 両方を同じ数で割ったりすると等しい比が作れる。</p> <p>比を表す2つの数を, 公約数でわれば, 比を簡単にすることができる。等しい比を使って考える方法と比の値を求める方法の両方とも同じ数で割っている。</p> <p>小数や分数の比は, 整数に直してから簡単な比に直すことができる。</p>	<p>1とみる量を変えることに着目し, どれも同じ比だと考えることができる。【知・技】(ノート, 行動観察)</p> <p>既習の割合と比を統合的に捉え, 比の値の意味を考えることができる。</p> <p>【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p> <p>等しい比の関係に着目し, 等しい比のつくり方を考えている。</p> <p>【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p> <p>公約数に着目して, 比の相等を分数の相等と関連付けて考えている。</p> <p>【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p> <p>整数の比に直すことに着目し, 比を簡単にする方法を考えている。</p> <p>【知・技】(ノート, 行動観察)</p>

	<p>比の性質に着目し、比の一方の値を求める方法を考える。(1)</p> <p>比の性質に着目し、全体の量を比例配分する方法を考える。(1) (本時8/9)</p>	<p>比の一方を1とみて、かけ算の式を使って求めたり、等しい比をつくったりすれば比の一方の量を求めることができる。線分図を使うと比や長さの関係が分かりやすい。</p> <p>比の全体を1とみて、かけ算の式を使って求めたり、部分と全体の等しい比をつくったりすると求めることができる。</p>	<p>部分量にあたる比に着目して、比の一方の量を求める方法を線分図や比の性質を使って考えている。</p> <p>【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p> <p>全体量にあたる比に着目して、全体の量を比例配分する方法を、比の性質や図を用いて考えている。</p> <p>【思・判・表】(ノート, 行動観察)</p>
三	<p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>単元全体の学習を振り返る。(1)</p>	<p><b>ふりかえり</b></p> <p>比は割合を2つの数で表す方法で、5年で学習した割合は、割合を1つの数で表す方法だということが分かった。比で表すと、2つの量の関係が分かりやすくなる。生活の中でも比を用いているものを見つけたり比を使って解く方法を考えたりしていきたい。</p>	<p>比でとらえたことや数学的に表現・処理したことを振り返り、今後の生活や学習に活用しようとしている。</p> <p>【態度】(ノート, 行動観察)</p>

#### 4 本時の展開 (8/9)

##### (1) 本時の目標

全体量にあたる比に着目して、全体の量を比例配分する方法を、比の性質や図を用いて考えることができる。

##### (2) 観点別評価規準

全体量にあたる比に着目して、全体の量を比例配分する方法を、比の性質や図を用いて考えている。

【思・判・表】

##### (3) 適用題の設定理由

適用題Aは、本時の学習で扱った見方・考え方を働かせて問題を解くことができるかを見取るために設定した。

適用題Bは、何を1とみているかの違いが説明できるかを見取るために設定した。

##### (4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 問題に出会う。(7分)	<p>○ 前時の学習を掲示物で振り返る。</p> <p>○ 本時の問題に関連する問題を提示する。</p> <p>長さ48cmのロールケーキがあります。そのロールケーキをさとし君とさおりさんと1:1の割合になるように分けます。さとし君のロールケーキは何cmですか。</p> <p>長さ48cmのロールケーキがあります。そのロールケーキをさとし君とさおりさんと47:1の割合になるように分けます。さとし君のロールケーキは何cmですか。</p> <p>◆ 絵図を用いて、それぞれの割合のイメージをもたせる。</p> <p>◆ 線分図を提示しながら答えを確認する。</p>	<p>1:1だから48cmの半分の24cmだ。</p> <p>さとし君のロールケーキは47cmだ。さとし君はよくばりだな。</p>

長さ48cmのロールケーキがあります。そのロールケーキをさとし君とさおりさんで5:3の割合になるように分けます。さとし君のロールケーキは何cmですか。

全体の長さが分かっているな。

2 本時のめあてをつかむ。(5分)

◆ 2つの問題の線分図を基に本時の問題の線分図をノートにかかせる。

5:3のときも、さとし君のロールケーキの方が長いな。

○ 前時との違いや児童のふり返りからめあてを立てるようにする。

5にあたることを求める方法を考えよう。

さとし君のロールケーキの長さを求めるから比の5という数字は大切だ。

3 自力解決をする。(6分)

◆ 問題を解く方法の見通しを交流する。

ロールケーキ全体の割合も大事だと思うから8という数字も大切だ。

◆ この問題を解くのに、「大切な数字って何？」と発問し、全体の割合や数量に着目させる。

4 全体で話し合う。(15分)

○ 見通し場面で出た意見を基に自力解決に取り組ませる。

1あたりの数が分かれば長さは分かりそうだから1という数字も大事だと思うよ。

◆ 自力解決ができた児童や自信がない児童は、友達と解決方法を交流して自分の考えを広げたり確かなものにさせたりする。

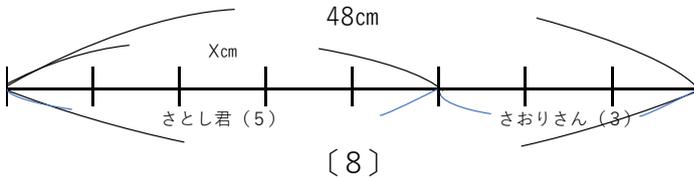
○ 数名の児童に黒板に解決方法を書かせる。

○ 説明する児童には、「ここまで分かりますか。」など児童の反応を確かめながら説明させる。

比の式を使って考えると、  
 $5:8=X:48$ になります。 $X=5 \times 6$ をして30になるので、答えは30cmになります。」

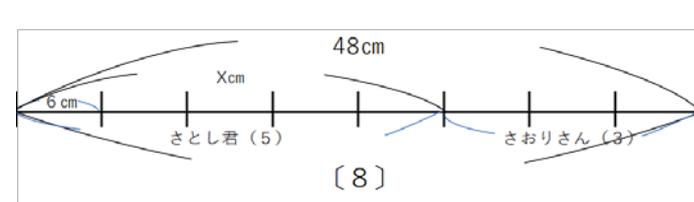
◆ 別の児童に説明させたり、ペアで説明し合ったりして考えを確かなものにさせる。

① 【等しい比を作る考え方】



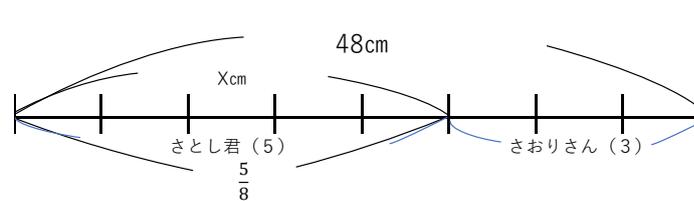
比の1つ分は $48 \div 8 = 6$ ですよね。さとし君のケーキの長さはその5つ分あたるから $6 \times 5 = 30$ で30cmになります。

② 【1あたりを求める考え方】



全体を1とすると、さとし君のケーキの長さは全体の $\frac{5}{8}$ にあたるよ。だから、 $48 \times \frac{5}{8}$ をして30cmになります。

③ 【全体を1として $\frac{5}{8}$ にあたる数を求める考え方】



全体の割合の8を使って考えることが大切だ。  
 1を使って考えることが大切だ。  
 これまでに習った等しい比を使って考えることが大切だ。

○ 自分の考えを広げたり友達の考えを聞いて自分の考えを整理

<p>5  まとめをする。(2分)</p> <p>6  適用問題を解く。(10分)</p>	<p>したりするために、ノートを整理する時間を作る。</p> <p>◆ 「今日のような問題を解くときに大切なことは何だろう。」と発問し、考えを整理させていく。</p> <p>○ 比の全体を1とみたり、線分図1あたりを求めて考えたり、比の式を使って考えたりできることを確認する。</p> <p>次のような問題についてA問題とB問題を解きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>問題</p> <p>120枚の色紙を、たかしさんとまことさんとで枚数の比が2:3になるように分けます。たかしさんの色紙は何枚になりますか。</p> </div> <p>A問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>問題にあう線分図をかきましょう。また、たかしさんの色紙を求めましょう。</p> </div> <p>B問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>たかしさんの色紙を求める方法を、ゆうしさんは<math>120 \times \frac{2}{3}</math>で解きました。ゆうしさんの方法は間違っています。ゆうしさんの考えは何が間違っているのでしょうか。説明しましょう。</p> </div>	<p>○ 全体量にあたる比に着目して、全体の量を比例配分する方法を、比の性質や図を用いて考えている。</p> <p><b>【思・判・表】</b> (プリント)</p>
---	---	---

## 尾道の小路の魅力を伝えよう

本単元で育成する資質・能力

課題発見・解決力 主体性・積極性 尾道市民としてのアイデンティティ

## 1 単元について

○ 本校における総合的な学習の時間の目標及び本単元で育てたい資質・能力は以下の通りである。

郷土を素材とした活動や体験を通して、課題を自ら見出し、仲間と協力して探究活動に取り組む態度を育てるとともに、郷土への愛着を深め、郷土のよさを守ろうとする態度を育てる。本単元では、思考力、判断力、表現力等（課題発見・解決力）、主体的に学習に取り組む態度（主体性・積極性、尾道市民としてのアイデンティティ）の資質・能力を育てる。

## (1) 単元観

本単元においては、地域貢献を図る探究的な学習を行うことを通して、地域の小路に関する問題を取り上げ、児童自ら課題を発見し、解決方法を考えて実行することで、児童の思考力、判断力、表現力等（課題発見・解決力）と、主体的に学習に取り組む態度（主体性・積極性、尾道市民としてのアイデンティティ）を育てることをねらいとしている。

本教材は、日本遺産に登録されている尾道の街並みの中で特徴的な小路を調べる中で、小路はただの路ではなく名前の由来や、歴史を感じる物や役割、小路の中にあるお店などそれぞれに魅力がある路であることに気づき、尾道のよさを広げることができる教材である。しかし、調べる中で特徴的な小路の詳細を地元の市民や尾道を訪れる観光客の認知度は低いことにも気付く。このことで児童の問題意識を高め、問題解決の実行に向けて最善解を創造しようという課題意識を高めるために適した教材である。児童は地域の一員として問題解決に参画することで、尾道市民としてのアイデンティティを高め、自己の生き方を考える際においても適した教材である。また、本単元は国語科の「読む」、「書く」学習との関連も考慮し、目的に合わせた表し方の違いを考えたり、収集した資料を根拠にしながら伝えたいことの内容を考え、まとめる言語活動を行ったりするなど、教科学習における探究的な学習を進めることもねらいとしている。

## (2) 児童観

## 課題発見・解決学習の実態

質問紙調査※の結果、以下の実態が見られた。

課題設定では、解決しようとする課題に意欲的に取り組んでいると答えた児童は、81%であった。課題設定が苦手な児童は、「何を調べていけばよいかわからない。」と答えており、児童自身に問題意識が高まっておらず、解決したいという思いをもつことができていない。

整理・分析では、これまでの学習で表やグラフにまとめていることもあり、78%の児童が肯定的に答えている。しかし、まとめ・表現をするに当たって、整理・分析の段階で、目的意識や相手意識をもって、調べたことの中から適切な情報は何かを分析できる児童は少なく、まとめ・表現の段階で、調べたことをそのまま活用している児童が多い。

まとめ・表現では、調べた情報について目的意識や相手意識をもって取捨選択したり、まとめたりすることに課題があるため、できた物を推敲したり、改善したりすることに課題がある。

振り返りでは、学習を通して自分に付いた力を評価する力が十分とは言えない。

※基礎・基本定着状況調査児童質問紙No13～27

## (3) 指導観

本単元の課題発見・解決学習では、特に以下の点を重点に取り組む。

課題設定では、日本遺産のポスターを提示し、児童が自由に気づきを出し合う中で、尾道の数多くある有名なものの中で小路が使われているという疑問を取り上げる。そして、その魅力を探るために地域に出ることで学習に対する児童の興味・関心を高める。

整理・分析では、自分たちの気づきだけでなく、地域の人や観光客の反応から、問題点を見つけ出し、グループや全体で交流して方向性を決めるなど、仲間と協力して探究活動に取り組ませていく。また、一度完成したリーフレットについて反応を返してもらうことで、目的意識や相手意識をもって改善していくことの必要性を感じさせていく。

まとめ・創造・表現では、単元の終末ではなく、試しに一度リーフレットを作成し、見た人の反応から新たな視点を獲得することでさらに改善していく。その中で、目的達成のために情報を取捨選択し、分かりやすく表現する力を育てていく。

振り返りでは、コンピテンシー表を用いて資質・能力について力が付いたことや今後の目標を自己決定させ、自己評価する力の向上を図る。

#### (4) 単元の目標 (めざす児童の姿)

- 地域の小路には、それぞれ名前の由来、歴史、役割や特徴があることを知る。(知識及び技能)
- 探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら解決方法を考え、目的意識をもって情報収集、整理・分析、自己評価するなど、問題を解決する方法を身に付ける。(思考力、判断力、表現力等)
- 地域の小路に関する問題の解決方法を考えることを通して、地域の役に立ちたいという思いをもって、主体的、協働的に課題を解決したり、自己の生き方を考えて実践したりしようとする。(意欲・態度)
- 地域の小路に関する問題の解決に向けて解決方法を創造し実行することで、地域の一員としての自覚をもち、尾道の歴史や地域の人々の生き方を大切にす。(価値観・倫理観)

#### 2 単元の評価規準

観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度	
			意欲・態度 (主体性・積極性)	価値観・倫理観 (尾道市民としてのアイデンティティ)
評価規準	<p>地域には様々な由来をもつ小路が多くあり、その小路には歴史があること、小路には役割があることなどを理解している。</p> <p>地域の小路に関する問題や今後の課題について概要を知っている。</p>	<p>地域の問題に気付いて学習課題を設定している。</p> <p>様々な資料や聞き取りなどを活用して適切に情報を収集し、収集した情報を目的に応じて整理している。</p> <p>伝えたいことを中心に考えて表現し、自他の発表を比べながら聞いている。</p> <p>コンピテンシーに基づいて自己評価し、次の目標を書いている。</p>	<p>地域の小路に関する学習課題に対して関心をもち、進んで学習計画を立てている。</p> <p>地域の問題解決のために進んでアイデアを創造し、取り組もうとしている。</p> <p>他の人の意見も取り入れてリーフレットなどの改善案を考えている。</p> <p>これからの自分の生き方について考え、生活に生かしたいことを考えている。</p>	<p>地域の小路や歴史を保存したいという地域の人々の願いを大切にしている。</p> <p>地域の一人として地域の歴史の伝承に貢献することの意義や素晴らしさを感じている。</p>

#### 3 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元においては、地域の小路に関する問題を題材として取り上げ、地域に住む人々とのかかわりを通して地域の小路に関する問題に気づき、解決方法を創造して実行する活動を中心とした単元を構成することで、児童の主体的な課題発見・解決学習を支援する。これらのことを通して、地域の小路に関する現状と人々の願いについての理解(知識)を深め、情報収集や整理・分析、振り返りなどを繰り返しながら探究活動に慣れることで課題発見・解決力(思考力、判断力、表現力等)を育成する。また、地域のために役に立ちたいという思いを抱かせることで主体的に学習に取り組む態度(課題解決への主体性・積極性や尾道市民としてのアイデンティティ)を育成する。

#### 4 指導計画 (全29時間)

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)	教科の課題 発見・解決学習
1	<p><b>課題の設定</b></p> <p>日本遺産のポスターを見て、気付いたことを話し合い、小路について知っていることを出し合う。(1)</p>	<p>このポスターの場所を知っているよ。日本遺産のポスターに何で小路が使われているのかな。小路の魅力って何かな。</p>	<p>クラスでの話し合いを通して、小路の場所について興味をもっている。【主体性・積極性】(ワークシート)</p>	
	尾道の小路の魅力って何だろう。			
	<p><b>情報の収集</b></p> <p>尾道の小路の場所や名称について商店街を歩いて確かめる。(4)</p>	<p>尾道には、小路がたくさんあるな。それぞれに違う名前がついているな。小路にはそれぞれ特徴があるな。</p>	<p>小路を歩いてみて発見したことや疑問に思うことを積極的に見つけている。【主体性・積極性】(ワークシート)</p>	
<p><b>整理・分析</b></p> <p>調べて分かったことを地図上に整理したり、交流したりする。(1)</p>	<p>お地藏さんや井戸がある小路もあったよ。小路によって幅や長さが違ったよ。自分はこの小路が好きだな。</p>	<p>調べて分かったことや気付いたことを交流している。【主体性・積極性】(ワークシート)</p>		

<p><b>課題の設定</b></p> <p>尾道に小路が多い理由や名前の由来などについて疑問をもち、学習課題を設定する。(1)</p>	<p>小路の名前や様子がわかった。リーフレットを作って小路を知らない人たちに伝えよう。魅力が伝わるにはどんな情報を載せたらいいかな。</p>	<p>小路に関する疑問を考え、学習課題を設定している。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)</p>	
<p>尾道の小路の魅力を伝えるリーフレットをつくろう。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小路の名前にはどんな由来があるのだろうか。(由来)</li> <li>・小路はいつできたのだろうか。(歴史)</li> <li>・どうしてたくさんの小路があるのだろうか。(役割)</li> <li>・小路の幅や長さはどのくらいなのだろうか。(道や幅)</li> <li>・それぞれの小路にどんな特徴があるだろうか。(豆知識)</li> <li>・小路にはどんなお店や建物があるのだろうか。(お店や建物)</li> </ul>			
<p>情報収集するための方法を話し合う。(1)</p>	<p>インターネットや本で調べるといいと思う。過去の4年生が調べた資料を使おう。地域の人にインタビューするとわかるかな。</p>	<p>調査をするために、役割分担や方法などを考えている。【主体性・積極性】(ワークシート)</p> <p>課題を解決するために、必要なことについて適切にメモを取っている。【知識及び技能】(ワークシート)</p>	<p>国語科 「たしかめながら話を聞こう」(4)で話の内容を確かめながらメモする力を育てる。</p>
<p><b>情報の収集</b></p> <p>インターネットや本などの資料を使ったり、地域の方々にインタビューしたりして情報を収集する。尾道の歴史や小路に詳しい方から話を聞いたり質問したりする。(5)</p>	<p>名前が付いている小路はやはり理由があったんだな。お寺や神社への参道としてできた小路もあるんだな。おもしろい民話もある。</p> <p>すごい！豊臣秀吉も小路を通っているんだ！研師がいたから研屋小路という名前が付いているんだ。お寺や神社に行くために小路ができたんだな。</p> <p>でも、地域の人に聞いてみただけ、小路のことを詳しく知らない人が多いぞ。観光客は小路自体知らない人もいたぞ。</p>	<p>収集した情報を整理している。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)</p> <p>整理したことから小路に関する地域の問題を考えている。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)</p>	<p>国語科 「お願いやお礼の手紙を書こう」(4)で目的に合わせて手紙を書く力を育てる。</p>
<p><b>整理・分析</b></p> <p>情報を収集して分かったことを整理する。(1)</p>			<p>国語科 「広告を読みくらべよう」(8)で文章を読み比べ、目的に合わせた表現の違いを読み取る力を育てる。</p>
<p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>グループで試しに1つ小路を選んで、実際にリーフレットを作り、地元の人に配ったりお店に置かせてもらったりする。(4)</p>	<p>尾道の街の特徴である小路をたくさんの人にもっと知ってほしいな。このことを地域の人や観光客に広めたい。</p>	<p>調べたことの中から、伝えたいことを考えて、分かりやすく表現している。【思考力・判断力・表現力等】(ワークシート)</p>	
<p><b>課題の設定</b></p> <p>自分達で作ったリーフレットに対して地元の人や観光客の反応を知り、課題を考える。(1)</p>	<p>小路のことはよく分かったという意見が多い。小路の魅力が伝わったといえるのだろうか。やはり実際に行ってもらわないと伝わったとは言えない。</p>	<p>調査の結果から、新たな学習課題を設定している。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)</p>	
<p>地元の人や観光客に小路の魅力が伝わるには、小路のことを知ってもらうだけではなく、実際に行ってもらうことが大切だ。小路に行ってみたいと思うようなリーフレットに改善しよう。</p>			

三	<p><b>整理・分析</b></p> <p>小路に行ってみたくも思ってもらえなかった原因を分析し、解決策を考える。 (1) 本時(20/29)</p>	<p>リーフレットにどんな情報を載せたら小路に行ってみたくと思うのだろう。 小路の魅力を伝えるキャッチフレーズがあるといいな。 小路に行くのと役に立つ情報やその小路にあるきれいな景色やすごい物やおいしいお店の情報を伝えると行ってみたいと思ってもらえるな。 QRコードを活用してリーフレットに入りきらなかった情報を載せよう。</p>	<p>目的意識や相手意識をもって、リーフレットの内容の改善策を考えている。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)</p>
	<p><b>情報の収集</b></p> <p>課題を解決するために、もう一度小路を調査しよう。(2)</p>		<p>課題を解決するために、目的意識や相手意識をもって調査することができる。【主体性・積極性】(ワークシート)</p>
	<p><b>まとめ・表現</b></p> <p>リーフレットを書く(4)</p>	<p>よく分かってもらえたところはそのまま、行ってみたいと思ってもらえることを工夫して書こう。</p>	<p>伝えたいことを中心に考えて、分かりやすく表現している。【思考力、判断力、表現力等】(ワークシート)</p>
	<p><b>実行</b></p> <p>役割を決め、あいさつの練習をする。(1)</p> <p>リーフレットのお願いに行く。(1)</p>	<p>言葉遣いやあいさつには気を付けよう。</p>	<p>友だちの意見を取り入れリーフレットを作成している。【主体性・積極性】(ワークシート)</p>
	<p><b>ふりかえり</b></p> <p>単元で身に付いた力と学び方を振り返り、自分の生き方を考える。(1)</p>	<p>小路の学習をして、名前の由来や小路がある理由など初めて知ったことばかりだった。小路は尾道が暮らしやすくなるために作られたり、古い歴史があったり、あまり小路については知られていないことがわかったので、これからは僕たちが小路のことを伝えていきたい。</p>	<p>尾道市民として、学習を通して、これからの自分の生き方や生活に生かしたいことを考えている。【尾道市民としてのアイデンティティ】(ワークシート)</p>

## 5 本時の展開 (20/29)

### (1) 本時の目標

目的意識や相手意識をもって、リーフレットの内容についての改善策を考えることができる。

### (2) 観点別評価規準

目的を達成するために、原因を分析して、改善策を考えている。

【思・判・表】

### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 予想される児童の反応
1 これまでの学習を想起する。	○ 前時までの学習を振り返らせる。(試しにリーフレットを作ってみたがリーフレットを見て、小路に行ってみたいと思ってもらえていない。) ○ アンケート結果を集計したものを提示し、行ってみたいと思わなかった数を表にして実感させる。	
2 めあてを設定する。	○ 本時で何を学ぶのか全体で確認する。	このままでは、地元の人や観光客に小路に行ってみようと思ってもらえない。どうすればいいのかを話し合えばいい。
3 見通しをもつ。	より魅力が伝わるリーフレットにするために、どの情報を改善すればよいか考えよう。	2つの条件に当てはまる情報を改善すればいいな。
4 個人で考える。	○ 座標軸による分類の仕方を紹介し、軸を何にするか確かめる。 ・小路の魅力を伝えるために必要 ・行ってみたいと思わせるために必要 ◆ 本時でどんな力を付けたいかコンピテンシー表を見て確認させる。	地元の人には小路に何か役に立つ物、観光客には、その小路にあるすごい物やおいしいお店の情報があると行ってもらえると思うな。
5 グループで考える。	○ 個人の意見を各グループで話し合い、考えをまとめる。	道の幅や長さは実際に行ってもらえば分かることだから改善の必要はないな。
6 全体で考える。	○ 全体でリーフレットの改善が必要な情報について話し合う。	目的を達成するために、原因を分析して、改善策を考えている。 【思・判・表】
7 まとめる。	小路に行ってもらうために必要な情報を書き直したり付け加えたりして、もう一度リーフレットを作り直す。もう一度小路に調査に行く。	今すぐには解決できない問題もあるな。もう一度、小路に行つて調査が必要だ。
8 振り返る。	○ 課題を解決するために、これからどんな学習をしなければならないか個人やグループでめあてをもたせる。 ○ これからの学習について発表させる。	小路に行ってもらうためには、地元の人や観光客の反応を見て、もっと相手のことを知って相手が行ってみたいと思う小路の情報をリーフレットに書く必要があることが分かりました。
	○ 話し合ったことを基に、自分たちのグループが行う表現方法を定める。 ○ 今日の授業でどんな力が付いたか、考えの変容などをコンピテンシー表に書かせる。	

# 「これな～んだ！」 ～楽しくやりとりしよう～

本題材で育成する資質・能力

コミュニケーション

## 1 児童観

本学級は、6年男子1名、1年女子1名の計2名の自閉症・情緒障害特別支援学級である。

本学級の児童は、自立活動や交流学級での活動を通して、友達との関わり方について学習を積み重ねてきている。また、すみれ学級と合同で自立活動を行う機会も計画的に設定している。

4月当初の二人の様子は、ごちなく、お互いどのように接すれば良いか分からないようであった。特に6年生は、1年生に何を教えてあげれば良いか分からず、自分から話しかけることは、ほとんどなく、担任から指示されたことを伝えるだけであった。しかし、二人で行う自立活動やモジュール、授業中の関わりを通して、6年生から声をかける機会が増えてきた。そのため、お互い、さくら学級では、落ち着いて学習活動に取り組むことができている。その一方で本学級の児童は、友達と上手く言葉のキャッチボールをすることが苦手で、自己肯定感が低い児童や興味や関心の幅が狭く、他者への関心が低いことから、相手とのコミュニケーションの取り方について課題がある。

「ジェスチャーゲーム」を行った時の1年生は、絵カードの生き物の動きを体でどのように表現したらよいか分からない不安と人前で表現することへの恥ずかしさから、しゃがみこみ、1問目は、出題することができなかった。そして、「絵描きクイズ」を行った時の6年生は、1年生に「さ」や「い」の付くものとして「山陽」を表す地図をかいたり、「インゲン豆」をかいったりしたため、1年生には、問われた内容が難しく答えることができなかった。

個々の児童の様子は次の通りである。

A児 (1年)	一緒に楽しく遊びたい気持ちはあるものの、ルールが理解できず一緒に遊ぶことができなかったり、上手くできなかったりした過去の経験による成功体験の少なさから、自分にはできない、できないかもしれないという否定的な見通しが先行しやすい。そのため、自己肯定感が低い傾向にあり、友達と関わることに不安を感じやすい。しかし、活動に慣れ、見通しがもてると、安心して活動に参加できるようになってきている。
B児 (6年)	自分が興味・関心をもっている事柄については、喜んで話したり、尋ねたりすることができ、話を聞くこともできる。また、好きな活動に対して意欲的に取り組むこともできる。その反面、夢中になると、一方的な話や単独行動になりやすい傾向にある。自分と相手それぞれが得ている知識や情報量、興味・関心に差があること等、相手の立場に立って考えることが苦手である。また、相手に伝えたい思いや関わりたい思いがある一方で、自分の思いを相手に分かりやすく、順序立てて話すことが苦手なため、同学年児童とのコミュニケーションが取りにくい。

## 2 題材について

○ 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の次の項目を受け、児童の実態をふまえて設定している。

### 2. 心理的な安定

(1) 情緒の安定に関すること。(A児)

### 3. 人間関係の形成

(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。(A児)

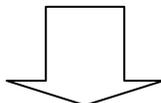
(2) 他者の意図や感情の理解に関すること。(B児)

### 6. コミュニケーション

(2) 言語の受容と表出に関すること (B児)

### (1) 題材観

本題材では、簡単なゲームを通して、コミュニケーションの基礎となる「自分の考えを話す」「相手の話を聞く」の力を身に付けることをねらいとする。連想ゲームは、人とかかわる楽しさを味わうことができるだけでなく、自分の考えが人に伝わる喜びを経験することができる。また、相手に分かりやすく伝えるためには、物の特徴を表す言葉を選ぶことが大切だと気づき、成功体験をすることで、自分の考えを相手に伝える喜びや楽しさを味わうことができる考える。



### (2) 指導観

本題材では、まず、児童がお互いに馴染みのある生き物や食べ物題材とした絵カードを活用することで意欲を喚起するとともに視覚的に分かりやすくし、自信をもって物を表現する言葉が使えるようにする。

そして、担任がデモンストレーションを行い、ルールの確認を十分行うことで児童が見通しをもち、安心して活動に取り組むことができるようにする。

また、自分の考えを伝える際には、ワークシートを用意し、思考を整理したり、伝える内容をあらかじめ書き留めたりして安心して出題できるように、解答方法を個に応じた工夫する。

このような学習を通して、相手に伝えるために言葉を選んだり、順序立てて説明したりすると、自分の考えが相手に伝わり、理解してもらえたという成功体験を積み重ね、自己評価を高めることにつながっていきたい。さらに、自分の言葉で伝えることへの自信をコミュニケーションの資質・能力の向上を図ることにもつなげていく。

### (3) 題材でめざす児童の姿

A児 (1年)	ゲームの進め方やルールの説明を落ち着いて聞き、安心して人と関わる。
B児 (6年)	聞き手側がイメージしやすい出題の仕方や言葉の選び方を考え、一緒に楽しくゲームをする。

### 3 題材の評価規準

A児 (1年)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ゲームの進め方やルールを理解し、安心してゲームに参加することができる。</li><li>・問題のヒントを3つ考えたり、間違いを恐れずに答えたりすることができる。</li></ul>
B児 (6年)	<ul style="list-style-type: none"><li>・出題の順番や言葉の難易度を考え、相手が楽しめるヒントを考えることができる。</li><li>・ヒントを出すタイミングを相手の様子を見ながら行うことができる。</li></ul>

### 4 本題材において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本題材では、相手に当ててほしい物の名前を3つのヒントを出すことで答えてもらったり、自分が答えたりするゲーム活動を行う。このゲームを行うには、ルールを理解し、相手と楽しもうとする気持ちや相手を意識した出題の仕方が必要である。これは、学校生活においてコミュニケーションの力を身に付けることに繋がると考える。

## 5 指導計画（全3時間）

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一 表現の仕方を工夫しよう	<p><b>課題の設定</b></p> <p>表現の仕方を考える。(1)</p> <p>自分が持っている物を相手に見せないで、何であるかを当ててもらうには、どんな表現方法があるか考える。</p>	<p>相手に物の名前を言わないで、自分が持っている物を当ててもらうには、どんなことを伝えたらいいかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色や形</li> <li>・何をするための物</li> <li>・大きさなど</li> </ul>	
	<p><b>情報の収集</b></p> <p>スリーヒントゲームの仕方を知る。(1)</p>	<p>ゲームをおもしろくするためには、3つのヒントで当ててもらおう。</p> <p>どの順番でヒントを出せばいいかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、何の仲間か話そう。</li> <li>・次に、形や色、大きさなどを話そう。</li> <li>・最後に1番分かりやすい特徴を話そう。</li> </ul> <p>聞き取れなかったときは、どうすればいいかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「もう一度言って下さい。」とお願いする。</li> </ul>	<p>A児 ゲームの進め方やルールを理解し、安心してゲームに参加することができる。</p> <p>【心理的な安定2-(1)】 (行動観察・ワークシート)</p> <p>B児 出題の順番や言葉の難易度を考え、相手が楽しめるヒントを考えることができる。</p> <p>【人間関係の形成3-(2)】 (行動観察・ワークシート)</p>
二 スリーヒントゲームをしよう。	<p><b>整理・分析</b></p> <p>スリーヒントゲームを行う。(1)(本時3/3)</p> <p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>ゲームが楽しくできた理由を考える。</p> <p><b>ふりかえり</b></p> <p>自分の目標が達成できたかふりかえる。</p>	<p>ゲームを面白くするためには、どんなことからヒントを出したらよいだろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①何の仲間か(食べ物・虫・動物)</li> <li>②大きさや色や形</li> <li>③1番分かりやすい特徴</li> </ol> <p>ヒントを出す人の話し方はどんな話し方をするとよいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はっきり、ゆっくりと話そう。</li> </ul> <p>答える人は、最後までヒントを聞いてから答えよう。</p> <p>楽しくゲームをするために大切なこととは何だろう。</p> <p>ルールは守る。</p> <p>ヒントを出す順番や話し方に気を付ける。</p> <p>間違えても大丈夫。</p> <p>3つのヒントを考えたり、答えたりすることが楽しくできた。</p> <p>ヒントの出し方を工夫したり、分からないときには、質問したりすることができた。</p>	<p>A児 クイズのヒントを3つ考えたり、失敗を恐れずに答えたりすることができる。</p> <p>【人間関係の形成3-(1)】 (行動観察・ワークシート)</p> <p>B児 相手の様子を見ながらヒントを出したり、3つのヒントで分かりにくいときには、質問をしたりすることができる。</p> <p>【コミュニケーション6-(2)】 (行動観察・ワークシート)</p>

## 6 本時の展開（3/3時間）

### (1) 本時の目標

A児…スリーヒントゲームのルールが分かり、ゲームを通して、友達とやり取りをすることができる。

【人間関係の形成3-(1)】

B児…聞き手の様子を把握し、相手に分かりやすく伝えたり、質問したりすることができる。

【コミュニケーション6-(2)】

**(2) 観点別評価規準**

A児…クイズのヒントを3つ考えたり、失敗を恐れずに答えたりすることができる。

【人間関係の形成3-(1)】

B児…相手の様子を見ながらヒントを出したり、3つのヒントで分かりにくいときには、質問したりすることができる。

【コミュニケーション6-(2)】

**(3) 学習の展開**

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆) 予想される児童の反応	評価規準 (評価方法)
1 ウォーミングアップゲームを行う。 ・「さわってさわって何でしょう」	○ 物の特徴を考えることがポイントであることを伝える。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">どんなカードかな。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 100px;">どんなヒントを出そうかな。</div>	
2 本時の学習課題をつかむ。	○ 学習活動を提示し、めあてと本時の活動を明確にする。 ◆ タイムスケジュールを示し、見通しをもたせる。	
<b>スリーヒントゲームをしよう。</b>		
3 自分のめあてを確認する。	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">A児</p> <p>クイズのヒントを3つ考えたり、クイズに答えたりする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">B児</p> <p>相手の様子を見ながらヒントを出したり、質問したりする。</p> </div> </div>	
4 スリーヒントゲームの仕方を見る。	<p>○ 例を示した後、ルールの確認をする。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">すぐに答えが分かるヒントは3つ目に出した方がよかったよね。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">1つ目は、何の仲間なのか伝えるんだよね。</div> </p> <p>◆ ワークシートを拡大した物を掲示し、記入しながらヒントの出し方を示す。          ◆ 答えるときには、最後までヒントを聞いてから答えるルールを確認する。          ◆ 話すときのポイントについて押さえておく。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">はっきり、ゆっくり</div> </p> <p>○ 3つのヒントで答えられなかったときのことを想定し、対処法を考えさせる。          ◆ B児からA児へのヒントの追加希望が考えられるが、A児にヒントが考えられない場合は、B児に質問することもできると助言する。</p>	<p>A児 クイズのヒントを3つ考えたり、失敗を恐れずに答えたりすることができる。 【人間関係の形成3-(1)】 (行動観察・ワークシート)</p> <p>B児 相手の様子を見ながらヒントを出したり、3つのヒントで分かりにくいときには、質問をしたりすることができる。 【コミュニケーション6-(2)】 (行動観察・ワークシート)</p>
5 スリーヒントゲームをする。	<p>○ 相手に出題するヒントをワークシートに書き、出題は、交代で行う。          ◆ ワークシートは個に応じたものにする。          ◆ A児の様子を確認し、ヒントが考えにくいようであればサポートする。          ◆ 聞き取れなかったことや答えが分からないときは、勇気を出して相手にお願 いすることが大切であることを助言する。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">「もう一度言って下さい。」とお願ひすればいいんだ。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">「分からないので、もう1つヒントをください。」とお願ひしよう。</div> </p>	
6 まとめとふりかえりをする。	<p>○ ゲームを一緒に楽しく行うために大切なことは何か考える。          ◆ ルールを守ることやヒントの出し方を工夫することは、お互いが楽しむために大切なことだと伝える。          ○ 自分のめあてが達成できたかふりかえる。          ◆ 3つのヒントで答えられなかったり、誤答があったりしても楽しくゲームをすることができたことを肯定的に評価する。          ◆ 児童の自己評価に加え相互評価を発表させることで、満足感をもたせる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・3つのヒントを考えるのは、少し難しかったけれど、答えを考えるのは、楽しくできた。              ・ヒントの出し方を工夫したり、分からないときには、質問したりすることができた。              ・当ててくれて、うれしかった。</p> </div>	



## どうすれば伝わるかな ～読む人にとって分かりやすい文章を書こう～

本題材で育成する資質・能力

表現力・コミュニケーション

### 1 児童観

本学級は、4年女子2名、6年女子1名の計3名の聴覚障害特別支援学級である。

#### 資質・能力に関する実態

本学級の児童はこれまで、聴覚障害の特性ゆえ、読む人の立場に立って文章を書くことに課題があった。そのために、まず、作文や授業のふりかえりなどで自分の考えを言葉や文章で伝えることに重点を置いて授業をしてきた。少しずつ読む人に伝わるように書こうとする様子が見られるようになってきたが、自分の考えていることや気持ちを相手の立場に立って考えられず、自分目線で話したり書いたりすることがある。また、書き手の意図を十分考えないまま、思い込みで内容を理解することがある。

個々の児童の様子及び聴力レベルは次の通りである。

児童の様子		平均聴力レベル 着用閾値	
A児 (4年)	他者の感情や様子について具体的に書き表すこと	右	70.0 dB
	より魅力的な文章が書けるようになることを目指している。そのために、たくさん本を読み、主体的に様々な文にふれていくことが必要である。	左	18.8 dB (補聴器)
			60.5 dB (補聴器)
B児 (4年)	言葉の意味に関心が高く、意欲的に辞書で調べているため語彙が豊富である。しかし、文章を書くとき、自分の思いや感じたことを書き連ねるだけの文章になりがちである。また、独特な言い回しを使う傾向がある。	右	62.5 dB
		左	37.5 dB (補聴器)
		52.5 dB (補聴器)	30.0 dB (補聴器)
C児 (6年)	あったことやその時の感情を文章にすることはできず、相手の立場に立って様子や感情を表す言葉を選んだり、文章に書き表したりすることが苦手である。	右	101 dB
		左	46.5 dB (補聴器)
		100 dB (人工内耳)	23.8 dB

### 2 題材について

○ 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の次の項目を受け、児童の実態をふまえて設定している。

#### 6. コミュニケーション

(3) 言語の形成と活用に関すること (A児)

#### 6. コミュニケーション

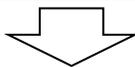
(2) 言語の形成と活用に関すること (B児)

#### 3. 人間関係の形成

(2) 他者の意図や感情の理解に関すること (C児)

### (1) 題材観

本題材では、自分が書いた作文を推敲することで、読む人にとってより分かりやすい文章を書くことができるようになることを目指す。そこで、意図が分かりづらい作文を読ませ、読み手の立場に立って不十分な部分に気付かせ、添削させる。さらに、自分が書いた作文を読み直し、自分が伝えたいことを相手に分かりやすく伝えるためには、どのような言葉を用いてどのような文章にすればよいかを考えて推敲させることで、表現力の向上を目指す。また、推敲した文章を発表し合うことで、お互いの改善した部分に気付かせ、肯定的評価をし合うことで達成感を味わうことができると考える。



### (2) 指導観

本題材では、まず、意図が分かりづらい文章を読むことで、文章の分かりづらさを実感させる。なぜ分かりにくいのか、どうすれば分かりやすい文章になるのか、伝わる文章を書くためのポイントに気付けるようにする。

そして、今まで書いた自分の作文を読み返し、改善の余地がある作品を選び、見つけたポイントを意識してその作文を推敲する。推敲する前の文章と推敲した後の文章を発表し合い、お互いのよくなったところを伝え合う活動を行う。また、作文を推敲する際には、5W1Hなど（ナンバリング、比喻表現、まとめる言葉）の分かりやすい文章にするためのポイントを提示し、確認しながら文章を書き直せるようにする。

このような学習を通して、自分が伝えたいことが文章で伝わる喜びを感じることで、書くことに意欲的に取り組めるようにしていきたい。

### (3) 題材でめざす児童の姿

A児 (4年)	文章表現の技法を知り、文章を書く活動に生かす。
B児 (4年)	伝えたいことを読む人の立場に立って、文章を書く。
C児 (6年)	自分の思いや考えを書き表すことに興味をもち、文章表現することに意欲をもつ。

## 3 題材の評価規準

A児 (4年)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 分かりやすい文章にするためにどうすればよいか説明できる。</li><li>・ 比喻表現などを用いた文章に改善することができる。</li></ul>
B児 (4年)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 分かりやすい文章にするための改善点を見付けることができる。</li><li>・ 簡潔で分かりやすい文章に書き直すことができる。</li></ul>
C児 (6年)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 分かりやすい文章にするための改善点を見付けることができる。</li><li>・ 5W1Hを使った文章に書き直すことができる。</li></ul>

## 4 本題材において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本題材は、自分が書いた作文を推敲する活動を通して、言語を受容し表出する力を育成することに繋がる。また、推敲した作文を交流し合い、お互いの改善点を伝え合うことを通して、多様な相手の考えを理解しようとするコミュニケーション力を育成できると考える。

## 5 指導計画（全3時間）

次	学習活動	児童の思考の深まり	評価規準 (評価方法)
一 なぜ分りにくいのか考えよう	<p><b>課題の設定</b></p> <p>例文を読んでより分かりやすい文章にするにはどうすればよいかを考える。(1)</p> <p><b>【本質的な問い】</b> どうすれば読んだ人に思いが伝わるかな。</p>	どうすれば分かりやすい文章になるかな。	<p>A児 文章が伝えたいことを推測し、分かりやすい文章にするためにどうすればよいか説明できる。 【コミュニケーション6－(3)】(行動観察・ワークシート)</p> <p>B児 文章を分かりやすくするためにどうすればよいか改善点を見付けることができる。 【コミュニケーション6－(2)】(行動観察・ワークシート)</p> <p>C児 どうすれば分かりやすい文章が書けるのか理解することができる。 【人間形成3－(2)】(行動観察・ワークシート)</p>
二 文章を推敲しよう	<p><b>情報の収集</b>      <b>整理・分析</b></p> <p>自分が書いた作文を推敲する。(1)</p>	この書き方だと読む人には分りにくいんじゃないかな。	<p>A児 さらに魅力ある文章にするためにどうすればよいか考えることができる。 【コミュニケーション6－(5)】(行動観察・ワークシート)</p> <p>B児 分かりやすい文章になるように、推敲をすることができる。 【コミュニケーション6－(2)】(行動観察・ワークシート)</p> <p>C児 5W1Hを意識して、推敲することができる。 【人間形成3－(2)】(行動観察・ワークシート)</p>
三 分かりやすい文章にしよう	<p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>自分の作品を推敲し、交流する。(1) (本時3／3)</p> <p><b>ふりかえり</b></p> <p>自分の目標が達成できたかふりかえる。</p>	5W1Hを意識することと、相手の立場になって文章を書くことが大切なんだね。	<p>A児 比喩などを使い、気持ちや様子を詳しく表した文章に改善することができる。 【コミュニケーション6－(5)】(行動観察・ワークシート)</p> <p>B児 簡潔で分かりやすい文章に改善することができる。 【コミュニケーション6－(2)】(行動観察・ワークシート)</p> <p>C児 5W1Hを適切に使った文章に改善することができる。 【人間形成3－(2)】(行動観察・ワークシート)</p>

## 6 本時の展開（3／3時間）

### (1) 本時の目標

A児・・・比喩表現などを用いて様子や気持ちを書くことができる。

【コミュニケーション6－(3)】

B児・・・簡潔で分かりやすい文章を書くことができる。

【コミュニケーション6－(2)】

C児・・・5W1Hを意識して文章を書くことができる。

【人間関係の形成3－(2)】

### (2) 観点別評価規準

A児・・・比喩などを使い、気持ちや様子を詳しく表した文章に改善することができる。

【コミュニケーション6－(3)】

B児・・・簡潔で分かりやすい文章に改善することができる。

【コミュニケーション6－(2)】

C児・・・5W1Hを適切に使った文章に改善することができる。

【人間関係の形成3－(2)】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する児童への支援 (◆) 予想される児童の反応	評価規準 (評価方法)
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>2 各自のめあてと今日のめあてを確認する。</p> <p>3 文章を書き直す。</p> <p>4 書き直した文章を発表し合う。</p> <p>5 ふりかえりをする。</p>	<p>○ 推敲しがいのある改善できることが多い作文を児童が選んでいることを確認する。</p> <p>○ 学習活動を提示し、めあてと本時の活動を明確にする。</p> <p>◆ タイムスケジュールを示し、見通しをもたせる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">自分の作文をレベルアップさせよう。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">どうしてこの文章は分かりにくいのだろう。</div> <p>A児 <span style="margin-left: 100px;">B児</span> <span style="margin-left: 100px;">C児</span></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>①め</p> <p>様子や気持ちをくわしく書こう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>伝えたいことの要点をしぼった文章を書こう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>分かりやすい文章のポイントを意識して書こう。</p> </div> </div> <p>○ 自分の作文を読み直させ推敲させる。</p> <p>◆ 分かりやすい文章にするためのポイント (5W1H, ナンバリング, 比喩表現, まとめる言葉) を提示し、確認しながら文章を書き直させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">①誰が②いつ③どこで④何を⑤なぜ⑥どのように</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">5W1Hが分かりやすい文章のポイントだったね。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">読む人の気持ちになって、書き直してみよう。</div> <p>○ お互いの文章について、書き直す前よりよくなったと思うところを伝え合うようにする。</p> <p>◆ C児には発表することへの抵抗感を軽減するため、発表の順番を最後にする。</p> <p>◆ 推敲した文章とする前の文章を比べやすいように、実物投影機などで作文を見せながら発表できるようにする。</p> <p>◆ お互いの書き直した文章について、真似したいと思ったところやよくわかるようになったところを短い言葉でメモをとるよう助言する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 30%;"> <p>・・・があることで、分かりやすい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 30%;"> <p>□□が詳しくなっていた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 30%;"> <p>△△を真似してみたい。</p> </div> </div> <p>○ 自分のめあてが達成できたかをふりかえる。</p> <p>◆ ふりかえりシートを用意し、自己評価させる。</p> <p>◆ 友達のよかったところを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">読む人の気持ちになって、文章を書き直すことができました。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">○○さんの書き直した文章は、5W1Hを意識して書けているところがよいと思います。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">読む人の気持ちになって、文章を書き直すことができました。</div> <p>◆ 担任から肯定的評価を行い、書く活動への意欲をもたせたい。</p>	<p>A児</p> <p>○ 比喩などを使い、気持ちや様子を詳しく表した文章に改善することができる。 【コミュニケーション6-(3)】 (行動観察・ワークシート)</p> <p>B児</p> <p>○ 簡潔で分かりやすい文章に改善することができる。 【人間関係の形成3-(4)】 (行動観察・ワークシート)</p> <p>C児</p> <p>○ 5W1Hを適切に使った文章に改善することができる。 【人間関係の形成3-(2)】 (行動観察・ワークシート)</p>

## 令和2年度 御指導いただいた先生方

文部科学省 国立教育政策研究所  
教育課程研究センター 研究開発部  
比治山大学・比治山大学短期大学部  
広島大学

福岡教育大学 教育学部

福岡教育大学 教育学部

広島県東部教育事務所

広島県立尾道特別支援学校

広島県立尾道特別支援学校

尾道市教育委員会の先生方

教育課程調査官 笠井 健一 先生

副学長  
名誉教授 林 武広 先生

教授 河野 智文 先生

准教授 岩田 耕司 先生

指導主事 兼永 正彦 先生

教育相談主任 井桁 陽介 先生

教育相談主任・地域支援部長 新林 美穂 先生

## 令和2年度研究同人

宮本 佳宏	石川 智子	岡 明美	綿貫 岳人
赤羽 夏美	豊岡 宏望	重光 泰徳	萬代 早紀
池田 翔太	灰垣 亜希子	亀本 拓朗	谷川 友弥
菅方 賢司	黒飛 美稲	田邊 日向子	中村 沙織
東 裕子	平本 まゆみ	杉原 望	島本 佳代子
牧元 藍	祇山 有希子	中谷 稔	岡田 陽子
石田 博子	魚谷 壽眞子	貝川 充洋	柏原 ひとみ
Marie Wyatt	木附 尚子	鵜野 亜紀子	